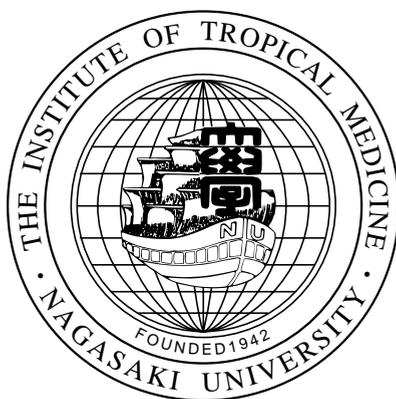


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覽

平成15年度
(2003)



長崎大学熱帯医学研究所

平成16年(2004) 11月

長崎大学熱帯医学研究所

総合目標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

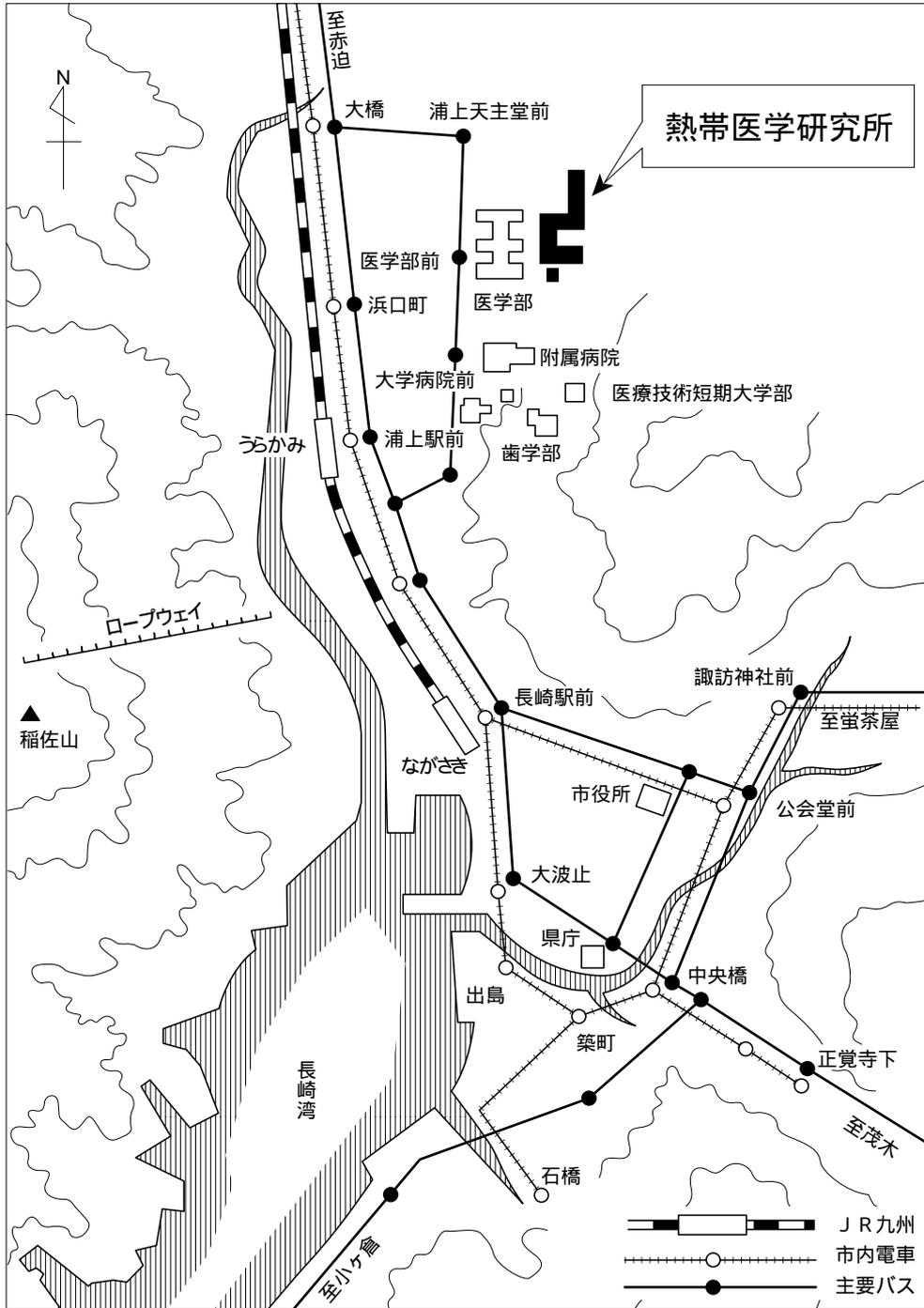
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

- 1．熱帯医学及び国際保健における先導的研究
- 2．研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
- 3．上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4 (〒852-8523)
 電話 095-849-7800 (総合案内)
 敷地面積 3,305m²
 建物面積 延8,354m²

新築年月 昭和36年(1961)3月
 増築年月 昭和42年(1967)2月
 増築年月 昭和55年(1980)3月
 増築年月 昭和60年(1985)8月
 増築年月 平成6年(1994)3月
 増築年月 平成15年(2003)3月

序

長崎大学熱帯医学研究所は、昭和17年に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され、沿革に記載された経緯の後、昭和42年に「熱帯医学に関する学理および応用の研究」を設置目的とする長崎大学附置熱帯医学研究所となった。以後今日まで、日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活躍してきた。平成元年に医学系国立大学附置研究所として初の共同利用研究所に、平成6年度には大部門制に改組され、平成7年度には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越せる研究拠点（Center of Excellence = COE）に指定された。平成13年度には文部科学省による4大学の免疫・感染症研究の連携推進体制の整備の一環として熱帯感染症研究センターが独立し、現在の組織は3大部門（11研究分野、1客員分野、1外国人客員分野を含む）、1センター、1施設、1診療科からなる。

本誌の表紙をめくった頁に研究所の総合目標 - Mission Statement - が記されている。これは平成8年度に行われた外部評価の提言に基づき研究所が平成11年5月に策定したものである。研究所は総合目標を達成するために、種々の研究教育活動を行っている。

熱帯医学研究所は研究活動の大要を昭和44年以来、年度毎にまとめて要覧として発刊している。平成11年度までは、要覧の中で最も重要な項目である研究活動の項目が、各分野毎の研究活動として紹介されていた。熱帯医学研究所の総合目標の中で最も重要な「熱帯医学及び国際保健における先導的研究」がどの様に熱帯医学研究所で行われているのかを読者に理解して貰うには、古い編集方法は適切でないと判断し、この点を改善する為、平成12年度以後の要覧の編集においては、各研究分野で行われている研究活動を主たる熱帯病毎にまとめなおして、研究活動として報告している。

平成15年7月、熱帯医学研究所と長崎大学医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻が共同で申請した「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」が21世紀COEプログラムの医学系で採択された。採択理由の一つに研究所の長年に亘る熱帯医学領域での実績があげられているので、これまでに研究所が発刊してきた要覧にも目を通していただきたい。

熱帯医学研究は熱帯病が流行する現場での研究と分野横断的・学際的研究で特長づけられる。研究所全体として、また各研究分野が総合目標を達成するためにどのような視点で、熱帯医学の研究に取り組んでいるかを、読者の方々がこの要覧をごらんになり理解していただければ幸いである。

平成16年11月

長崎大学熱帯医学研究所 所長 青木克己

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成15年度（2003）

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1	沿革	1
2	組織及び規模	3
2.1	組織	3
2.2	職員	3
2.3	経費	10
2.4	敷地と建物	10
3	共同利用研究	11
3.1	共同研究	11
3.2	研究集会	17
4	研究活動	22
4.1	マラリア	22
4.2	住血吸虫症	24
4.3	フィラリア症	26
4.4	トリパノソーマ症	26
4.5	寄生蠕虫症	30
4.6	日本脳炎およびデング熱	32
4.7	コレラに代表される細菌性下痢症	35
4.8	呼吸器感染症	35
4.9	肝炎および悪性腫瘍	36
4.10	その他世界的に問題になっている感染症	37
4.11	細胞からのアプローチ	38
4.12	社会からのアプローチ	39
5	特別事業費による事業	42
5.1	熱帯医学研修課程	42
6	文部科学省科学研究費補助金等による研究	45
6.1	文部科学省科学研究費補助金（平成15年度採択分）	45
6.2	文部科学省科学研究費補助金（平成16年度内定分）	47

6.3	受託研究費（平成15年度分）	49
7	海外活動	51
8	外国人研究者の受け入れ	60
8.1	熱帯医学研究コース	60
8.2	平成15年度に受け入れた外国人研究者	61
9	研究成果の発表状況	64
9.1	研究業績	64
9.2	学会発表演題	76
9.3	国際会議における研究活動	87
9.4	報告書等印刷物	92
9.5	熱帯医学研究所集談会	93
10	講演会	95
10.1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	95
10.2	熱帯医学研究所教官による講演	98
11	主要な研究設備	114
12	刊行物	115

1 沿 革

昭和17年 3月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和53年 4月	熱帯医学研修課程の新設
昭和20年 8月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和54年 4月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格
昭和21年 4月	長崎医科大学風土病研究所に改称	昭和55年 3月	本館の第二次増築竣工
昭和21年 5月	諫早市に移転し、研究活動再開	昭和58年 4月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設
昭和24年 5月	新制長崎大学に附置され、長崎大学附置風土病研究所に改称	昭和59年 4月	原虫学部門の増設
昭和32年 7月	諫早大水害により、施設、機器、研究資料等に壊滅的な被害	昭和60年 8月	本館の第三次増築竣工
昭和34年 3月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	昭和62年 4月	病害動物学部門の増設
昭和36年 3月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成元年 4月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和36年 4月	新庁舎に移転	平成 3年 4月	感染生化学部門の増設
昭和39年 4月	疫学部門の増設	平成 6年 3月	本館の第四次増築竣工
昭和40年 4月	寄生虫学部門の増設	平成 6年 4月	大部門制に改組（3大部門12研究分野）
昭和41年 4月	ウイルス学部門の増設	平成 7年 4月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和42年 2月	本館の第一次増築竣工	平成 8年 4月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和42年 6月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成 9年 4月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和42年 6月	熱帯医学研究所内科として、医学部附属病院に設置	平成13年 4月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い、附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和49年 4月	附属熱帯医学資料室設置	平成15年 3月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和49年 4月	病原細菌学部門の増設		
昭和53年 3月	感染動物隔離実験棟竣工		
昭和53年 4月	防疫部門（客員部門）の新設		

歴 代 所 長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角 尾	晋	自 昭和17年(1942)5月4日 至 昭和20年(1945)8月22日
古 屋 野	宏 平	自 昭和20年(1945)12月22日 至 昭和23年(1948)1月23日
高 瀬	清	自 昭和23年(1948)1月24日 至 昭和23年(1948)8月31日
登 倉	登	自 昭和23年(1948)9月1日 至 昭和24年(1949)5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登 倉	登	自 昭和24年(1949)5月31日 至 昭和33年(1958)8月31日
大 森	南 三 郎	自 昭和33年(1958)9月1日 至 昭和38年(1963)11月30日
福 見	秀 雄	自 昭和38年(1963)12月1日 至 昭和42年(1967)5月31日

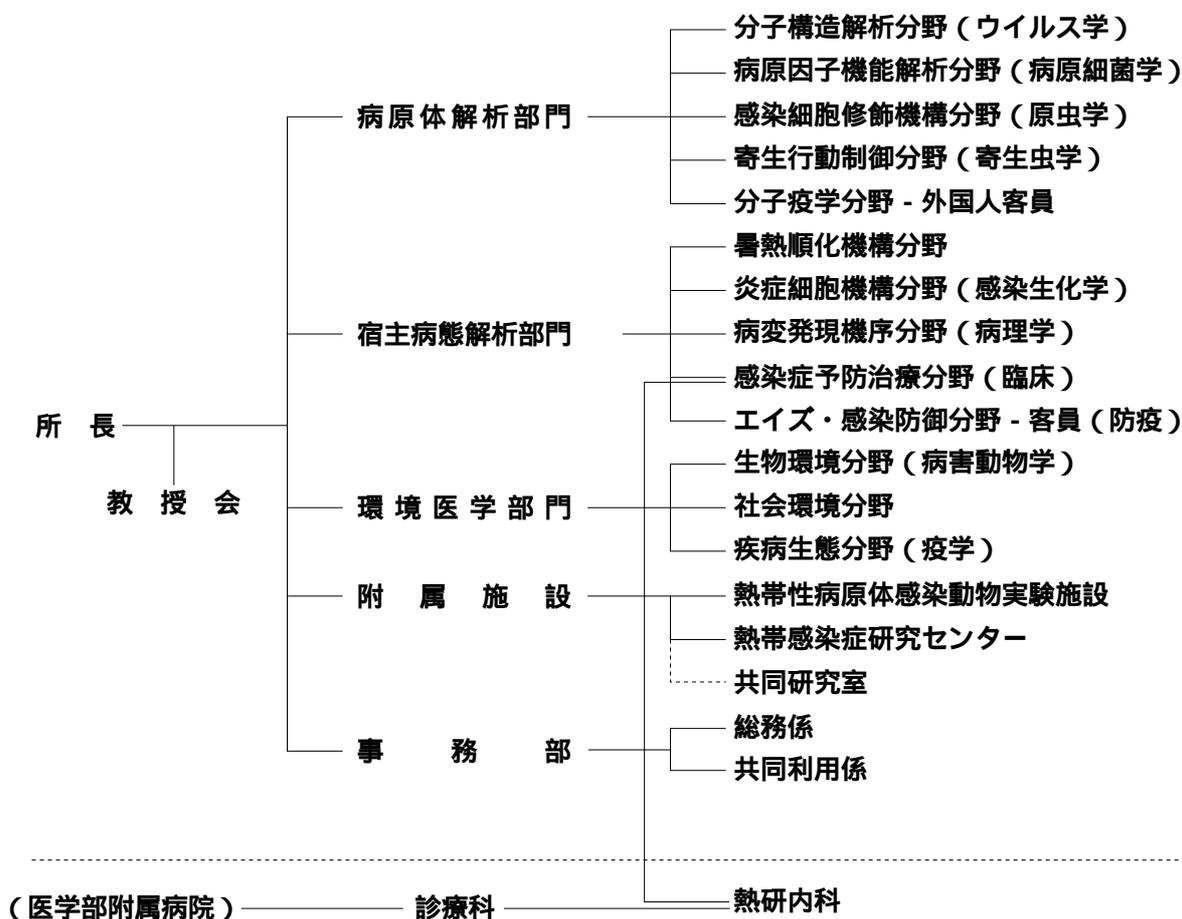
(長崎大学熱帯医学研究所)

福 見	秀 雄	自 昭和42年(1967)6月1日 至 昭和44年(1969)11月30日
片 峰	大 助	自 昭和44年(1969)12月1日 至 昭和48年(1973)11月30日
林	薫	自 昭和48年(1973)12月1日 至 昭和52年(1977)11月30日
内 藤	達 郎	自 昭和52年(1977)12月1日 至 昭和54年(1979)11月30日
片 峰	大 助	自 昭和54年(1979)12月1日 至 昭和56年(1981)4月1日
松 本	慶 蔵	自 昭和56年(1981)4月2日 至 平成3年(1991)4月1日
板 倉	英 吉	自 平成3年(1991)4月2日 至 平成5年(1993)4月1日
小 坂	光 男	自 平成5年(1993)4月2日 至 平成9年(1997)4月1日
五 十 嵐	章	自 平成9年(1997)4月2日 至 平成13年(2001)3月31日
青 木	克 己	自 平成13年(2001)4月1日 至 現 在

2 組織及び規模

2.1 組織

平成16年7月1日



()内は旧部門名を示す

2.2 職員

平成16年7月1日

1) 定員内職員

区分	教 員					その 他 の 職 員	合 計
	教 授	助 教 授	講 師	助 手	計		
定 員	12	10	0	17	39	8	47
現 員	11	4	5	19	39	9	48

2) その他の職員

外国人研究員(客員教授) 1名 COE研究員 5名 産学官連携研究員 1名
 非常勤講師 30名 COE技術員 1名 事務補佐員及び技能補佐員 29名
 研究支援推進員 8名

3) 教職員・大学院学生等氏名

所	長 (命) 教	授	医 学 博 士	青 木 克 己	
分子構造解析分野 (ウイルス学)	教 授	授 師	医 学 博 士	森 田 公 一	
	講 師	手 助	医 学 博 士	長 谷 部 休 職	
	助 手	手 助	医 学 博 士	井 上 真 吾	
			医 学 博 士	マンモハン パリダ	
		COE 研究員		アフジャル ホセイン カン	
		技能補佐員 (研究支援推進員)		山 口 知 美	
		技能補佐員 (実験助手)		城 臺 和 美	
		大学院学生		タイホン チイカム	
		大学院学生		余 福 勲	
		大学院学生		レオノラ サルダ	
病原因子機能解析分野 (病原細菌学)	教 授	授 師	農 学 博 士	平 山 壽 哉	
	講 師	手 助	理 学 博 士	和 田 昭 裕	
	助 手	手 助	医 学 博 士	江 原 雅 彦	
		技術専門職員		一ノ瀬 昭 豊	
		COE 技術員		岩 見 守	
		大学院学生		田 村 久 美	
		大学院学生		中 山 真 彰	
		大学院学生		久 恒 順 三	
	感染細胞修飾機構分野 (原虫学)	教 授	授 師	医 学 博 士	神 原 廣 二
		講 師	手 助	理 学 博 士	上 村 春 樹
助 手			医 学 博 士	中 澤 秀 介	
		COE 研究員		シュアイブ モハマトゥ ナシル	
		技能補佐員 (実験助手)		木 下 美 紀	
		技能補佐員 (実験助手)		富 丸 紅	
		大学院学生		篠 原 克 典	
		大学院学生		宮 崎 俊 雄	
		大学院学生		ファレス サンドラ イネス	
		大学院学生		パンディー キショール	
寄生行動制御分野 (寄生虫学)	教 授	授 師	医 学 博 士	青 木 克 己	
	講 師	手 助	医 学 博 士	藤 卷 康 次	
	助 手		医 学 博 士	渡 部 幹 政	
		技術専門職員		三 浦 光 政	
		技能補佐員 (実験助手)		富 永 佐 登 美	

	大学院学生				久	富	由	紀
	大学院学生				福	間	藍	子
	大学院学生				吉	居	廣	朗
	大学院学生				大	間	敬	太
	大学院学生				松	本	奈	月
診 療 科 (熱 研 内 科)	副科長(命)助教授	医	学	士	大	石	和	德
	講 師	医	学	士	渡	邊		浩
	助 手	医	学	士	山	領		豪
	助 手	医	学	士	吉	嶺	裕	之
	助 手	医	学	士	土	橋	佳	子
	医 員	医	学	士	池	田	秀	樹
	医 員	医	学	士	本	村	章	子
	医 員	医	学	士	本	田	和	嗣
	医 員	医	学	士	石	谷	正	之
	医員(研修医)	医	学	士	水		玲	子
エイズ・感染防御分野	客 員 教 授	医	学	士	山	本	直	樹
	客 員 助 教 授	医	学	士	佐	藤	裕	德
	助 手	理	学	士	久	保	嘉	直
	C O E 研究員	農	学	士	横	山		勝
	技 能 補 佐 員 (実 験 助 手)	農	学	士	富	永	知	可
技 能 補 佐 員 (実 験 助 手)	農	学	士	三	谷	千	穂	
生 物 環 境 分 野 (病 害 動 物 学)	教 授	農	学	士	高	木	正	洋
	講 師	農	学	士	川	田		均
	助 手	農	学	士	都	野	展	子
	C O E 研究員	農	学	士	砂	原	俊	彦
	産学官連携研究員	農	学	士	前	川	芳	秀
	技 能 補 佐 員 (研 究 支 援 推 進 員)	農	学	士	上	野	俊	子
	技 能 補 佐 員 (研 究 支 援 推 進 員)	農	学	士	島	袋		梢
	技 能 補 佐 員 (実 験 助 手)	農	学	士	川	島	惠	美
	事 務 補 佐 員	農	学	士	酒	本	淳	子
	大 学 院 学 生				長	谷	麻	衣
大 学 院 学 生				ト	ウ	ラ	ン	
						ブ	フ	
							ォ	
							ン	
社 会 環 境 分 野	教 授	医	学	士	溝	田		勉
	助 手	法	学	士	古	川	孝	明
	助 手	經	学	士	谷	村		晋
		理	修	士				

	技 能 補 佐 員 (研究支援推進員)		多	良	栄	子
	技 能 補 佐 員 (実験助手)		今	岡	奈 津	子
	大 学 院 学 生		鈴	木	千 鶴	子
	大 学 院 学 生		秦			亮
	大 学 院 学 生		依	田	健	志
疾 病 生 態 分 野 (疫 学)	教 授	医 学 博 士	平	山	謙	二
	助 教 授	医 工 医 獣 医 学 博 士	大	渡		伸
	助 手	医 学 博 士	菊	池	三 穂	子
	C O E 研 究 員	医 学 博 士	石	井	一	成
	技 能 補 佐 員 (研究支援推進員)	医 学 博 士	村	上		愛
	技 能 補 佐 員 (実験助手)	医 学 博 士	早	嶋	順	子
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	ラ	ワ	ン	ウ
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	ソ	ン	タ	ム
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	高	木	明	子
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	神	原	廣	二
熱 帯 性 病 原 体 感 染 動 物	施 設 長 (命) 教 授	医 学 博 士	柳		哲	雄
実 験 施 設	助 手	農 科 学 修 士	川	嶋	順	子
	技 能 補 佐 員 (実験助手)					
熱 帯 感 染 症 研 究 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長 (命) 教 授	医 学 博 士	嶋	田	雅	暁
	教 授	医 保 健 学 博 士	門	司	和	彦
	助 教 授	医 学 博 士	山	本	太	郎
	助 手	医 医 体 医 農 保 健 学 博 士	金	田	英	子
	助 手	医 学 博 士	安	高	雄	治
	技 能 補 佐 員 (研究支援推進員)	医 学 博 士	荒	木	一	生
	技 能 補 佐 員 (研究支援推進員)	医 学 博 士	崎	谷	恭	子
	技 能 補 佐 員 (実験助手)	医 学 博 士	須	田	清	美
	技 能 補 佐 員 (実験助手)	医 学 博 士	小	山	寿	文
	技 能 補 佐 員 (実験助手)	医 学 博 士	大	久	保	明
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	木	須	友	子
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	浜	田	芳	樹
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	大	野	晃	生
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	中	尾	優	子
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	中	村	禎	子
	大 学 院 学 生	医 学 博 士	蔡		国	喜
大 学 院 学 生	医 学 博 士	阿	部	朋	子	
大 学 院 学 生	医 学 博 士	中	尾	理 恵	子	

総務係員	事務職員	野田	亜美
総務係員	事務補佐員	森山	ひろみ
総務係員	事務補佐員	末永	純子
総務係員	事務補佐員	松尾	明日香
総務係員	事務補佐員	井手	悦子
総務係員	事務補佐員	須山	ひとみ
総務係員	事務補佐員	内田	悦世
共同利用係長	事務職員	坂本	保夫
共同利用係員	事務職員	橋口	文子
共同利用係員	事務補佐員	松本	由美子

2.3 経費

年度別歳出決算額（平成6 - 平成15年度）

年度	区分	人件費	物件費	合計
平成6年		391,614,944 円	264,284,909 円	655,899,853 円
"	7年	414,972,193	566,076,492	981,048,685
"	8年	423,863,566	406,226,075	830,089,641
"	9年	431,756,359	294,963,427	726,719,786
"	10年	473,414,781	412,687,773	886,102,554
"	11年	471,498,613	307,109,233	778,607,846
"	12年	450,088,155	307,804,552	757,892,707
"	13年	448,975,931	443,188,323	892,164,254
"	14年	436,287,495	446,435,378	882,722,873
"	15年	436,856,514	329,800,442	766,656,956

2.4 敷地と建物

敷地 長崎市坂本1丁目12-4 長崎大学医学部構内 3,305m²

建物

建物名称	構造	建面積m ²	延面積m ²	所在地	備考
本館	鉄筋コンクリート 3階, 1部4階建	1,716	6,296	坂本1丁目 12-4	昭36.3 建築 " 42.2 増築 " 55.3 " " 60.8 " 平6.3 "
熱帯性病原体集中研究 管理棟	鉄筋コンクリート 4階建	313	1,320	"	平15.3 建築
熱帯性病原体感染動物 実験施設	鉄筋コンクリート 3階建	198	488	"	" 53.3 新築 " 63.3 増築
薬品庫	ブロック建	19	19	"	" 47.3 新築
保管庫	プレハブハウス	133	133	"	平16.3 改築
計		2,379	8,256		

3 共同利用研究

3.1 共同研究(は研究代表者)

1. 日本脳炎ウイルス・デングウイルスのレセプターの同定 (デング熱ウイルス受容体分子の構造)

長崎大・熱研	森田 公一, 長谷部 太
静岡県立大・薬	鈴木 康夫, 左 一八

2. デング - 日本脳炎キメラウイルスの作製

長崎大・熱研	森田 公一, 長谷部 太, 井上 真吾
大分大・医	牧野 芳大
琉球大・医	只野 昌之
埼玉医科大・微	名和 優

3. フラビウイルスRNA合成機構

長崎大・熱研	森田 公一, 長谷部 太, Yu Fuxun
国立感染研	高崎 智彦, 山田堅一郎, 清水 博之

4. ヘリコバクター・ピロリの VacA 毒素に関する研究

長崎大・熱研	平山 壽哉, 和田 昭裕
千葉大・医	野田 公俊, 八尋錦之助
岡山大・医	倉園 久生, 木村 美幸
北海道大遺伝子制御研	畠山 昌則
福井大・医	東 健
長崎大・医	河野 茂
神戸大・医	青山 伸郎

5. 細菌感染におけるディフェンシンの役割

長崎大・熱研	平山 壽哉, 和田 昭裕
徳島大・医	六反 一仁, 高橋 章
長崎大・工	新留 琢郎, 青柳 東彦
帯広畜産大	牧野 壮一

6. トリパノソーマ属細胞表面の機能性蛋白について

長崎大・熱研 神原 廣二，上村 春樹，中澤 秀介，柳 哲雄
久留米大・医 福岡 利英，井上 雅広，原 樹

7. マラリア原虫の分子疫学

長崎大・熱研 神原 廣二，上村 春樹，中澤 秀介，柳 哲雄
大阪工大・工 田辺 和裕
愛媛大・医 坪井 敬文
徳島大・総合科学 大橋 真
藤田保健衛生大・医 前野 芳正
生産開発科学研 伊藤 義博

8. 腸管内感染寄生原虫の分離と保存に関する研究

長崎大・熱研 神原 廣二，上村 春樹，柳 哲雄，中澤 秀介
東海大・医 橘 裕司
神戸大・医 宇賀 昭二
金沢大・医 井関 基弘
奈良女子大・理 吉川 尚男
大阪市立大・医 寺本 勲

9. 開発途上国における土壌伝播寄生虫の伝播疫学

長崎大・熱研 青木 克己，藤巻 康教
徳島大・医 太田 房雄
愛知医大 木村 英作
神戸大・医 宇賀 昭二

10. ビルハルツ住血吸虫症の病態像：これまで注目されなかった病変

長崎大・熱研 青木 克己，渡部 幹次，藤巻 康教，嶋田 雅暁，
門司 和彦
長崎大・医歯薬 金武 洋，野俣浩一郎，野口 満
鹿児島大・多島研 野田 伸一
一橋大・社 浜本 満

11. DNA 修復機構と感染症

長崎大・熱研	中村三千男
京都大・理	米井 脩治
九州大・医	康 東天

12. リケッチア感染における食細胞 NADPH オキシダーゼ構成成分遺伝子の発現動態

長崎大・熱研	中村三千男
鹿児島大・医	小田 紘, 吉家 清貴
エフェクター細胞研	金ヶ寄史朗, 玉谷 卓也, 山内 明
静岡県立大	大橋 典男

13. エンテロウイルス感染の重症化機序の解析

長崎大・熱研	岩崎 琢也
都立神経研・微	小池 智
国立感染研	有田峰太郎, 永田 典代
国立仙台病院	西村 秀一
東京大・医	吉河 智城
京都大・附属動物実験施設	真下 智士
東海大	浅沼 秀樹
岡山大・医	荒尾雄二郎

14. 実験動物を用いたウイルス性疾患（狂犬病等）のモデル動物の開発と診断・発症機序解

明・治療への応用

長崎大・熱研	岩崎 琢也
岐阜大・農	源 宣之
都立神経研	高田 昌彦, 小池 智
国立感染研	井上 智, 高崎 智彦, 永田 典代
国立仙台病院	西村 秀一
大分大・医	西園 晃
京都大・附属動物実験施設	真下 智士
北海道大・獣	苅和 宏明
九州大・医	皆川 洋子

15. 慢性肝疾患の癌化にいたる肝組織像の変化およびウイルス学的研究

長崎大・熱研	鳥山 寛, 千馬 正敬
長崎大・医	濱崎 圭輔
長崎大・保健管理センター	中尾 一彦

16. 微生物における自然・獲得免疫機構に関する研究

長崎大・熱研	永武 毅, 平山 壽哉
長崎大・医	河野 茂
熊本大・医	前田 浩
京都大・医	光山 正雄
東京大・医	松下 綱治
琉球大・医	斎藤 厚

17. ヒト免疫不全症ウイルス感染を阻害するエンペロープ蛋白質変異体の開発

長崎大・熱研	久保 嘉直
理化学研	天沼 宏

18. 蚊媒介性感染症の分布拡大はあるか

長崎大・熱研	高木 正洋, 川田 均, 都野 展子
国立感染研	津田 良夫, 澤辺 京子
琉球大・医	當間 孝子

19. 現場を想定した疾病媒介蚊防除技術, 効果判定, モニタリングの再検討

長崎大・熱研	高木 正洋, 川田 均, 都野 展子
名古屋女子大・短期大	杉山 章
国立感染研	津田 良夫
住友化学工業(株)	庄野 美徳, 久保田俊一

20. 熱帯病対策における地理情報システム (GIS) の応用

長崎大・熱研	溝田 勉
国立感染研	二瓶 直子
立命館大	中谷 友樹
岡山大	山本 秀樹

国立国際医療センター研 狩野 繁之
長崎大・生産化学 後藤恵之輔

21. 発展途上国におけるエイズ流行とその対策に関する研究

長崎大・熱研 溝田 勉, 谷村 晋
赤十字看護大 喜多 悦子
長崎純心大 鈴木千鶴子
米国・チューレン大 楽得 康之
国立療養所東京病院 永井 英明
京都大 山本 太郎
岡山大 山本 秀樹
JICA大阪センター 石崎 光夫
女子栄養大 佐久間 充
長崎大・医歯薬 秦 亮

22. 熱帯性疾患の対策・予防と社会環境要因の診断

長崎大・熱研 溝田 勉, 永武 毅, 古川 孝明, 金田 英子,
谷村 晋
大阪国際大 山本 勇次
浜松医大 佐藤 弘明
旭川医大 伊藤 亮
神戸大・医研 川端 真人
明治学院大 大木 昌
神戸大 藤田 大輔
長崎純心大 鈴木千鶴子

23. シャーガス病の病態に関する免疫遺伝学的研究

長崎大・熱研 平山 謙二, 菊池三穂子, 柳 哲雄
東京大・医 北 潔
東京医科歯科大・難治研 木村 彰方
東京医科歯科大・疾患 安波 道郎
兵庫医科大・医 中西 憲司
東海大・医 猪子 英俊

独協医科大・医	松田 肇, 千種 雄一
順天堂大・医	奈良 武司
東京女子医大・医	金子 明
琉球大・遺伝子実験センター	新川 武

24 紫外線 (UV - B) 照射と生体免疫能の関連

長崎大・熱研	大渡 伸, 藤巻 康教, 熊取 厚志, 鳥山 寛,
	金田 英子
長崎大・医歯薬	奥村 寛

25 熱帯病の数学モデルの構築と予防制圧への応用

長崎大・熱研	嶋田 雅暁, 門司 和彦
長崎大・医	菊池 泰樹
京都大・生態学研究センター	山内 淳
山口県立大・看	中澤 港
大分大・総合科学研究支援センター	山城 哲

26 熱帯地での地域プロスペクティブ研究

長崎大・熱研	門司 和彦, 嶋田 雅暁, 安高 雄治, 金田 英子,
	渡部 幹次
長崎大・医	本田 純久
特定非営利団体HANDS	神谷 保彦
国際下痢症研究センター	我妻ゆき子
アフリカ地域開発市民の会	國枝 信宏
東京大・医	竹内 昌平, 古澤 拓郎
国立歴史民俗博物館	津村 宏臣
杏林大	高坂 宏一
岐阜大	口蔵 幸雄
高崎経済大	河辺 俊雄

27 南日本に多発する恙虫病の解明

長崎大・熱研	鈴木 博
埼玉医大	高橋 守, 三角 仁子

3.2 研究集会

1. 風土病としての粘膜皮膚病変の解析

開催日：平成16年3月8日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：病変発現機序分野 岩崎 琢也

発表者：(1)。「産婦人科と性感染症」

長野赤十字病院 副院長 菅生 元康

(2)。「皮膚科領域のパピローマウイルス感染とその病理」

国立感染症研究所感染病理部 佐多徹太郎

(3)。「ハムスターを用いたパピローマウイルスが関与する発ガンモデル」

長崎大学熱帯医学研究所病変発現機序分野

岩崎 琢也

(4)。「長野の風土病：ヒト乳頭腫ウイルス感染症」

国立感染症研究所ウイルス2部 松倉 俊彦

2. HIVの分子病態と治療戦略の新展開

開催日：平成16年2月20日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：感染症予防治療分野 大石 和徳

発表者：(1)。「東南アジア地域第2のHIV流行地域であるミャンマーに流布するHIV-

1流行株のゲノム構造解析」

長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療研究分野

本村 和嗣

(2)。「HIV-1西アフリカ分離株のサブタイプおよび薬剤感受性の検索」

国立感染症研究所感染病理部 徳永 研三

(3)。「HIV-1亜株の薬剤耐性機構とその制御に関する基礎研究」

国立感染症研究所遺伝子解析室 佐藤 裕徳

(4)。「Methyl- β -cyclodextrinによるCD4-independent HIV-1感染の阻害」

長崎大学熱帯医学研究所エイズ感染防御分野

久保 嘉直

(5)。「AIDS病態進行におけるアクセサリ-遺伝子産物Nefの機能」

国立感染症研究所感染病理部 飛梅 実

- (6) .「HIV 感染における CTL からのエスケープ変異体の解析」
 東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野
 立川（川名）愛
- (7) .「CCR 5 発現に影響を与える因子 a la carte」
 長崎大学大学院新興感染症病態制御学系専攻
 森内 昌子，森内 浩幸
- (8) .「カポジ肉腫の治療と転帰に関する臨床研究」
 都立駒込病院感染症科 今村 顕史

3 . 住血吸虫研究に関する情報交換，共同研究の推進

アジアの住血吸虫研究ネットワーク会議

開催日：平成16年 2月13日～平成16年 2月14日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：疾病生態分野 平山 謙二

発表者：(1) .「住血吸虫症ホームページの運営・更新について」

順天堂大学医学部生体防御・寄生虫学教室

吉田 彩子

(2) .「マンソン住血吸虫のゲノムマッピング」

京都大学霊長類研究所

平井 啓久

(3) .「日本住血吸虫の虫卵および幼虫期に特異的に発現する分泌抗原の探索」

長崎大学熱帯医学研究所

平成15年度国際学術研究助成外国人研究者

Yu chuanxin

(4) .「住血吸虫症の防除に係わる疫学的要因の一考察」

弘前大学医学部医学科寄生虫学講座 神谷 晴夫

(5) .「住血吸虫感染防御の抑制因子としての IL 10の産生およびその作用の研究」

産業医科大学寄生虫学熱帯医学教室

長田 良雄，梶田 京子，

熊谷 貴，金澤 保

(6) .「日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ」

長崎大学熱帯医学研究所寄生行動制御分野

渡部 幹次

- (7) . 「日本住血吸虫 Thioredoxin Peroxidase の解析」
 産業医科大学寄生虫学熱帯医学教室
 熊谷 貴, 長田 良雄,
 金澤 保
- (8) . 「日本住血吸虫感染宿主の polymerase chain reaction (PCR) による簡易診断に関する研究」
 名古屋市立大学 大槻 茂男, 太田 伸生
- (9) . 「住血吸虫感染マウス血清を用いた新規 PCR 診断法の検討」
 産業医科大学寄生虫学熱帯医学教室
 鈴木 智之, 熊谷 貴,
 金澤 保
- (10) . 「SMP(sodium metaperiodate)-ELISA によるメコン住血吸虫症の血清検査」
 獨協医科大学熱帯病寄生虫学 桐木 雅史, 松田 肇
 筑波大学基礎医学系寄生虫学 大前比呂思
 カンボジア保健省 Muth Sinuon, Doung Socheat
 Mahidol 大学 (タイ) Viroj Kitikoon
- (11) . 久留米大学医学部寄生虫学 平田 端城

4 . 熱帯疫学における観察データと複数数理モデルの対峙

開催日：平成16年 2月14日～平成16年 2月15日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：熱帯感染症研究センター 門司 和彦

発表者：(1) . 「ビルハルツ住血吸虫の治療後の再感染動向に関する検討」

長崎大学熱帯医学研究所 門司 和彦, 浜田 芳樹,
 嶋田 雅暁

(2) . 「フィリッピン・ボホール島における日本住血吸虫症のコントロールの事例について：数理モデルによる解析」

岡山大学環境理工学部環境数理科学

石川 洋文
 筑波大学基礎医学寄生虫学 大前比呂思
 獨協医科大学熱帯病寄生虫学 松田 肇

(3) . 「ザンジバルのビルハルツ住血吸虫症流行地における水接触行動研究」

長崎大学熱帯医学研究所 安高 雄治

- (4) .「フィリピン・ミンドロ島における日本住血吸虫症対策の推計：エージェントベースのシミュレーションモデルによる分析」
 東京大学大学院医学研究科 竹内 昌平
- (5) .「住血吸虫症研究への社会集団分析応用の試み」
 長崎大学熱帯医学研究所 大野 晃生
- (6) .「重症急性呼吸器症候群（SARS）の流行分析・制圧対策評価に関する理論疫学的研究」
 マヒドン大学 西浦 博
- (7) .「自然感染と水平感染を行う病原体の進化特性」
 京大大学生態学研究センター 山内 淳
- (8) .「Combined Interventions to Promote Maternal and Infant Health:A study in Matlab, Bangladesh」
 国際下痢症研究センター 我妻ゆき子
- (9) .「熱帯地域における乳児期フィーディングの諸問題と PCS の必要性」
 国立国際医療センター研究所 西山 綾子
- (10) .「妊産婦死亡の疫学，対策，サービス評価のための PCS の可能性」
 HANDS 神谷 保彦
- (11) .「IBM に使える病因論的死亡モデル」
 山口県立大学 中澤 港
- (12) .「非線形最小二乗法による1955 - 2000年の都道府県における性年齢各歳別の高齢域の死力への Gompertz-Makeham 曲線の当てはめと死力の推移トレンド」
 国立社会保障人口問題研究所 大保 保
- (13) .「パラオ共和国における Dengue 熱コントロールにたいする地理情報システムの応用」
 東京医科歯科大学 梅崎 昌裕
- (14) .「内なる GIS (Internalized GIS) - 認知地図 - の解析...牧畜民ドドスの地図を理解するために...」
 国立歴史民俗博物館 津村 宏臣

5 . 国際協力と大学，そして日本熱帯医学会

開催日：平成16年 3月24日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所 大会議室

代表者：熱帯感染症研究センター 嶋田 雅暁

フリーディスカッション

- (1) .「日本にとっても世界にとっても有意義な国際協力の効果的推進」
- (2) .「組織にとっても個人にとっても切実な学問的な発展（業績・若い人材の育成）」

国立感染症研究所・エイズ研究センター

有吉 紅也

琉球大学・医学部

岩永 正明，上里 博

名古屋市立大学・医学部

太田 伸生

国際医療センター・研究所

狩野 繁之

HANDS

神谷 保彦

愛知医科大学

木村 英作

高知医科大学・医学部

橋口 義久

大分大学総合科学研究支援センター

山城 哲

4 研究活動

4.1 マラリア

マラリアは世界の約100カ国に流行が見られ、年間2～3億人の罹患者と100～300万人の死亡者と推定されている。世界人口の40%が感染の危険のある地域に生活しており、その大部分は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの熱帯地域である。国際化によって、これ等の国々に赴く日本人も少なくなく、中には滞在中にマラリアに感染して帰国後に発症する場合もある。例えば 熱研内科(感染症予防治療分野)を受診した2001年12月にパプアニューギニアに渡航して三日熱マラリア原虫に感染した症例、2003年9月にケニアに滞在して熱帯熱マラリア原虫に感染した症例についての報告があり、マラリアの診断には、何よりも第一にマラリアを疑うことが重要であると強調している⁴⁴⁸⁵。また、流行地域への旅行者のマラリア予防策として、地域別予防薬の選択、予防内服の効果と副作用、マラリア予防内服の注意事項について、最近の知見をふまえた具体的な予防薬の投与方法について解説を発表している⁴⁴⁸⁶。すべてに問題なく用いることの出来る予防薬は無く、特に小児、妊婦については注意が必要であることを強調している。

ヒトに感染する4種類のマラリア原虫(熱帯熱マラリア、三日熱、四日熱、卵形)のうち、熱帯熱マラリアは適切な処置をしないと、短期間で重症化あるいは死亡に至る危険がある。脳マラリア(CM)は、昏睡から死に至る熱帯熱マラリアの重大な合併症である。それは脳微小血管への原虫寄生赤血球の塞栓により、組織の虚血、低酸素、微小出血、それに伴う溶血やヘモグロビンの放出が起こり、何らかの機序によって昏睡に陥ると推定されている。疾病生態分野平山氏は、この昏睡に至る病態生理に、ストレスによって誘導されるヘム分解酵素で、最終産物として一酸化炭素を発生させるヘムオキシゲナーゼI(HO-1)の関与を仮定し、ミャンマーのマラリア患者におけるCM感受性とHO-1プロモーター領域マイクロサテライト多型の関連を調べて報告した⁴⁵¹²。HO-1プロモーター領域に存在するマイクロサテライト反復配列はHO-1遺伝子の転写活性に影響を与えており、長い挿入によって転写活性が低下すること、CM感受性では繰り返しの短い遺伝子を持つものが多く認められる傾向にあることを明らかにし、HO-1遺伝子の高い転写活性が脳マラリアの発症に何らかの関連をしていることを示した。

感染細胞修飾機構分野と徳島大学大橋氏は、ネズミマラリア原虫 *Plasmodium yoelii* に感染した動物で赤血球溶出液中に高い好中球遊走活性が認められることを見出し、その遊走活性因子(IP17)を精製、同定して報告した⁴⁴²⁴。結果的にこの因子は宿主由来で、ユビキチン

*文中の4桁の上付数字は長崎大学熱帯医学研究所「業績番号」を示す。(参照 p.64)

ファミリー蛋白質に属する ISG15/UCRP と同じであり、それはインターフェロン γ の産生、ナチュラルキラー細胞の分化活性を有することが示されている。マラリア感染初期に好中球が感染防御に働いていることが報告されており、今回の研究は好中球の集積と活性化の機構を説明するヒントを与えるものと期待されるとともに、ユビキチンファミリー蛋白質 ISG15/UCRP の新しい役割、好中球活性化への寄与を提唱した。

マラリア原虫は、媒介昆虫であるハマダラカ (Anopheles) を介してヒトに感染する。メスのハマダラカは産卵のために吸血を行うが、その際に唾液を注入し、その中のマラリア原虫が体内に侵入する。生物環境分野では、ハマダラカの生態学を研究しており、今年度は 5 報の論文を発表した。

マラリア対策の一つの方法は、このハマダラカに対する殺虫剤を使用することである。昆虫の幼若ホルモンを基とした類似体の殺虫剤としての有効性が示されいくつか開発されている。今回は、幼若ホルモン類似体ピリプロキシフェン (Pyriproxyfen) について、蚊幼虫に対する効果を雌雄別々に判定する方法を考案して調べた結果を報告している⁴⁴⁹⁴。ピリプロキシフェンの殺虫効果が蛹で効き、蛹では雌雄の判別が容易であることに着目して、成熟四齢幼虫を段階希釈した溶液に 24 時間暴露し、羽化した個体数、蛹で死んだ個体数を雄と雌、別々に記録して分析している。マラリア媒介蚊である *Anopheles minimus*, *An. dirus*, その他 *Aedes aegypti*, *Ae. albopictus*, *Culex pipiens pallens* の幾つかの単離個体群について調べ、種間、雌雄間で感受性が大きく異なること、一般に雌の感受性が低いことが特徴的であった。

地球温暖化に伴うハマダラカの生息域の拡大、それに伴うマラリア感染地域の拡大が懸念されている。国立感染症研究所津田氏との共同研究を行って、アジア地域での主要なマラリア媒介蚊である *Anopheles dirus*, *An. minimus*, *An. stephensi* の生育 (生存と発育) への温度、気象の及ぼす影響を調べて報告した⁴⁴⁹⁹。長崎市の自然環境下で 2002 年 4 月から 10 月にこれ等ハマダラカの幼虫の発育を観察し、気温によって成長速度は影響を受けること、その影響の度合いはハマダラカの種類によって異なること、生育に必要な気温はそれぞれ 9.4°C, 5.7°C, 9.3°C 以上と推測された。もし長崎市の冬の平均気温が地球温暖化によって 5°C 程度上昇すると仮定しても、1 月に 10°C 以下の日が 30% 程度はあることになり、ハマダラカの生息には十分とはいえないと結論された。

マラリア媒介蚊の性質と種類が、マラリア流行に関連していることはよく知られているが、その分類は形態に依っている。今回分子レベルの比較解析を目的として、東南アジアで重要なマラリア媒介蚊コガタハマダラカ *Anopheles minimus* について、日本、中国、タイ、インドネシアの 4 カ国から採集したものから遺伝子を単離して 28S rRNA 遺伝子の D3 領域、ITS 1 領域の配列を比較して系統樹を作成した⁴⁵⁰¹。遺伝子配列を基に分類すると、これ等は大きく 3 つのグループに分けることが出来、グループ I に日本で単離されたもの、グループ II に

中国 Guangxi で単離されたもの、グループⅢに中国 Yunnan で単離されたもの及びタイ、インドネシアで単離されたもの、が属する。この遺伝子解析の結果は形態的特徴を基にした分類を反映するものであり、日本石垣島のコガタハマダラカは、他の個体群とは離れた位置にあることが再度示された。

従来から生物環境分野では、地域の景観を基にマラリア媒介蚊の生育密度や種多様性への影響を調べてきており、今回、タイ北部の農村地域と森林地域を比較して得られた知見を報告している⁴⁴⁹⁷。農村地域は森林地域に比較して、明らかに多様性に富み、断片化して複雑細切れに土地が利用されている。タイのマラリア媒介蚊として最も重要な位置を占める *Anopheles maculatus* s.s.と *An. minimus* s.l.、これ等は森林に生息する種であり、調査の結果も明らかに森林に高い密度でみられた。水田に生息する *An. aconitus* と *An. hyrcanus* については、農村地域と森林地域で差が見られなかった。*An. minimus* s.l.の生育密度は、森林や水源の規模の大きさと関連性を示し、土地利用が複雑多様になるに従って減少する傾向にあり、そこに生育する蚊の種類は景観が複雑化するにつれて減っていく。この地域が開発されて森林が減少していくと土地利用が複雑化し、媒介蚊の種多様性が少なくなることはこの研究でも明らかに認められた。タイ北部では、森林は開発されて主として果樹園として利用される。その地域におけるマラリア媒介蚊の種類は、乾期には少なくなるが雨期に増えることが認められ複雑な様相を呈していた。森林開発後の土地利用においてマラリア媒介蚊対策は必要であるが、水田の断片化や水路の段差を減らすことで減少させることが可能と思われる。

また、インドネシアロンボク島は、熱帯熱マラリアも三日熱マラリア両方の感染が認められる地域であるが、1992年から95年の患者と媒介蚊の調査結果を報告し⁴⁵⁰⁰、その中で熱帯熱マラリアによって三日熱マラリアの血中濃度が有意に減少する傾向にあることを示した。

(文責：上村春樹)

4.2 住血吸虫症

ヒトに感染する重要な住血吸虫としては、日本、マンソン、ビルハルツ、メコン住血吸虫の4種ある。感染者は世界に約2億人いると推定され、熱帯病の中でも重要な疾患である。

感染者の糞便とともに外界に出た住血吸虫虫卵が水中に入ると、虫卵内に形成されていたミラシジウムが孵化して泳ぎだす。このミラシジウムが中間宿主である貝に入るとセルカリアにまで発育する。このセルカリアが水中に遊出し、経皮的にヒトに侵入し感染が成立する⁴⁴³³。

ミラシジウムの遊泳はその体表に存在する無数の繊毛運動による。寄生行動制御分野では、この繊毛運動の制御機構への情報伝達系、とくに環状ヌクレオチドの関与を解析した。高浸

透圧下（1%NaCl）で遊泳（繊毛運動）を止めたミラシジウムに細胞内サイクリック AMP（cAMP）を高める試薬を投与すると、ミラシジウムは遊泳速度は正常の1/10ほどだが遊泳し始めた。これらの試薬は人工池液（正常浸透圧）中の遊泳しているミラシジウムの遊泳速度には影響しなかった。また、細胞内 cAMP 濃度を低下させる試薬はミラシジウムの遊泳速度を低下させた。さらに、cAMP 依存性プロテインキナーゼの抑制剤は完全にその遊泳を停止させた。コレラトキシン（G プロテインに作用し、アデニル酸シクラーゼを活性化する試薬）では遊泳の開始が見られず、cGMP は関与しないことが示唆された。以上の結果から、住血吸虫ミラシジウムの繊毛運動に cAMP や cAMP 依存性プロテインキナーゼが関与することを明らかにした⁴⁴²⁷。

前述したように、住血吸虫の感染は中間宿主貝が存在し、その貝から遊出するセルカリアが存在する水域で起こる。その水域における感染様式を知るうえでセルカリア密度測定（セルカリアメトリー）は重要である。寄生行動制御分野で以前ケニアの流行地で実施したセルカリアメトリーの結果を中心にセルカリアメトリーのレビューを発表した。セルカリアメトリーの方法論、水域におけるセルカリア密度の周期的変動あるいは空間的・時間的分布、感染様式を知るための他の方法との比較などをまとめ、セルカリアメトリーの重要性を強調した⁴⁴³⁰。

さて、体内に侵入したセルカリアは発育し、約6週間で成虫となる。ビルハルツ住血吸虫は膀胱系の静脈に寄生し、産卵するため、血尿、尿路障害が見られる。日本、 Manson, メコン住血吸虫の成虫は門脈系静脈に寄生し、虫卵が腸管や肝臓に沈着する。肝臓では沈着した虫卵により繊維化、肝硬変を引き起こす⁴⁴³³。流行地では約10年で肝繊維化となり、感染者の約10%が重症化するとされている。このように同じ流行地でも住民は症状のない不顕性感染から致死性の重篤な症状まで呈する。疾病生態分野では重症化する因子を免疫関連遺伝子に注目し、解析を行って来ており、そのレビューを発表した^{4510 4513}。

中国の日本住血吸虫流行地における感染者を肝病変の進行度を4段階に分類し、重症度と各人の血液から抽出した DNA を HLA やサイトカイン遺伝子多型との相関を解析した。その結果、HLA クラス II と IL 13B プロモーター遺伝子が肝繊維化の重症化に関与する2つの重要な遺伝子であること、HLA DRBI*0101 と他の遺伝子アレルとの機能的差異はまだ明らかにされていないが、IL 13PA/A ドナーの末梢血単核細胞が IL 13PA/B ドナーよりも多量の mRNA を産出したことなどについて述べ、このような遺伝子解析を通じてゲノムと寄生虫との相互作用を解明することが可能であり、これまで見えなかった様々な相互作用を明らかにすることを解説している。（文責：藤巻康教）

4.3 フィラリア症

フィラリア症はバンクロフト系状虫とマレー系状虫と呼ばれるヒトリンパ管に寄生する2つの線虫によって引き起こされる病気である。長い経過を経て象皮病などの悲惨な病状が出現するので、早い時期に感染を検出して治療を行うことが大切である。診断は血液中出现してくるミクロフィラリアを検出することによるが、これは血液染色、顕微鏡観察などの熟練した技術を要するため、そのほとんどが不便な田舎に存在する流行地を発見し、患者を検出治療するためには時間と労力を要し過ぎる。寄生行動制御分野ではネパール⁴⁴²⁶とスリランカ⁴⁴²⁹において、簡便に血中フィラリア抗原を検出できる ICT card test を用いて患者検出を行っている。この結果ネパールでは首都カトマンズから30kmほど離れた高度の異なる2つの流行地を発見している。同分野ではこれに加えて尿中出现する抗フィラリア IgG 4 抗体を検出することによって患者診断を行う方法を試みている。この方法は実験室で継代しているネズミのフィラリア *Brugia pahangi* の感染幼虫を抗原として、尿中の IgG 4 抗体を捕捉、ELISA 法にて検出するもので、両地域において ICT テストより高い陽性者検出率を示した。採血という痛みを伴うことがないため、とくに小児における検査が容易となり、今後の発展が望まれるテストである。さらに同分野では媒介蚊から排出された感染幼虫がいかにして、蚊の刺し口を認識して哺乳類宿主に侵入してゆくかの機構に注目し、*Brugia pahangi* 感染幼虫が感染宿主 jird の血清に対し強い化学走性を示すことを見出した⁴⁴²⁸。さらにこの認識機構には細胞内情報伝達分子としての cAMP が強く関与している証拠も得ている。

(文責：神原廣二)

4.4 トリパノソーマ症

トリパノソーマ症にはアフリカのいわゆる眠り病(アフリカ・トリパノソーマ症)と流行地が中南米のシャガス病(アメリカ・トリパノソーマ症)とがある。それぞれの病原体がトリパノソーマ属の原虫であり、その病原体による感染症を二つともトリパノソーマ症と呼んでいるが、病原原虫の形態がよく似ていてもそれぞれの原虫の生活環、媒介昆虫、感染様式ならびに感染の結果生ずる病態などさまざまな点で両者は違っているので、まったく性格の異なる別々の感染症といえる。眠り病とシャガス病以外のトリパノソーマ症もあるが、この二者に限れば眠り病とシャガス病の二つに同一人物が罹患するケースは地理的に起こりえない。つまり、どちらかが陽性と疑われた場合両者の鑑別の必要はないし、眠り病でなかったらシャガス病かもしれない、という疑いは起こりえない。

先にアフリカ・トリパノソーマ症，あとにアメリカ・トリパノソーマ症について述べる。

人に眠り病（牛などの家畜ではナガナという）を引きおこすアフリカ・トリパノソーマは吸血性のツェツェバエが媒介するが，ツェツェバエの生息地域はアフリカ37カ国の200ヶ所にもおよび，そこに住む5千万以上の人々がトリパノソーマ感染の脅威にさらされている。また同一地域に4千6百万頭の家畜が人と生活をともにしており，ナガナの流行は急激な人口増加への食糧事情をさらに悪化させている。トリパノソーマは人や家畜だけに限らず，ライオンやある種の偶蹄類などの野生動物にも感染するので，アフリカ大陸からトリパノソーマ症を完全に駆逐することはできない。

トリパノソーマ症制圧の目的で，ベクター・コントロールをはじめ，化学療法剤やワクチン開発のための努力が長年なされてきた。中でも，分子生物学的手法が驚異的に発展しはじめたころ，アフリカ眠り病のワクチン完成は間近いと誰もが信じて疑わなかったが，それからおよそ20年を経過した現在もそれは果たされておらず，逆にその期待は遠のいている。その理由の一つは，アフリカ・トリパノソーマ分離株の地域間の抗原変異量があまりに大きいため，その多様性に最新の手法でもってしても対応できないことが判明したからである。また，人工的な化学物質による環境汚染の抑止が現在世界的に叫ばれているので，広範囲のツェツェバエの生息地域に殺虫剤を繰り返し撒布することには限界がある。そこで，やはりトリパノソーマ症のコントロールには殺原虫効果のある薬剤に頼らざるを得ないのだが，決してそれは満足できるものではない。現在4種の薬剤が利用可能だが，そのうち3種はすでに50年以上も前に使用され始めたものであり，副作用が少なく眠り病後期にも奏効するなど薬剤として備えていなければならない条件をそれらは満たしていない。

当研究所でもこの数年間新薬開発のための研究をしている。錫を含む有機金属化合物（organotin グループという）はもともと細菌類，カビ類，原虫類など多くの生物に対して毒性をもっている。またそのグループには抗癌作用があるものもある。その有機錫化合物に脂肪酸を結合させた数種類の，構造が似た化合物（diorganotins： R_2SnX_2 ），たとえば dibutyltin dichloride（DBTC）などをプルセイ・グループの三つの亜種であるガンビア・トリパノソーマ，ローデシア・トリパノソーマ，プルセイ・トリパノソーマの培養系の血流型（哺乳類に感染している発育ステージをいう）に作用させて原虫への影響をみた。アフリカ・トリパノソーマはほとんど脂肪酸を自分で合成できないので，宿主側からそれらの材料である脂質を取り込まなければならず，アフリカ・トリパノソーマの代謝系を利用して錫化合物に脂肪酸を結合させている。6種類の化合物や異なる種類のトリパノソーマで比較したところ，ごく低濃度（ $0.15 - 0.75 \mu M$ ）でも濃度勾配にしたがって増殖阻害をおこしたり，あるいは死滅させることが判明した⁴⁴²²。同時にマウスの線維芽細胞でこれらの化合物の毒性試験をおこなったが，原虫に作用させた濃度では細胞毒性は認められなかった。

次に、その錫化合物の原虫への作用機序を調べるために錫化合物暴露後の原虫の形態学的変化を電顕で調べた⁴⁴²³。鞭毛には錫化合物の作用による形態学的変化がみられなかったが、錫化合物に暴露された原虫の細胞は膨満化し、最終的に破壊されていた。微細構造の顕著な変化は鞭毛基部の部分 (flagellar pocket という) におこる。その部分の細胞質が膨化し、細胞膜やキネトプラストの構造が著しく変形する。原虫の死滅原因はこの傷害作用を受けたことによる構造的変化といえる。そこで、錫化合物を暴露した原虫からキネトプラスト DNA (kDNA という) を分離し、それを電顕で観察したところ、ふつうは網状に広がる DNA (DNA network という) が著しく変形しているのがわかった。これとは別に、原虫から分離した kDNA だけを試験管内で錫化合物と混合後、電気泳動すると、やはり DNA バンドが切断 (fragmentation という) されていた。これらの実験結果から鞭毛基部から取り込まれた錫化合物は kDNA に傷害作用をおこして、最終的に原虫溶解をおこすと予想された。

今回の成果をもとにしてこの diorganotins の殺原虫効果と安全性の研究をさらに進め、現在でも使用されている副作用をともなう砒素系の治療薬にとって替わる新薬として誕生することが期待される。

ここからアメリカ・トリパノソーマ症について述べる。シャガス病の病原体クルーズ・トリパノソーマを媒介するのは吸血性のサシガメであるが、この昆虫は中南米に生息しており、何十種類も存在する。その分布にそって広範なアメリカ圏にシャガス病流行地がある。この地域には約 9 千万人の住民が住んでいるが、シャガス病に感染するのは粗末な構造の家屋の住民に限られている。そのわけは媒介昆虫のサシガメがそのような構造の家屋に好んで生息しており、サシガメはその家屋の中だけで代々世代交代をしている。しかもサシガメの寿命は 1 年以上あり、一旦クルーズ・トリパノソーマを保有すると生涯その原虫を持ち続けるので、その間 1 匹のサシガメからの病原体媒介がずっと可能になる。シャガス病が典型的な貧困病の一つとされるのはこのような理由による。したがって、現在の藁葺き屋根や土壁と粘土構造の家屋からサシガメが生息できない構造の家屋への立て替えがシャガス病制圧法の一つとして推奨されるのだが、経済的な制約のためにそれがまったくできないのが現状である。

ところで、最近シャガス病患者が流行地以外でも見つかっている。その理由は中南部アメリカ圏から多数の人々が諸外国 (北米, ヨーロッパ, アジアとくに日本) へ職を求めて移動しており、その移動先で感染者の病態が進行したり、感染者が供血者になったために新しい患者が発生したりしている。近年長崎大学附属病院に入院した南米の患者からクルーズ・トリパノソーマを分離したケースがあったので、このことから日本国内に感染者はいないとはいえない。余談だが、供血者 (日本以外では献血とは限らない) の血液はたとえその国では意外性のある感染症であっても、今後その検査も対象にしなければならないであろう。

さて、シャガス病の病態について感染初期から慢性期に至る経過を詳しく説明することが現在でもできていない。都市から遠い山間部などの僻地に流行地があるために、一人の患者の感染以降何十年とわたる克明な記録がないので、シャガス病については不明なところが今でも多々ある。また、シャガス病では免疫による自然治癒がない上に副作用を伴わない安全な治療薬がないので、ある種のウイルスや細菌では可能であっても、クルーズ・トリパノソーマでは人への実験的感染を行いその経過を検証することができない。流行地ではいつクルーズ・トリパノソーマに感染したかは、輸血や母子間の垂直感染やラボ・ワークでの実験中の事故等を除いて不明である。感染後間もない急性期に心筋炎を発症する場合もあるが、その他の場合はウイルス感染などと同様一般的な初期の感染症状を呈した後、無症状の不確定期に移行し、再び心不全等の症状を呈しはじめる慢性期に至るまでに10年から30年ぐらいかかるといわれている。シャガス病が進行した場合、心不全、あるいは巨大食道や巨大結腸を引き起こすが、心臓に障害を与えるか、消化器系に障害を及ぼすかの決定的な因子はまだ明らかになっていない。病原体株の違い、再感染、患者側の免疫反応の多様性や遺伝子的背景などが報告されているが確定はしていない。アフリカ・トリパノソーマのように、クルーズ・トリパノソーマにも形態では区別がつかない亜種の存在があって、それらの病原性が異なるために病態像が変わってくるという可能性もある。

当研究所ではかねてからシャガス病の病態とその患者の遺伝的な背景（たとえばHLA タイピングなど）を調べてきたが、今回メキシコの地理的条件が異なる二カ所（P地区とC地区。それらの地理的条件*は後に説明。家屋の構造や媒介昆虫種などが両地区間で異なっている）のシャガス病流行地で疫学調査を行い、地理的要因や抗体陽性率と心電図異常との関連を調べた⁴⁵⁰⁹。

メキシコ政府はかねてから自国の保健プログラムの重要課題の中にシャガス病の制圧を入れてこなかったため、メキシコにおけるシャガス病については現在もよく分かっていないが、今回の調査ではつぎのようなことが明らかになった。抗体陽性者の心電図異常の特徴は右束ブロックと心室性期外収縮であり、これは南アメリカでのシャガス病患者のそれと同型だった。心電図異常の頻度は抗体陰性者（6%）に比べて抗体陽性者（22%）に高かったのだが、抗体陽性率、抗体価の高低、年齢分布（40歳未満と40歳以上）、地理的条件などの諸因子と心電図異常の間には特別な関係が見つからなかった。シャガス病の不確定期の年数が長く経過するほど心電図異常が高率になってくるとか、あるいは抗体陽性者の心電図異常は患者の住む生活圏の地理的要因と関連があるなどの報告が南アメリカでのシャガス病調査からでている。今回のメキシコの調査では抗体陽性率に大差のある二地区（4%と22%）を調査地として選択したので、抗体陽性率と心電図異常率の関連を調べるのに好都合であったが、両者間に相関が見つからなかった。

いずれにしても、メキシコにおけるシャガス病制圧に向けて今後もこれらの疫学的研究を続けていくことが必要である。

【 * P地区の緒要因は次のとおり。メキシコの中央部の2,000 - 2,500mの山地、気温10 - 26℃。家屋の材料は木材。住民数7,200名中390名を検査。年齢は15 - 65歳で、そのうち363名が女性、抗体陽性率は4%。抗体陽性者中の血液培養陽性率は0%、PCR陽性率は60%。*Triatoma barberi*が主な媒介昆虫。一方、C地区はメキシコ南部の海拔600mの高地、気温23 - 35℃。家屋の材料は椰子の葉とその部類。住民数1,500名中227名を検査。年齢は6 - 73歳で、そのうち143名が女性、抗体陽性率は22%で、抗体価の平均値はC地区の方がP地区より高い。抗体陽性者中の血液培養陽性率は0%、PCR陽性率は43%。ここでは*Rhodnius prolixus*が主な媒介昆虫。ベクター・コントロールをしていない。両地区とも住民は貧しく、全体的に栄養状態が悪く、この調査に関心を示さなかった。なお、メキシコには31種類のサシガメが生息しており、そのほとんどがクルーズ・トリパノソームを保有していると報告されている。】

(文責：柳 哲雄)

4.5 寄生蠕虫症

寄生蠕虫は寄生虫の中で多細胞のものを指す。中には世界で猛威をふるう住血吸虫やフィラリアも含まれるがこれらについては別項が設けられているのでここでは簡単にふれるにとどめ他の寄生蠕虫症の業績を記す。

寄生蠕虫の感染は必ずしも致命的ではないが低栄養をきたし、労働力の低下を引き起こす。熱帯地域を中心に全世界に十数億人の感染者がいるとされこれによる栄養の低下、労働力の損失は甚大である。

その寄生蠕虫感染に対し宿主では末梢血液中に好酸球増多がおきることが知られている。好酸球は一般的に寄生蠕虫に防御的に働くと考えられている。寄生蠕虫は宿主に感染すると体内を移行し最終的な寄生部位に到達するが好酸球が果たして移行期から寄生部位の成虫まですべての段階に防御的に働くかは明らかではなかった。そこで寄生行動制御分野では好酸球の防御について移行期幼虫と成虫にわけマウスの実験系で検討した⁴⁴²⁵。

ネズミ糞線虫 (*Strongyloides ratti*) は人糞線虫 (*Strongyloides stercoralis*) のマウスモデルとされている。感染型幼虫は感染後宿主皮下を移行し感染後1日目に頭蓋内に入りその後嗅球を経て感染後約3日目に消化管に移行し上部消化管で成虫になり産卵する。感染後約12日には成虫は宿主(マウス)より排除される。好酸球は一次感染では感染後14日に増加を認めた。次に好酸球増多を抑制するために好酸球増多因子であるIL-5に対する抗体を投与したマウスにネズミ糞線虫を感染させた。抗体を投与されたマウスでは頭蓋に移行してくる幼虫数が1.5倍に増加しておりそれに一致して成虫数も増加していた。成虫の腸管からの排除に遅延は認められなかった。

次に2次感染（すなわち一度感染させた後もう一度感染させる）における好酸球の防御への関与を検討した。2次感染では好酸球増多は著しく抗体の投与により効果的にその増加を抑制した。2次感染で抗体を投与された群では頭蓋に移行してくる幼虫が抗体を投与されていない群に比べ7倍に増加した。しかしながら腸管における成虫数はまったく変化なかった。以上のことから好酸球は組織を移行する幼虫の防御へは強く関与しているが腸管での成虫への防御すなわち排除にはほとんど関与していないことが明らかとなった。腸管寄生の成虫に対する防御は粘膜肥満細胞の関与が指摘されており肥満細胞特異的プロテアーゼの測定によりそれが確認された。

当熱帯医学研究所では1965年に片峰らがタンザニアで寄生虫症の調査を行ってから、JICAの財政的援助のもとアフリカの様々な地域で寄生虫症の疫学的調査、防圧を行ってきた。これらは特にマラリア、フィラリア、住血吸虫、腸管寄生虫に対して行われてきた。今年度1996年までになされた活動の総括を行い発表した⁴⁴³¹。

マラリアについては1965年タンザニアに始まり、コンゴ、スーダン、ナイジェリア、ガーナにおいて罹患率、薬剤の効果、遺伝性貧血とマラリアへの抵抗性、診断法の改良などがなされた。

住血吸虫は日本人研究者によってもっとも研究協力がなされた寄生虫病のひとつであった。当研究所の関与してきた地域について記す。

1974年片峰らがケニアのタベタにおいて *Schistosoma masoni*, *S. haematobium* の並存を見出しそれぞれの間宿主を同定した。1981年より15年にわたって JICA のケニア中央医学研究所にたいする医療協力の一環としてケニアでビルハルツ住血吸虫症の疫学調査と防圧が開始された。調査はケニア沿岸州クワレ地区で行われた。調査によりビルハルツ住血吸虫の罹患率、発生率、感染強度が明らかにされた。また乾季に感染の危険性が高まることも明らかとなった。薬剤について安価なメトリフォネートとプラジカンテルの効果が検討されメトリフォネートも効果的であることが報告された。これらの薬剤を用いビルハルツ住血吸虫の集団治療が行われたが再感染率が高く薬剤による治療以外の予防を用いる必要が出てきた。川の水への接触を避けさせ再感染を予防しようと浄水の供給施設を設けた。しかし施設から離れた所の住民は川の水を使用したため川の水への接触率は50%しか低下しなかった。その他中間宿主である貝をなくすため環境改善も行われ一定の成果をあげた。門司らによって感染予防教育も導入されたが住民の行動を変容させるには至らなかった。

以下に調査を通じて得られた基礎研究の知見を記す。

ビルハルツ住血吸虫の感染強度は1時間尿中の虫卵数により正確に評価できる。排泄される虫卵は食事に影響される。川のセルカリア密度を左右する自然環境因子。治療により学童の知能テストの改善が認められる。プラジカンテルは虫卵の孵化に影響を与える。免疫学的

には COPT における知見や ELISA の確立等がなされた。

フィラリアにおいてはバンクロフト糸状虫，オンコセルカ，ロア，マンソネラ症について 1971年のエチオピアを皮切りにナイジェリア，モザンビークで調査，防圧が行われた。ケニアでは1991年より前述のクワレにおいて調査が行われバンクロフト糸状虫の夜間出現性を明らかにし治療には DEC と重炭酸ナトリウム同時投与が非常に効果的であることを報告した。

この総説では他のアフリカの地域，腸管寄生虫に対する対策，獣医学領域における対策について述べられた。

以上の報告のほか寄生行動制御分野では吸虫症，条虫症の治療について解説した⁴⁴³²。また最近寄生虫領域で用いられる Hidden Morbidity という言葉について解説した⁴⁴³⁴。

(文責：渡部幹次)

4 . 6 日本脳炎およびデング熱

昆虫やダニなどの節足動物で媒介され脊椎動物に感染するウイルスを総称してアルボウイルス（節足動物媒介性ウイルス）と呼ぶ。アルボウイルス感染症は熱帯地域はもとより世界各地において発生しており，公衆衛生学的に非常に重要な問題となっている。アルボウイルスは実に400種以上にも及び，その中でもフラビウイルスに属するデングウイルスは重症のデング出血熱を起こし，日本脳炎ウイルスは時に致命的な脳髄膜炎を起こすなど医学的に重要なウイルスであり世界保健機関（WHO）も重要課題の1つに掲げている。分子構造解析分野と生物環境分野ではこれらのウイルス感染症の病原性や感染伝播様式をより深く理解し，適切な診断法の開発や疾病対策に利することを目的として以下のような研究を実施した。

1 . フラビウイルス

1 - 1) 日本脳炎ウイルス

日本やアジアにおける日本脳炎ウイルスの生態については未だ不明の部分が多い。今回，日本とベトナムで1980年以降に分離された日本脳炎ウイルスの E 蛋白遺伝子の塩基配列を決定し，さらにこれまでに公表されているその他の地域において分離された日本脳炎ウイルス E 遺伝子配列データを使用して日本脳炎ウイルスの進化（変化）に関する研究を行った結果，1986年から1990年にかけてのベトナム分離株と日本分離株は遺伝子型 3 型に属し，また1995年から2002年にかけてのベトナム分離株と日本分離株は遺伝子型 1 型に属することがわかった。さらに，1995年から2002年にかけての日本での遺伝子型 1 型の分離株は，同年代にベトナムで分離された株とよく似ていることが明らかになった。また，1980年代に日本で分離された遺伝子型 3 型の分離株でもその当時のベトナム株ときわめて近縁なことも明らかになっ

た。これらの事実から、日本脳炎ウイルスは東アジアにおいて比較的頻繁に移動している事実が明らかとなった。日本脳炎ウイルスに感受性のある渡り鳥などに感染して移動しているのかもしれない⁴⁴⁰²。

また近年日本脳炎はアジアモンスーン地域の一部では拡大傾向にある。現在日本脳炎が深刻化しているネパールにてフィールドでの血清診断に基づく疫学調査を可能にするため、あらたに開発したハイドロキシアパタイトビーズを用いた PA 法による日本脳炎特異的 IgM 検出法の是非を検討した。その結果、この方法は従来法と比較してフィールド試験での感度99%、特異性88%であることが示され、日本脳炎の PA 法による血清診断法は臨床的にも公衆衛生的にもきわめて信頼度が高く有用な方法であることが実証された⁴³⁹⁷。そのほか日本脳炎の形態学的解析や治療法の検討もなされた^{4407 4530}。

1 - 2) デングウイルス

デング熱・デング出血熱における血小板減少の仕組みを解明する為、フィリピンで発生したデング熱の流行および、日本人旅行者で海外旅行のあと帰国後、デングウイルス二次感染を発症した急性期患者の末梢血液から血小板を採取してこれに結合している IgG 抗体 (PAIgG) の量を比較検討した。その結果、血小板の減少と PAIgG には正の相関があった。また PAIgG にはデングウイルス特異的抗体が含まれることも判明した。これらの事実はデング出血熱の病態の重要な要素である血小板減少にはこのデング特異的な PAIgG が何らかの働きを持っていることを示唆していた^{4393 4445 4452}。

デングウイルス感染症の流行の予測、及び、その病原性のメカニズムを解析することを目的として、東南アジアを中心にデングウイルス分離株の遺伝子解析を経年的に実施している。平成15年度は平成14年度に発生したバングラデシュでのデング熱・デング出血熱流行において患者血清からデングウイルスを分離し、その全遺伝子の塩基配列の解析を実施した。その結果分離した11株すべてがデング3型のウイルスであり、東南アジアとくにタイ周辺国で流行している亜型であることが明らかになった。しかしながらデング熱から分離された株とデング出血熱から分離された株の E タンパク遺伝子間ではとくに重要な遺伝子変異は認められなかった。また患者の治療法についても検討された^{4400 4411 4530}。

2 . 媒介昆虫へのアプローチ

デングウイルスの媒介蚊であるネッタイシマカ、*Aedes aegypti* (L.) (Diptera:Culicidae) の生態学的特長を明らかにするために、鱗粉型の季節変化の調査をインドネシアのスラバヤでオヴィトラップ調査を行った。成虫の鱗粉型は腹節数に基づき7つに分類され、鱗粉型部類での組成の季節変化の分析も行った。鱗粉型部類の組成の季節変化や、室内外での組成の違いは雌雄共に著しいものであった。また、腹部背板の白鱗粉を増加または減少させることが可

能か否かを見るため，dark と light の個体の人為選択を行った後，実験室内飼育の結果，選択10世代で dark と light のそれぞれ1系統の Surabaya strain を樹立することに成功した⁴⁴⁹³。

デングウイルス媒介能力をもつヒトスジシマカ，*Aedes albopictus* の産卵場所の特徴（容器のサイズや，容器中の葉の種類や量）を明らかにするために野外実験を実施した。その結果，*Aedes albopictus* は容量の大きい容器でしかも葉の量（とくに Maple）のおおくある環境をもっとも好むことが明らかになった。とくに Maple の葉は蚊の幼虫の栄養源として重要であることが示されており，*Aedes albopictus* はそれぞれの状況に応じて違った産卵をし，より良い産卵をするための生育環境を区別できることがわかった⁴⁴⁹²。

温帯地域に属する長崎市内における飛来蚊の状況を解析するために，樹木の樹冠付近と地上約1メートルのそれぞれ2箇所にサクシントラップをしかけ，採取された蚊（夜行性と昼行性の両種）を採集し調査した。その結果，9種の蚊が採取され，特に樹冠付近で採集された蚊のうち主たる種類は *Ae. albopictus*，*Cx. pipiens pallens*，*Ar. subalbatus*，*Cx. tritaeniorhynchus* の4つでありメスの個体数で見ると，それぞれ3.9%，64.5%，19%，26.7%の割合であった⁴⁴⁹⁸。

デング媒介蚊の生物学的防除手法となりうる捕食動物であるミジンコ的一种，*Mesocyclops pehpeiensis* がヒトスジシマカ，*Aedes albopictus* の蛹化と生存と発達におよぼす影響を調べた。ポウフラの餌として *Acer buergerianum* という楓の葉を入れた大小両サイズの容器を使い飼育を行い，捕食動物がいない場合，大きな容器（直径8.5cm，深さ5.5cm）では小さな容器（直径3.5cm，深さ5.5cm）より生存率が高く発達の時間も短期であった。捕食動物，*M. pehpeiensis* を入れた場合，大小両方の容器とも *Ae. albopictus* の生存率が著しく減少した。しかし，*Ae. albopictus* の幼虫は，大きな容器内で，捕食動物がいない場合よりもいる場合の方がより短時間でより大きく成長していた。このことから，捕食動物は蚊を減少させる直接影響と生存個体の適性を高める間接影響の両方を蚊の集団に与えていると考えられた。このことは蚊の成育環境によってはミジンコを用いた媒介蚊対策が時には（環境条件により）困難になる可能性があることを示唆していた⁴⁴⁹⁵。

タイ北部で宿主動物（牛）周囲の蚊の空間分布を調査するため，牛の周囲に竹40本を並べ，その上で休む蚊を吸引法で採集し蚊の種類，吸血状況等を比較検討した。その結果25種の蚊が採取され，*An. aconitus* が最も多く，次いで *An. peditaeniatus*，*Cx. vishnui*，*Cx. pseudovishnui* であった。牛がいる場合といない場合では牛がいる場合に有意に蚊の個体数が増加した。5種の蚊では未吸血のメスの蚊は牛宿主により近い竹の上で休むのを好むことが分かった。この吸血前の Resting は蚊の宿主攻撃による宿主の防御行動を避ける意義があると考えられる⁴⁴⁶⁹。

（文責：森田公一）

4.7 コレラに代表される細菌性下痢症

熱帯感染症センターは、2002年にバンコックで実施した3週間以内のタイへの日本人旅行者（日本以外の経由国からの入国者を含む）327人を対象に、下痢の発症率、症状および治療に関するアンケート調査結果を発表した⁴⁵¹⁵。下痢発症者は69名で、タイへ到着8日以内が多く、特に3日目の発症が高く、16日目以後はなかった。症状は、重度、中度、軽度の下痢がそれぞれ33%、49%、17%であった。また、症状の程度に関係なく発症者の48%が薬を服用、6名が現地の病院で受診していた。

病原因子機能解析分野はこれまでサルモネラ・エンテリティディスの鞭毛蛋白 FliC が Toll-like Receptor 5 (TLR-5) を介した炎症を惹起することを示してきている。そこで徳島大学医学部との共同研究として、この FliC が大腸上皮細胞に NADPH オキシダーゼ 1 (Nox 1) の誘導発現を促し、急激且つ多量なスーパーオキシド O_2^- を産生することを明らかにした。この Nox 1 の誘導発現には p41^{Nox} および p51^{Nox} が共に関与することなども明らかにした⁴⁴¹⁶。サルモネラの鞭毛蛋白 FliC が単に運動機能だけでなく炎症に関わる情報伝達物質であることがさらに確かめられた。

さらに、病原因子機能解析分野はこうしたサルモネラの鞭毛蛋白 FliC が TLR-5 を介して宿主細胞に作用する時に細胞表層に存在するガングリオシドが Co-receptor として機能していることを明らかにした⁴⁴¹⁷。機能するガングリオシドは GD 1 a, GD 1 b, GT 1 b であり、活性構造相関が認められた。 (文責：平山壽哉)

4.8 呼吸器感染症

呼吸器感染症はウイルス、細菌、マイコプラズマ、結核、真菌、原虫、寄生虫などの種々の病原微生物によって発症する。急性上気道炎、急性気管支炎、肺炎、肺化膿症などに分類される。今日においても、急性呼吸器感染症は途上国における小児の主要な死因の一つである。臨床治療予防分野では呼吸器感染症の臨床と発症メカニズムなどの研究を通してその制圧をめざしている。

細菌感染症における抗菌薬を用いた治療は臨床上重要なことで、耐性菌を増加させない努力は大切であり、耐性菌の分布情報の集積は治療指針を決めていくうえで重要である。総説として呼吸器感染症に関する治療のガイドラインを記すとともに⁴⁴⁸⁰、呼吸器感染症における抗菌薬の適切な使い方を概説した^{4458, 4464, 4483}。また、原著として、BLNAR (β -lactamase-negative, ampicillin resistant) のインフルエンザ菌の家族内感染が高い割合であることを報告した⁴⁴⁵¹。

途上国における耐性菌の動向としては、タイの北部でペニシリン耐性肺炎球菌の増加を示した⁴⁴⁴⁷。

呼吸器感染症におけるワクチンの臨床応用では、インフルエンザ（ウイルス）、肺炎球菌、インフルエンザ菌 type b（Hib）、結核菌などに対するワクチンが欧米を中心として評価が得られている中で、国内においても急速にワクチンに関する意識が高まっている。病原細菌の完全な阻止は困難であり、予防策としてワクチンは重要であり、ワクチンの適応とその問題点に関して総説として概説した^{4454 4469 4479 4481}。また、肺炎患者の管理・治療においては、市中肺炎と院内肺炎に関して起炎菌が大きく異なるために、抗菌化学療法は分けて考える必要があることを問いた^{4478 4467 4468 4477}。さらには、市中の一病院における地道な感染症対策の重要性を伝えた⁴⁴⁸⁸。

呼吸器感染症の炎症の現場を考えたときに、好中球浸潤が病原菌感染に対する防御の最初のステップであり、好中球は病原菌を撲滅させると同時に自らも死滅する。この死滅した好中球は組織の炎症の原因となり、肺胞マクロファージ（以下 AM）が貪食することにより速やかな炎症終息をもたらす⁴⁴⁵³。この炎症終息の課程において、MCP 1/CCL2は AM による HGF の発現増加、アポトーシス好中球の貪食を促し、急性細菌性肺炎において重要な役割を担うことを明らかにした⁴⁴⁴⁸。

呼吸器感染症の症例報告としては、*Corynebacterium propinquum* が呼吸器感染症の原因となることを示した症例を報告した^{4457 4484}。また、人畜共通感染症である肺犬糸状虫症の 1 症例⁴⁴⁷¹、シェーグレン症候群に BOOP パターンを合併し ARDS をきたした 1 症例を報告した⁴⁴⁸⁷。

（文責：和田昭裕）

4.9 肝炎および悪性腫瘍

ウイルス肝炎は、慢性に経過すると肝硬変や肝癌に移行しやすいため、その予防や的確な予後の把握はきわめて重要である。特に、C 型肝炎ウイルス（HCV）による肝炎は慢性化し、多くは肝硬変や肝細胞癌を発症する。疫学的に特に熱帯地に多い疾患ではないものの、HIV と同様、輸血や不特定の性交で感染するため、今後とも、地球規模で監視すべき疾患である。

鳥山らは、慢性 C 型肝炎に関する共同プロジェクトを長崎大学医学部第一内科および保健管理センターと進めてきた⁴⁴³⁸。1980年から1999年の20年間にわたる161名の患者の臨床および病理データを解析した結果、注目すべき結論を得た。従来、慢性 C 型肝炎患者では加齢や線維化（極期が肝硬変）などが肝細胞癌の発症リスクファクターとされてきたが、本研究で

新たに肝脂肪沈着症がリスクファクターとなっている事が明らかになったのである。さらに、この脂肪沈着症のある肝炎患者では、BMI（肥満度の指標になる： $\text{kg体重} / \text{m身長}^2$ ）、血中ALT、血中トリグリセリドが高かった。また、インターフェロンの治療が肝細胞癌の発症を抑えていることも確認できた。これらの成果は、20年にわたる地道な観察に基づいて得られたものであり、慢性C型肝炎患者の予後を改善する方法を示唆する貴重なデータである。しかしながら、他のリスクファクターとの相関をも明らかにするためには、さらに症例を重ねることが求められる。実験病理に関しては、肝炎の炎症が活性酸素の産生を高め、これが沈着した脂肪の過酸化などを促進して発癌を促進する可能性があり、興味深い。

（文責：中村三千男）

4.10 その他世界的に問題になっている感染症

近年、世界的に問題になっている感染症として、西ナイル熱^{4414 4399 4406}、SARS^{4460 4465 4470 4474}、ニパウイルス感染症^{4408 4413}、ダニ媒介性脳炎、腎症候性出血熱、ヘリコバクター・ピロリ感染症、ロドコッカス感染症、ペニシリウム・マーネフェイ感染症などが挙げられる。とりわけ、西ナイル熱やSARSは国際感染症として嚴重な監視体制が必要である。

分子構造解析分野では、ウエストナイルウイルスの検出法について検討し、簡便で安価なRT-LAMP法を開発した⁴⁴⁰¹。さらに、ワクチン開発に向けた研究を展開中である^{4409 4415}。さらに、RT-LAMP法によるSARSコロナウイルスの迅速で、高感度な検出法を開発した⁴⁴⁰³。RT-LAMP法はRT-PCR法に比較して約100倍感度が高かった。すなわち、ベトナムにおけるSARS患者検体を用いてRT-PCR法との比較を行ったところ、RT-PCR法では27%が陽性であったのに対し、RT-LAMP法による陽性率は67%と有意に高かったとしている。

病変発現機序分野では、BHK 21細胞に馴化させたダニ媒介性脳炎ウイルスのマウス病原性を検討し、その神経病原性が低下していることを報告した⁴⁴⁴¹。この病原性低下にはE蛋白における1つのアミノ酸配列変異が関与していた。また、ダニ媒介性脳炎ウイルスの血清学的診断のためのELISA法を開発された⁴⁴⁴³。また、腎症候性出血熱は腎症候性出血熱関連ハンタウイルスにより発症するが、極東ロシアにおける腎症候性出血熱患者の血清疫学的調査が実施されている⁴⁴⁴²。一方、ペニシリウム・マーネフェイはAIDS患者において全身播種性感染症を惹起する。同分野では本症の肝臓病変についても病理学的アプローチで検討している⁴⁴³⁹。

感染症予防治療分野はタイ国のエイズ患者に重症・難治性の肺炎を惹起するロドコッカス・エキについて検討している。本研究において、本菌にはrpoB遺伝子の変異によるリファ

ンピシン耐性が生じていることを明らかにした⁴⁴⁴⁶。エイズ患者は同様に肺炎球菌に対して易感染性であるが、その直接的原因は不明である。同分野ではウガンダの HIV 感染者における血清中肺炎球菌血清型特異抗体とその肺炎球菌に対するオプソニン活性を比較し、HIV 感染者の特異抗体のオプソニン活性が低下していることを明らかにした^{4449 4462}。インフルエンザに伴う肺炎、インフルエンザの感染増殖メカニズムについて解説した^{4460 4461 4475}。また、中国における SARS 対策の実際⁴⁴⁶⁵、SARS の臨床像と鑑別疾患⁴⁴⁶⁰について概説した。髄膜炎菌性髄膜炎⁴⁴⁵⁵、メリオイドーシス⁴⁴⁷³についての発表があった。また、社会環境分野でも東南アジアや中国における SARS の感染防止対策について解説した^{4503 4504}。

世界人口の約半数の人々に感染が認められるヘリコバクター・ピロリは胃炎や消化性潰瘍の原因菌であり、リンパ腫や発癌との関連を指摘されている。本菌の感染者は先進国より途上国のヒトのほうが多いことも知られている。本菌の主たる病原因子としては、空胞化毒素 (VacA) と *cag* 病原性遺伝子群が知られている。VacA による空胞形成の分子レベルの機構の詳細は明らかではないが、病原因子機能解析分野ではシタキシン 7 が空胞化形成に関わること、また、VacA によりその発現が誘導されることが明らかにした⁴⁴²⁰。また、VacA により AZ 521細胞において MAP キナーゼの活性化、p38と Erk1/2の活性化が起こることが示され⁴⁴¹⁸、今後 VacA による胃の病変形成との関連性の解明が待たれる。また、*cag* 病原性遺伝子群に関しては、NF- κ B の活性化を通して、MMP 9の発現誘導⁴⁴²¹、RANTES の発現誘導⁴⁴²¹が引き起こされることが示され、これら分子の誘導が炎症形成と関連があると思われる。

熱帯感染症研究センターでは、いかにインターネットを利用して新興・再興感染症などの感染症情報を収集するかを解説した⁴⁵²⁴。メーリングリストを利用したディスカッションの中に得るものがあるとしている。また、新種のダニの同定に関する報告があった^{4522 4529}。

(文責：大石和徳)

4 . 11 細胞からのアプローチ

2003年度、熱帯医学研究所では、病原体感染によって誘導される宿主細胞の応答に関連した以下の研究成果を得た。

炎症細胞機構分野では、食細胞の細菌貪食に関わるフラボシトクローム複合体の構成因子である gp91phox の発現制御に関し研究を行っている。SATB 1 と p300の複合体が gp91phox 遺伝子プロモーターの AT-rich 領域に結合し、gp91phox の発現を抑制することを発見した⁴⁴³⁵。加えて炎症細胞機構分野では、DNA 塩基の脱アミノ反応によって形成されたミスマッチ塩基対の修復機構に関する研究を行っている。宿主細胞は、変異原となりえるこのようなミス

マッチ塩基対を修復するため、ミスマッチ塩基対特異的に結合する因子を発現している。炎症細胞機構分野は、GT ミスマッチ塩基対に結合する新規の細胞因子を発見した⁴⁴³⁶。

エイズ感染防御分野は、ヒト免疫不全症ウイルスと同じレトロウイルスに属するマウス白血病ウイルスによる細胞融合誘導機構に関し研究を行っている。マウス白血病ウイルスのエンベロープ蛋白質の膜融合活性は、C末端Rペプチドにより抑制される。Rペプチドはウイルス粒子放出後に切断され、膜融合活性が賦活化されることが知られている。Rペプチド切断部位にアミノ酸置換を持ち、Rペプチドが切断されない変異体は膜融合および感染を起こさないことから、Rペプチド切断が感染に必須であることを証明した⁴⁴⁸⁹。また、マウス白血病ウイルスエンベロープ蛋白質による細胞融合において蛋白質チロシンリン酸化が関与していることを見いだした⁴⁴⁹⁰。前述したように、Rペプチドはエンベロープ蛋白質の膜融合活性を抑制するが、XC細胞においては抑制されない。この現象は、XC細胞特異的に発現する未知の糖蛋白質により誘導されることを発見した⁴⁴⁹¹。

社会環境分野は、工学部との共同研究において、ウイルス感染症、特にウエスト・ナイルに焦点を絞り、土木工学による衛生環境の改善が感染流行阻止に重要であることを論じた⁴⁵⁰²。

疾病生態分野は、歯学部との共同研究において、骨発生の解析において9.4 T magnetic resonance microimaging が有効であることを報告した⁴⁵¹¹。（文責：久保嘉直）

4.12 社会からのアプローチ

本項は本研究所で行われた熱帯医学研究における「社会からのアプローチ」という項目を概観する。内容はさまざまであるが、大まかに分類してみると三つに分かれる。更にその大項目を分類してみると、以下のようになる。

I. 疫学（感染症）モデルの構築に関するもの

1. 地理情報システム（GIS：Geographic Information systems）を使うことを前提とした研究
2. 数学モデルを使うことを前提とした研究

II. 地域研究に関するもの

1. 地域プロスペクティブ研究に関するもの
2. ライフスタイルや分娩・授乳に関する研究

III. 身体計測や血液型を含む遺伝型といったものに関する研究

それぞれについて、簡単な概説を試みる。

I - 1 . 地理情報システムを使うことを前提とした研究については、計 4 本の報告^{4505 4506 4507}、⁴⁵⁰⁸が行われている。^{4506 4507}では、地理情報システムが疾病対策や国際保健の枠組みの中でどのように役立ち、応用されるかについての概論的な報告が行われ、⁴⁵⁰⁸では、1854年にロンドンで流行していたコレラ対策に大きな貢献をしたジョン・スノーの研究データを題材として、地理情報システムを使った空間分析が行われている。地理情報システムの有用性が確認できるものとなっている。一方⁴⁵⁰⁵では、情報に対する判断性を向上させるための保健情報の視覚化が今後、重要な課題となる可能性が述べられている。以上をまとめてみれば、上記 4 本の報告で、地理情報システムの保健分野における可能性と重要性が述べられていることがわかる。アフガニスタン、イラクの復興戦略作りのなかで地理情報システムが米国援助機関により大々的に応用され、保健医療、教育分野における必要な資源の量、資源の適切な配置といった面において大きな役割を果たしたことを考えれば、今後地理情報システムが果たす役割は、特に政策決定の過程でますます大きくなるものと思われる。

I - 2 . 数学モデルを使うことを前提とした研究⁴⁵²⁸では、感染症疫学モデル構築の意義が述べられており、論考の最後で著者らは「目で見たもの耳で聞いたもの触ってみたものだけがリアルな情報であって、それ以外はバーチャルであるというナイーブな考えを今日一体誰が持つだろうか？」という反語を投げかけ、数学モデルを使った感染症疫学モデルの構築が現実世界の理解のために重要であると述べている。地理情報システムと同様、数学モデルを使った感染症疫学モデルは重症急性呼吸器感染症 SARS の流行予測や、また天然痘ウイルスや炭疽菌を使ったバイオテロによる被害予測と対策評価にも応用されており、今後その果たすべき役割が大きくなっていく分野であると考えられる。

II の地域研究に関する研究においては、⁴⁵²⁷で具体的なフィールドの設定と時間縦断的研究の重要性が述べられている。また⁴⁵²⁶のパネルディスカッションでは、地域研究、人類生態学の専門家と熱帯医学の専門家の間で、「地球温暖化は途上国の人々の健康と生活にどのような影響を与えるか？」といったテーマについて討論が行われている。地域研究、人類生態学、熱帯医学といった分野の融合的研究が今後どのように発展するか（すべきか）についての示唆が得られる。また、⁴⁵¹⁸のバングラデシュ・ダムライ郡における分娩・授乳状況に関する研究では、同郡において、分娩は家庭で、分娩介助はトレーニングを受けた伝統的産婆によって行われていることが示されたが、一方で、専門職による施設内分娩介助は限定的であり、また出産、母子保健指導が異なる人によって行われている弊害が示唆された。また、⁴⁵¹⁹の肥前大島で行われたライフスタイルに関する要因が踵骨硬縮に与える影響についての研究では、年齢、BMI、身体活動指標、閉経後年数が硬縮に影響を与えていることが示された。

III の身体計測や血液型を含む遺伝型といったものに関する研究のなかでは、⁴⁵¹⁶で体脂肪・

除脂肪体重インデックスを用いて日本人の加齢による体重増加構造を明らかにされた。また、⁴⁵²⁰では在米日系人は20代前半までは体重が増加しても体脂肪割合は日本人と変わっていないことが報告された。これらは日本人を対象とした基礎的研究であるが、熱帯地域の人々の発育、栄養不良、肥満を評価する際の重要な比較標準を形成する研究ともいえる。⁴⁵¹⁷は、ビスマルク諸島に暮らすメラネシア人の子孫の遺伝的特性を ABO 血液型の多型性に注目して調べた研究となっている。その結果、バロパの人々はギデラの人々よりトンガの人々に遺伝的に近く、またバロパの人々はトンガの人々とアジア人の中間に位置することがわかった。⁴⁵²³では、南太平洋諸島民の間における band 3 gene の27塩基欠損について研究された。研究の結果、東南アジアの人々と比較して、ニューギニアに暮らす人々の間の band 3 gene の27塩基欠損頻度が低いこと、この欠損が三千五百年ほど前に東南アジアからの移動によって持ち込まれた可能性が示唆された。

(文責：山本太郎)

5 特別事業費による事業

5.1 熱帯医学研修課程

熱帯医学研修課程は、研究所のミッションのひとつである教育・研修プログラムの中で、「専門家の育成」として位置付けられている。文部省（当時）により昭和53年度（1978）に本研究所に設けられた、現在我が国唯一の熱帯医学に関する専門的な研修課程である。毎年6月から8月の3ヶ月間行われる。定員は従来10名であったが、応募者数の増加と東大医科研の同種コースの閉鎖に伴い、平成12年から定員15名となった。

研修課程の目的は、熱帯医学に関する基本的かつ系統的な知識や技術を伝え、熱帯医学領域の理解を助け、この領域への参入を支援することであり、その対象者としては、現在の専門に熱帯医学の理解が重要と考える研究者、あるいは熱帯医学領域の活動を志す者、また国内における活動に熱帯医学の知識と技能を必要とする者など、広範な人材を想定している。

運営は、所外関連領域機関長および専門家14名に委嘱して構成されている熱帯医学研修課程運営委員会の指導の元に、実質的には所内の教務委員会が司っている。

平成15年度（第26回）熱帯医学研修課程は、平成15年6月2日から8月29日までの3ヶ月間にわたり定員15名で実施した。

運営委員会は、研修課程終了時の平成15年8月28日に本研究所において、研修生との交換会も兼ねて開催した。運営委員の出席は5名であった。

運営委員会では、平成15年度の実施報告に続き、カリキュラム、講義実習の内容、研修生選抜方法、研修生による評価など多岐にわたって討議されたが、具体的な平成16年度研修生募集要項（案）及び熱帯医学研修課程運営については、熱帯医学研究所内の教務委員会が運営委員会の討議内容に基づいて企画実施することで了承された。

1. 応募者について（図）

本年度応募者は、定員15名に対し28名、国内28名（11都道府県）国外0名で、九州管内からの応募者は4名であった。昨年の25名から3名増である。

2. 研修生について

本年度の選考にも点数制を取り入れた。

昨年度は海外経験のある者が高得点になる配点であったが、本年度は一転して、これまでに海外における活動経験はないがこれから海外で活動する希望を持っている者に有利な選考となった。実際、海外経験のあるものは2名に過ぎなかった。

図1 応募者内訳（男女別）

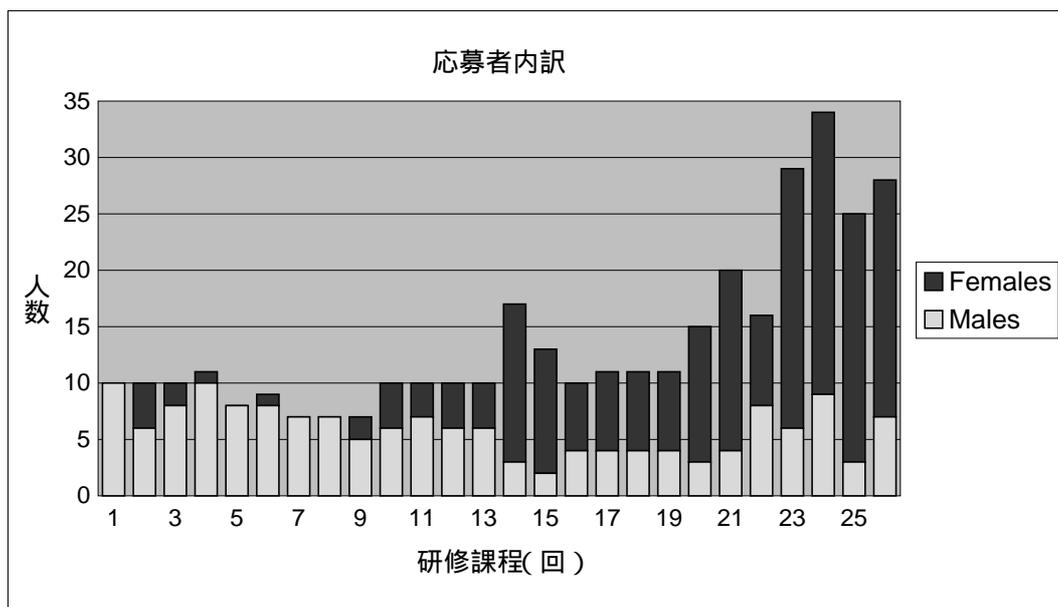
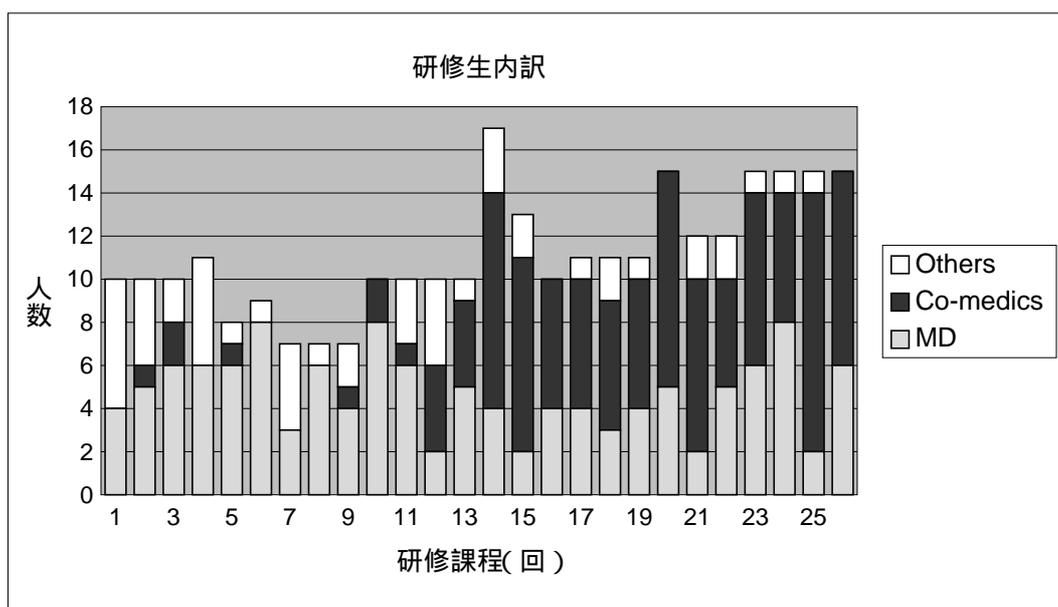


図2 研修生内訳（専門別）



政府組織からの応募が本年度も検疫所から1名、自衛隊から2名あった。検討の結果、これらの応募に対して本年度は無条件で受け入れることにした。従って、実質的に選考されて入学した者は12名である。

3. カリキュラムについて

本年度から、各科目に共通する技術や知識に関する講義を、研修課程のはじめの部分に置いた。その他は従来の方法を踏襲した。

4. 研修生による評価

講義・実習の「内容」についての評価は悪くないが、講義・実習の「方法」に対する評価は相対的に低かった。「研修は仕事に関連しているか」との質問に、医師以外の研修生による評価は低く、研修内容を今後再考する必要があるかも知れない。

5. 運営委員会

1) 研修生選考

未だに募集要項が明確ではない、モチベーションの高い者を優先的に取ることができるよう工夫をすべきである、公的機関からの応募者を受け入れる条件も募集要項に明解に記載すべきであるなどの意見が述べられた。

2) 修士課程が実現されても研修課程は残すべきであるという意見が多数を占めた。

3) プログラムの中に海外実習を実現するための努力は今後も続けるべきである、コミュニティでの活動していく上で必要な技術を勉強したい者と熱帯医学を専門にしたい者を分けるなどの選択制を導入することも検討してはどうか、などの意見が述べられた。

(文責：嶋田雅暁)

6 文部科学省科学研究費補助金等による研究

6.1 文部科学省科学研究費補助金(平成15年度採択分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究 (2)	教授・森田公一	2,700	西ナイルウイルスのワクチン試作とその評価	15年度
特定領域研究 (2)	教授・平山謙二	5,200	重症型熱帯感染症(デング出血熱慢性シャーガス病)の感受性遺伝子の解明	15年度
基盤研究(A) 海外(2)	教授・高木正洋	9,900 間接 2,970	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度 継続
基盤研究(B) 展開(2)	教授・平山壽哉	3,600	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発基盤	13年～15年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・森田公一	3,600	デング出血熱重症化に関する宿主および病原体因子の解明	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・平山壽哉	6,000	ヘリコバクター・ピロリ感染の多様な疾患と VacA 毒素の多型比較調査	14年～15年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	講師・上村春樹	2,100	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性:地域性と時間的推移	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・青木克己	4,900	ビルハルツ住血吸虫症:感染者の疾病認識に沿った調査により明らかになる多様な病害	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・岩崎琢也	4,000	東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・鳥山寛	3,100	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・大石和徳	3,600	デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明	14年～15年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・平山謙二	4,200	南米のシャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析	15年～18年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・嶋田雅暁	1,400	アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究	13年～15年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・門司和彦	600	エイズと住血吸虫感染の予防行動に対する健康教育の有効性に関する研究	12年～15年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助手・安高雄治	1,800	アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用	14年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	助手・江原雅彦	2,400	Non-O1 コレラ菌の組織侵入, 敗血症憎悪メカニズム	15年～16年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(C) — 一般(2)	教授・中村三千男	1,300	リケッチア感染による gp91phox 遺伝子発現の修飾機構の解析	14年～15年度 継続
基盤研究(C) — 一般(2)	講師・熊取厚志	2,100	炎症時のインターフェロン γ によるシトクロム b558重鎖遺伝子発現誘導機構の解析	15年～16年度 継続
基盤研究(C) — 一般(2)	教授・岩崎琢也	1,300	単純ヘルペス感染における粘膜より神経への伝播経路の解明	14年～15年度 継続
基盤研究(C) — 一般(2)	助教授・大石和徳	1,600	インフルエンザ菌による肺適応免疫誘導に関する研究	14年～15年度 継続
萌芽研究	教授・平山壽哉	2,000	ピロリ菌空胞化毒素を阻害する血清成分に関する研究	15年～16年度 継続
萌芽研究	教授・平山謙二	2,000	住血吸虫性肝線維化を調節するT細胞を刺激する虫卵抗原の同定	15年～16年度 継続
萌芽研究	助教授・大渡伸	2,300	水圧振動の共鳴・忌避周波数による水棲病害微生物の選択的駆除と生態系影響評価	15年～17年度 継続
萌芽研究	教授・門司和彦	600	アフリカにおける子どもの「病いの疫学」と統合ケア(IMCI)	14年～15年度 継続
若手研究(B)	助手・鈴木章一	2,400	IRF-4欠損マウスを用いた樹状細胞の分化及び活性化機構の解析	15年～16年度 継続
若手研究(B)	助手・早坂大輔	1,600	フラヴィウイルスの節足動物細胞における感染・増殖機構に関する分子基盤の解明	15年～17年度 継続
若手研究(B)	助手・久保嘉直	1,300	レトロウイルスエンベロープ蛋白質による膜融合のシグナル伝達経路	14年～15年度 継続
若手研究(B)	助手・都野展子	1,500	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	15年～17年度 継続
合計	直接経費 間接経費	79,100 2,970		

6.2 文部科学省科学研究費補助金(平成16年度内定分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究 (2)	教授・平山壽哉	7,500	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現機序	16年～17年度 継続
特定領域研究 (2)	教授・平山謙二	6,400	デング出血熱の感受性遺伝子の解明	16年～17年度 継続
特定領域研究 (2)	教授・森田公一	3,500	西ナイルウイルスのワクチン開発	16年～17年度 継続
基盤研究(A) 海外(2)	教授・高木正洋	7,700 間接 2,310	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・鳥山寛	3,100	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	講師・上村春樹	2,000	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性：地域性と時間的推移	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・岩崎琢也	4,200	東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助手・安高雄治	1,200	アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用	14年～16年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・平山謙二	3,900	南米のシャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析	15年～18年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・青木克己	4,000	ビルハルツ住血吸虫症：感染者の疾病認識に沿った調査により明らかになる多様な病害	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・森田公一	4,200	デング出血熱重症化に関与する宿主および病原体因子の解明	15年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	教授・神原廣二	5,700	インドネシアにおけるマラリア薬剤耐性の起源と現状	16年～17年度 継続
基盤研究(B) 海外(2)	助教授・大石和徳	6,600	デング出血熱の重症化機序の解明と治療戦略	16年～17年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	講師・熊取厚志	1,500	炎症時のインターフェロンによるシトクロム b558 重鎖遺伝子発現誘導機構の解析	15年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	助手・江原雅彦	1,100	Non O1 コレラ菌の組織侵入、敗血症憎悪メカニズム	15年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	教授・中村三千男	2,600	新奇 GT ミスマッチ DNA 結合タンパク質の解析	16年～17年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(C) 一般(2)	講師・和田昭裕	2,100	病原性遺伝子群をもつヘリコバクター・ピロリによる宿主細胞への炎症誘導機構	16年～17年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	教授・岩崎琢也	2,200	アルファヘルペスウイルス感染の体内動態：侵入から神経への感染初期の伝播経路	16年～17年度 継続
萌芽研究	助教授・大渡伸	700	水圧振動の共鳴・忌避周波数による水棲病害微生物の選択的駆除と生態系影響評価	15年～17年度 継続
萌芽研究	教授・平山謙二	1,300	住血吸虫性肝線維化を調節するT細胞を刺激する虫卵抗原の同定	15年～16年度 継続
萌芽研究	教授・平山壽哉	1,200	ピロリ菌空胞化毒素を阻害する血清成分に関する研究	15年～16年度 継続
若手研究(B)	助手・都野展子	1,100	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	15年～17年度 継続
若手研究(B)	助手・鈴木章一	1,100	IRF-4欠損マウスを用いた樹状細胞の分化及び活性化機構の解析	15年～16年度 継続
合計	直接経費 間接経費	74,900 2,310		

6.3 受託研究費（平成15年度分）

受託者等	職・氏名	研究課題	備考
科学振興財団 (CREST)	教授・森田公一	ウイルス感染症における糖鎖機能の解明と創薬への応用	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業	教授・森田公一	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究	分担研究者
環境省地球環境保全試験研究費	教授・森田公一	節足動物媒介性ウイルス疾患の予防・治療に関する研究	分担研究者
PRESTO さきがけ研究21	助手・和田昭裕	ヘリコバクター・ピロリの空砲化致死毒素の作用機序解析と新しい治療戦略	
国際協力事業団開発パートナー事業	教授・神原廣二	インドネシア国ロンボックおよびスンバワ島におけるマラリア対策	プロジェクトマネージャー
国際協力研究委託費	教授・神原廣二	<i>Anopheles subpictus</i> によって起こされるマラリア制圧の試み	分担研究者
千葉大学ナショナルバイオリソースプロジェクト	教授・神原廣二	中核的拠点整備プロジェクト - 病原微生物 - 病原性原虫の収集、株保存と分析、その提供	協力業務担当者
国際医療協力研究委託事業	教授・青木克己	国際寄生虫対策の効率的な推進方策に関する研究	分担研究者
日米医学協力研究プログラム：急性呼吸器感染症部会	教授・永武毅	急性呼吸器感染症に関する研究	部長
日米医学協力計画アジア地域奨励研究事業	教授・永武毅	タイ北部地域におけるインフルエンザ流行に関する調査研究	主任研究者
厚生科学研究費補助金創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業	助教授・大石和徳	抗体価測定法の確立・評価及び抗体価とオプソニン活性の相互関連に関する研究	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業	助教授・大石和徳	水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌による肺炎等の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究	分担研究者
杏林製薬株式会社との共同研究	教授・永武毅	ヒト咽頭上皮細胞への肺炎球菌付着に及ぼすカルボシステインの影響に関する研究	研究担当者
厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業	助手・久保嘉直	HIV 及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究	研究協力者
厚生労働科学研究費補助金社会保障国際協力研究事業	教授・溝田勉	わが国の国際協力を担う国内の人材育成及び供給強化並びにキャンパスのために医学教育が果たすべき役割の研究	主任研究者

受託者等	職・氏名	研究課題	備考
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業	教授・平山謙二	輸入蠕虫性疾患の監視と医療対応整備に関する研究（H15 - 新興 8）	分担研究者
国際医療協力研究委託費国立国際医療センター	教授・平山謙二	薬剤耐性化が進む国際的な重要な感染症の予防・治療のためのワクチン及び化学療法開発とその応用に関する研究（分担研究課題：マラリアワクチン及び薬剤開発に関する研究）	分担研究者
国際医療協力研究委託費	教授・門司和彦	オペレーションリサーチに基づいた学校保健手法等改良とESACIPAC, WACIPAC研修プログラムへの還元（14公2）	分担研究者

7 海外活動

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	門司和彦	現地調査視察及び研究打ち合わせ	タイ、バン ラデッシュ、 ラオス	H15.4.1 ～ H15.4.13	委任経理金
教授	森田公一	WHOのSARS対策に専門家として参加するため	フィリピン、 ラオス、カン ボジア、中国	H15.4.3 ～ H15.4.17	世界保健機関
技能補佐員	吉永一未	マラリアコントロール研究	インドネシア	H15.4.6 ～ H16.3.17	JICA
教授	平山壽哉	「Experimental Biology 2003」出席	アメリカ	H15.4.10 ～ H15.4.16	自費
助手	都野展子	雨期のガンピエハマダラカ姉妹種の発生活長の調査及び収集	ケニア	H15.4.14 ～ H15.5.9	自費
技能補佐員	前川芳秀	マラリアコントロール研究	インドネシア	H15.4.15 ～ H16.3.17	JICA
助手	安高雄治	本人科研：基盤B ⁽²⁾ による現地調査及び研究打ち合わせ	タンザニア	H15.4.20 ～ H15.5.13	科学研究費補助金(基盤研究(B) ⁽²⁾)
助教授	大石和徳	SARS感染症対策に従事(WHO依頼)	フィリピン、 中国	H15.5.10 ～ H15.6.11	先方負担
教授	平山壽哉	研究打ち合わせと学会発表	アメリカ	H15.5.15 ～ H15.5.23	委任経理金
教授	神原廣二	JICA開発パートナー事業	インドネシア	H15.5.18 ～ H15.6.1	産学連携等研究費
教授	門司和彦	JICA開発パートナー事業	インドネシア	H15.5.18 ～ H15.6.1	産学連携等研究費
助手	金田英子	研究・調査打ち合わせのため	ネパール	H15.5.20 ～ H15.6.12	自費
教授	高木正洋	JICA開発パートナー事業	インドネシア	H15.5.25 ～ H15.6.1	産学連携等研究費
助手	柳哲雄	ナショナルバイオリソースプロジェクト実施	ネパール	H15.6.1 ～ H15.6.15	産学連携等研究費
教授	神原廣二	ナショナルバイオリソースプロジェクト実施	ネパール	H15.6.3 ～ H15.6.12	産学連携等研究費

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山謙二	中南米シャーガス病重症化の遺伝要因解析のため、患者の採血を行う	ボリビア	H15.6.8 ～ H15.6.15	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	中村三千男	学会出席・発表・共同研究打ち合わせ	アメリカ	H15.6.9 ～ H15.6.18	科学研究費補助金
教授	高木正洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価の実施	ベトナム, タイ, インドネシア	H15.6.14 ～ H15.6.26	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
助手	都野展子	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価の実施	ベトナム	H15.6.14 ～ H15.6.28	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	平山謙二	重症型熱帯感染症(Dengue 出血熱, 慢性シャーガス病)の感受性遺伝子の解明	ベトナム	H15.6.21 ～ H15.6.25	科学研究費補助金(特定領域(2))
助手	菊池美穂子	重症型熱帯感染症(Dengue 出血熱, 慢性シャーガス病)の感受性遺伝子の解明	ベトナム	H15.6.21 ～ H15.7.2	科学研究費補助金(特定領域(2))
教授	森田公一	Dengue 出血熱の研究	ベトナム	H15.7.2 ～ H15.7.5	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講師	長谷部太	蚊媒介性ウイルス性疾患の調査並びに不明脳炎のフィールド調査	ベトナム	H15.7.2 ～ H15.7.29	JSPS並びにWHO
教授	門司和彦	研究打ち合わせ・現地調査	タイ, バングラデッシュ, ベトナム, ラオス	H15.7.10 ～ H15.8.9	科学研究費補助金・JSPS地球環境学研究所
講師	藤巻康教	共同研究	ベトナム	H15.7.13 ～ H15.7.20	JSPS
教授	平山謙二	アジア・大西洋地域における論理委員会連絡会議出席	タイ	H15.7.15 ～ H15.7.21	WHO
助手	都野展子	現地調査・打ち合わせ・資料収集	ケニア, アメリカ	H15.7.15 ～ H15.10.9	科学研究費補助金(若手研究(B))
教授	森田公一	第37回日米ウイルス学会	アメリカ	H15.7.16 ～ H15.7.22	委任経理金
教授	溝田勉	会議への参加と協議	タイ	H15.7.19 ～ H15.7.24	委任経理金
助手	中澤秀介	ベトナムの熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム, ラオス	H15.7.20 ～ H15.8.6	JSPS, 地球環境学研究所

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 手	柳 哲 雄	研究集会並びに会議出席	ア メ リ カ	H15.7.24 ～ H15.8.1	自 費
助教授	大 石 和 徳	デング熱プロジェクトの研究推進	フィリピン	H15.7.27 ～ H15.8.2	科学研究費 補助金(基盤 研究(B)(2))
講 師	川 田 均	熱帯病媒介昆虫の防除に関する共同 研究	インドネシア	H15.7.29 ～ H15.8.4	産学提携等 研 究 費
助 手	江 原 雅 彦	JSPS ベトナム拠点大学学術交流, 経口コレラワクチン開発に向けて意 見交換	ベトナム	H15.8.1 ～ H15.8.15	J S P S
助教授	鳥 山 寛	疫学及び組織学調査	タ イ	H15.8.2 ～ H15.8.17	科学研究費 補助金(B)(2)
教 授	平 山 謙 二	重症型熱帯熱感染症(デング出血 熱)の感受性遺伝子の解明の研究打 ち合わせ	マレーシア	H15.8.6 ～ H15.8.11	科学研究費 補助金(特 定領域(2))
教 授	嶋 田 雅 暁	住血吸虫症の現地調査及び研究打 ち合わせ	タンザニア	H15.8.7 ～ H15.8.25	科学研究費 補助金(特 定領域(C))
教 授	永 武 毅	バングラデッシュでは熱帯地方にお ける急性呼吸器感染症の実態調査と 治療及び予防に関する臨床的実験・ タイ国における髄膜炎菌の疫学調査 とインフルエンザの予防対策, 疫学 調査の研究	タイ, バ ン グ デ ッ シュ	H15.8.17 ～ H15.8.24	委任経理金
助 手	麻 生 憲 史	タイ国における髄膜炎菌の疫学調査 とインフルエンザの予防対策, 疫学 調査の研究	タ イ	H15.8.17 ～ H15.8.21	委任経理金
教 授	高 木 正 洋	疫学と環境解析, 蚊の生態調査の実 施	マレー シア, イ ン ド ネ シ ア	H15.8.18 ～ H15.9.7	科学研究費 補助金(基盤 研究(A)(2))
教 授	神 原 廣 二	インドネシア, ロンボク及びスンバ ワ島のマラリアコントロール研究	インドネシア	H15.8.21 ～ H15.9.7	産学提携等 研 究 費・ J I C A
助 手	金 田 英 子	ラオス保健省において研究プロジェクト4-2 「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生 態史の統合的研究」に関する研究打ち合わせ	ラ オ ス	H15.8.21 ～ H15.8.31	総 合 地球環境学 研 究 所
教 授	門 司 和 彦	JICA 開発パートナー事業によるロ ンボク島でのマラリア対策に参加	インドネシア	H15.8.23 ～ H15.9.1	J I C A
講 師	川 田 均	熱帯病媒介昆虫の防除に関する共同打ち合わせ及び JICA パートナーシップ事業「インドネシア・ロン ボク及びスンバワ島におけるマラリア対策」の実施	インドネシア	H15.8.24 ～ H15.9.6	産学連携等 研 究 費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助教授	大 石 和 徳	熱帯感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H15 .8 .25 ～ H15 .9 .1	J S P S
講 師	熊 取 厚 志	フィリピンケソン市セントルークスメディカルセンターにおけるデング熱プロジェクトの研究推進	フィリピン	H15 .8 .31 ～ H15 .9 .9	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講 師	藤 巻 康 教	共同研究課題「土壌媒介寄生虫」プロジェクトに関する業務遂行	ベトナム	H15 .9 .3 ～ H15 .9 .17	J S P S
教 授	平 山 謙 二	日米医学協力寄生虫疾患専門部会合同会議に出席・住血吸虫性肝線維化を調整するT細胞を刺激する虫卵抗原の同定の研究	アメリカ	H15 .9 .6 ～ H15 .9 .13	名古屋市立大 学
助 手	渡 部 幹 次	日米医学協力会議にて研究成果発表 U.S.D.A にて共同研究, ジョージア大にて研究打ち合わせ	アメリカ	H15 .9 .6 ～ H15 .9 .25	日米医学協力研究会
教 授	岩 崎 琢 也	タイ国 NIH 等において新興感染症のウイルス学実習並びに講義	タ イ	H15 .9 .7 ～ H15 .9 .13	日本国際医療団
助 手	安 高 雄 治	熱帯感染症, 特に住血吸虫症に関する疫学調査及び研究打ち合わせ	タンザニア, マダガスカル	H15 .9 .8 ～ H15 .11 .13	科学研究費補助金・統計数理研究所
教 授	嶋 田 雅 暁	タイにおける寄生虫等の情報分析と整理手法 GIS を用いて指導	タ イ	H15 .9 .9 ～ H15 .9 .20	J I C A
助 手	中 澤 秀 介	ベトナムの熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H15 .9 .9 ～ H15 .10 .9	J S P S
助教授	大 石 和 徳	北京にて SARS の臨床研究の打ち合わせ	中 国	H15 .9 .14 ～ H15 .9 .17	科学研究費補助金(特定領域)
助 手	金 田 英 子	アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究に関する打ち合わせ	ラ オ ス	H15 .9 .14 ～ H15 .9 .25	総合地球環境学研究所
助 手	井 上 真 吾	デングウイルス及び日本脳炎ウイルス感染症の海外学術共同研究	フィリピン	H15 .9 .18 ～ H15 .10 .25	科学研究費補助金(基盤研究(B))
助 手	柳 哲 雄	ナショナルバイオリソースプロジェクト実施・病原体原虫株保存と分析・提供のための材料収集	ネパール	H15 .9 .18 ～ H15 .10 .7	産学連携等研究費
教 授	平 山 謙 二	SOPs の会議出席及び重症型熱帯感染症(デング熱)の感受性遺伝子の解明の研究について打ち合わせ	タ イ , ベトナム	H15 .9 .27 ～ H15 .10 .2	科学研究費補助金(特定領域(2)), WHO
教 授	平 山 壽 哉	ヘリコバクター・ピロリ毒素の毒素化剤開発に関する調査研究	アメリカ	H15 .10 .6 ～ H15 .10 .19	在外研究員等旅費

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	森 田 公 一	デング出血熱の研究	ベトナム	H15.10.13 ～ H15.10.18	科学研究費 補助金(基盤 研究(B)(2))
助 手	菊 池 美 穂 子	重症型熱帯感染症(デング熱)の感 受性遺伝子の解明の為,現地にてサ ンプル調整	ベトナム	H15.10.17 ～ H15.11.1	科学研究費 補助金(特 定領域(2))
助 手	谷 村 晋	ホンジュラス・第7保健地域リプロダ クティブヘルス向上 JICA 短期派遣専門 家として保健医療情報システムの指導	ホンジュラス	H15.10.26 ～ H15.11.23	国際協力 事業団
教 授	青 木 克 己	日韓寄生虫セミナー出席	韓 国	H15.10.28 ～ H15.10.30	委任経理金
教 授	嶋 田 雅 暁	今日の寄生虫に関する研究打ち合わ せ	韓 国	H15.10.28 ～ H15.10.30	科学研究費 補助金(特 定領域(C))
教 授	平 山 謙 二	重症型熱帯感染症の感受性遺伝子の 解明に関連のある研究者と研究打ち 合わせ	韓 国	H15.10.28 ～ H15.10.30	科学研究費 補助金(特 定領域(2))
講 師	川 田 均	JICA 事業「インドネシア・ロンボ ク及びスンバウ島におけるマラリア 対策」の実施	インドネシア	H15.11.3 ～ H15.11.8	産学連携等 研究費
助 手	江 原 雅 彦	コレラ経口ワクチンのためのパイロッ トエリア設定,コレラ菌の培養方法, 綿毛精製等の技術移転及び学会出席	ベトナム	H15.11.29 ～ H15.12.12	C O E
助 手	金 田 英 子	研究・調査打ち合わせのため	ネパール	H15.11.7 ～ H15.11.15	自 費
教 授	平 山 謙 二	RNAS 会議出席及び研究打ち合わせ タマサート大学にて研究打ち合わせ	ラオス, タイ	H15.11.24 ～ H15.11.29	科学研究費 補 助 金 (萌芽研究)
助 手	安 高 雄 治	マヌース島において地域開発が及ぼ す影響について調査	パプア ニューギニア	H15.11.30 ～ H15.12.26	科学研究費 補助金(基 盤研究(A))
教 授	平 山 謙 二	南米のシャーガス病の重症化を規定 するヒト及び原虫の遺伝子解析につ いての研究打ち合わせ	アメリ カ	H15.12.3 ～ H15.12.8	科学研究費 補助金(基 盤研究(B))
助 手	井 上 真 吾	フィリピン微生物及び寄生虫学学会 年次総会での招待講演	フィリ ピン	H15.12.4 ～ H15.12.7	自 費
教 授	神 原 廣 二	インドネシア,ロンボク及びスンバ ウ島のマラリアコントロール研究	インドネシア	H15.12.6 ～ H15.12.23	産学連携等 研究費 (JICA)
教 授	森 田 公 一	第6回アジア・太平洋医科ウイルス 学会で発表及びWHO デングネット 委員会に参加	マレー シア	H15.12.6 ～ H15.12.15	W H O

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	高 木 正 洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	インドネシア	H15.12.7 ~ H15.12.21	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教 授	門 司 和 彦	JICAによるロンボク島でのマラリア対策に参加	インドネシア	H15.12.7 ~ H15.12.20	J I C A
助 手	井 上 真 吾	デングウイルス及び日本脳炎ウイルス感染症の海外学術共同研究	フィリピン	H15.12.8 ~ H15.12.13	自 費
教 授	永 武 毅	日米医学協力委員会とアジア地域奨励研究事業報告会に参加	バングラディッシュ	H15.12.10 ~ H15.12.14	日米医学協力研究会
教 授	岩 崎 琢 也	熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策に関する研究実施	ベトナム	H15.12.11 ~ H15.12.17	J S P S
教 授	平 山 壽 哉	米国細胞生物学会出席・成果発表	アメリカ	H15.12.12 ~ H15.12.17	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教 授	平 山 謙 二	アジアと太平洋地区における国際論理委員会に出席	タ イ	H15.12.14 ~ H15.12.18	W H O
講 師	上 村 春 樹	ベトナムの熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H15.12.14 ~ H15.12.25	J S P S
助 手	金 田 英 子	研究プロジェクト打ち合わせ	ラ オ ス	H15.12.14 ~ H15.12.29	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教 授	門 司 和 彦	水利用に関わるヒト空間行動の把握と技術に関する研究打ち合わせ及び現地調査	ラ オ ス	H15.12.24 ~ H15.12.29	東北大学大学院工学研究科
教 授	門 司 和 彦	ビルハルツ住血吸虫症の疫学的研究	ケ ニ ア	H16.1.7 ~ H16.2.2	C O E
教 授	平 山 壽 哉	細菌毒素の感染における役割と病態形成との関連についてのディスカッション及び資料収集	フ ラ ン ス	H16.1.8 ~ H16.1.12	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教 授	青 木 克 己	ケニア中央医学研究所の研究者達と調査打ち合わせ及びビルハルツ住血吸虫感染者における治療前の排尿困難の調査	ケ ニ ア	H16.1.10 ~ H16.1.18	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助 手	渡 部 幹 次	ビルハルツ住血吸虫侵淫地であるケニア国においてその感染者の排尿困難の評価を行う	ケ ニ ア	H16.1.10 ~ H16.2.7	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教 授	岩 崎 琢 也	中枢神経組織のウイルス感染症のウイルス病理学的解析の海外学術共同研究	マレーシア	H16.1.14 ~ H16.1.17	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助手	柳 哲 雄	インドネシアのマラリア流行疫学調査	インドネシア	H16.1.16 ~ H16.1.30	産学連携等 研究費
教授	平 山 謙 二	WHO/TDR 臨床的管理の定例会議に出席	タ イ	H16.1.18 ~ H16.1.22	W H O
教授	嶋 田 雅 暁	住血吸虫症の流行地の感染情報を収集し、住民の生活様式等を調査	タンザニア	H16.1.21 ~ H16.2.11	科学研究費 補助金(特定領域(C))
教授	平 山 謙 二	マラリアワクチンに関する研究打ち合わせ	ガ ー ナ , ス イ ス	H16.1.25 ~ H16.2.3	C O E
教授	永 武 毅	外務省巡回医師団として参加	ウガンダ, ケ ニ ア	H16.1.28 ~ H16.2.8	外 務 省
助手	麻 生 憲 史	急性呼吸器感染症と耐性菌感染の実態調査に関する打ち合わせ	タ イ	H16.1.10 ~ H16.1.17	C O E
講師	川 田 均	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	インドネシア	H16.2.1 ~ H16.2.7	科学研究費 補助金(基盤 研究(A)(2))
助教授	鳥 山 寛	腫腸ウイルス関連疾患の疫学及び病理学的研究	タ イ	H16.2.3 ~ H16.2.17	科学研究費 補助金(基盤 研究(B)(2))
教授	高 木 正 洋	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	インドネシア	H16.2.7 ~ H16.2.15	科学研究費 補助金(基盤 研究(A)(2))
助教授	大 石 和 徳	熱帯医学研修プログラムにおける研修医の指導	フィリピン	H16.2.8 ~ H16.2.14	C O E
助手	金 田 英 子	研究打ち合わせ・指導	ラ オ ス	H16.2.8 ~ H16.3.14	自 費
講師	長谷部 太	WHO からの依頼による鳥インフルエンザの調査派遣	フィリピン	H16.2.9 ~ H16.2.29	W H O
教授	平 山 壽 哉	研究動向調査と共同研究打ち合わせ	オーストラリア	H16.2.10 ~ H16.2.14	科学研究費 補助金(基盤 研究(B)(2))
教授	青 木 克 己	セントルークス医療センターとの学術交流協定及び COE 覚書調印式出席	フィリピン	H16.2.16 ~ H16.2.18	C O E
教授	森 田 公 一	セントルークス医療センターとの学術交流協定及び COE 覚書調印式出席	フィリピン	H16.2.16 ~ H16.2.18	C O E

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山 壽哉	日韓ヘリコバクター合同会議招待講演	韓国	H16.2.20 ~ H16.2.22	日韓ヘリコバクター合同会議
講師	川田 均	熱帯病媒介昆虫の防除に関する研究打ち合わせ及び AMCA 年次学会出席	アメリカ	H16.2.22 ~ H16.2.29	産学連携等研究費
助手	中澤 秀介	ベトナムの熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策	ベトナム	H16.2.23 ~ H16.3.29	J S P S
教授	永武 毅	小児髄膜炎に対するワクチンによる予防戦略に関する共同研究の打ち合わせ	バングラディッシュ	H16.2.26 ~ H16.3.1	C O E
教授	溝田 勉	小児髄膜炎に対するワクチンによる予防戦略に関する共同研究の打ち合わせ	バングラディッシュ	H16.2.26 ~ H16.3.1	C O E
教授	神原 廣二	インドネシア・ロンボク及びスンバワ島のマラリアコントロール研究・現地指導及び会議・進行状況調査	インドネシア	H16.2.28 ~ H16.3.15	J I C A
教授	門司 和彦	マラリア対策参加及び研究打ち合わせ	インドネシア, バングラディッシュ, ラオス	H16.2.28 ~ H16.3.13	JICA 科学研究費補助金 東北大学大学院工学研究科
講師	藤巻 康教	学術交流事業における共同研究課題「土壌媒介寄生虫プロジェクト」遂行	ベトナム	H16.2.29 ~ H16.3.13	J S P S
教授	岩崎 琢也	ヘルペス群ウイルス感染症の診断並びに治療法についての国際会議に出席	オランダ	H16.2.26 ~ H16.3.2	I H M F
教授	高木 正洋	インドネシア・ロンボク及びスンバワ島におけるマラリア対策の実施。拠点大学方式による学術交流事業	インドネシア, ベトナム	H16.3.4 ~ H16.3.19	産学連携等研究費, J S P S
教授	森田 公一	デング出血熱・日本脳炎に関する研究	ベトナム	H16.3.4 ~ H16.3.11	J S P S
教授	平山 謙二	シャーガス病の共同研究及び研究打ち合わせ	ボリビア, パラグアイ	H16.3.7 ~ H16.3.17	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講師	長谷部 太	WHO 実験室診断専門家として感染症対策に従事	フィリピン	H16.3.7 ~ H16.3.31	W H O
教授	岩崎 琢也	呼吸器感染症における共同研究の推進並びに多剤性結核の基礎調査	トルコ	H16.3.13 ~ H16.3.17	C O E
教授	永武 毅	呼吸器感染症における共同研究の推進並びに多剤性結核の基礎調査	トルコ	H16.3.13 ~ H16.3.17	C O E

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
講師	川田均	拠点大学方式による学術交流事業	ベトナム	H16.3.14 ~ H16.3.20	J S P S
教授	永武毅	日米医学協力計画急性呼吸器感染症部会日米合同会議出席	アメリカ	H16.3.20 ~ H16.3.24	日米医学協力研究会
助教授	大石和徳	日米医学協力計画急性呼吸器感染症部会日米合同会議出席	アメリカ	H16.3.20 ~ H16.3.24	日米医学協力研究会
教授	平山謙二	拠点大学方式による学術交流事業で熱帯性感染症の新興・再興の要因とそれに基づく防除対策の研究実施	ベトナム	H16.3.22 ~ H16.3.25	J S P S
教授	青木克己	Workshop on Global Parasite Control 出席のため	タイ	H16.3.26 ~ H16.3.29	厚生労働省 (国際協力研究委託費)
教授	門司和彦	国際寄生虫対策の国際ワークショップ出席	タイ	H16.3.26 ~ H16.3.30	厚生労働省 (国際協力研究委託費)

8 外国人研究者の受け入れ

8.1 熱帯医学研究コース

本集団研修コース（熱帯医学研究）は、国際協力事業団（JICA）の委嘱により昭和58年度（1983年）から毎年おこなわれている。

第21回目にあたる平成15年度には、本コースを熱帯医学研究Ⅱとしてリニューアルし、目的をこれまで行ってきた「研究を実施することによって、最新の医学知識や技術を習得させること」から、「熱帯地における保健医療問題を具体的に解決できる成果を研究によって得る」とことと変更し、従来の目的が技能研修であったものを、本年度からは研究活動そのものが目的であり、研究の成果を直接開発に反映させることとした。

そのため、本コース研修生は必ず、対象国で解決すべき熱帯医学に関連した具体的な研究課題、これまでの自身の研究活動で得られたデータを持って来日することとし、応募書類に解決すべき課題と解決のための研究プロポーザルの添付を義務づけた。

本コースは、本研究所にとっても研修生を通して熱帯現地の研究者との関係を深め、新しい研究テーマを発掘する可能性を持つユニークなコースと認識されている。

これまで本コースで研修を受けた者は現在研修中の者も含めて159人で、出身国は38ヶ国に及ぶ。コースの期間は開設当時の6ヶ月から9ヶ月、12ヶ月と次第に延長されたが、12ヶ月となった平成10年からは従来の certificate に代わり diploma を授与することになり、より一層の質的向上を果たしている。

1月の入所式の後3月初めまでの約6週間は熱帯医学研究所内の各部門・分野による共通講義が研修生全員に対して行われ、熱帯医学に関する総合的・基礎的知識が与えられる。その後、研修生は各専門分野に所属し、研修生と各分野が事前に共同で用意したプログラムに沿った研修と課題による研究に専念する。また、研修生全員が参加して他の大学や研究所への研修旅行が行われ、個別にはそれぞれの研究テーマに沿った学会、研究会、調査などへ参加している。

本年度は、アジアからフィジーが1名、アフリカからザンビアが2名、ギニア、モーリタニア、ナイジェリア、セネガル、トーゴそれぞれ1名の、計8名の研修生が受け入れられ、中南米からの研修生はいなかった。

本年度の入所式は平成16年1月19日に挙行された。共通講義は1月21日から2月25日まで行われ、研修旅行は5月、京都大学ウイルス研究所、大阪大学微生物学研究所、国立感染症研究所に実施された。

研究成果発表は12月6日、diploma 授与は12月10日に予定されている。（文責：嶋田雅暁）

8.2 平成15年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
分子構造解析	Afjal Hossain Khan	バングラデシュ	H15.4.1~ H15.4.30	外国人客員 研究員	
	Maria del Carmen Paruquet	アルゼンチン	H15.4.1~ H16.3.31	外国人客員 研究員	ヒューマンサイ センス振興財団
	Md. Alimul Islam	バングラデシュ	H15.4.15~ H16.4.14	外国人客員 研究員	科学技術振 興事業団
	Afjal Hossain Khan	バングラデシュ	H15.5.1~ H16.3.31	研究機関 研究員	
	Wimaladharm Abeyewickreme	スリランカ	H15.8.11~ H15.8.22	外国人受託 研修員	国際協力 事業団
	Nguyen Thi Thu Thuy	ベトナム	H15.11.9~ H15.12.6		JSPS
	Le Thi Quynh Mai	ベトナム	H15.11.9~ H15.12.6		JSPS
	Vuong Duc Cuong	ベトナム	H15.11.9~ H16.1.9		JSPS
	Chanda Duncan Mwelwa	ザンビア	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
	Phan Thi Nga	ベトナム	H16.1.26~ H16.2.27		JSPS
	Cao Minh Thang	ベトナム	H16.2.9~ H16.3.7		JSPS
病原因子機能解析	Deguzman/Blanquit Ablancoms	フィリピン	H15.6.15~ H15.9.12		JSPS
	Tran Thi My Trinh	ベトナム	H15.7.2~ H15.7.29		JSPS
	Nguyen Thi Phuong Lan	ベトナム	H15.11.3~ H15.11.30		JSPS
感染細胞修飾機構	Herrera Espinoza Victor Raul	ペルー	H15.4.1~ H16.3.31	外国人客員 研究員	
	Andrew Jonathan Nok	ナイジェリア	H15.9.12~ H15.11.8	外国人招聘 研究者	JSPS
	Dachlan Yoes Prijatna	インドネシア	H15.9.21~ H15.10.2		国際協力 事業団
	Kusmartisnawati	インドネシア	H15.9.21~ H15.10.2		国際協力 事業団
	Putaporntip Chaturong	タイ	H15.10.21~ H15.12.19	COE研究員	COE
	Nguyen Duc Giang	ベトナム	H15.11.17~ H15.12.14		JSPS
	Puruhito	インドネシア	H16.1.19~ H16.1.24		COE
	Dachlan Yoes Prijatna	インドネシア	H16.1.19~ H16.1.24		COE
	Cisse Martin	ギニア	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
寄生行動制御	Kazwani Moustapha	モーリタニア	H16.1.19~ H16.12.10		JICA

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
分子疫学	Jongwutiwes Somchai	タイ	H15.6.1~ H16.3.31	外国人客員 研究員	
病変発現機序	Kowa Sumbukeni Francis	ザンビア	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
感染症予防治療	Phan Le Thanh Huong	ベトナム	H15.7.21~ H15.8.17		JSPS
	Nguyen Thi Hien Anh	ベトナム	H15.7.21~ H15.9.14		JSPS
	Nguyen Thi Thuy Ai	ベトナム	H16.1.6~ H16.1.17		COE
	Maksuda Islam	パングラディッシュ	H16.1.10~ H16.2.1		COE
生物環境	Luong Chan Quang	ベトナム	H15.9.7~ H15.9.20		JSPS
	Vu Sinh Nam	ベトナム	H15.10.19~ H15.10.24		JSPS
	Nguyen Thi Yen	ベトナム	H15.10.19~ H15.11.1		JSPS
	Tham Chi Dung	ベトナム	H15.10.19~ H15.11.15		JSPS
	Luu Le Loan	ベトナム	H16.1.6~ H16.1.18		JSPS
社会環境	Mike Nacovunisaqa Kawa	フィジー	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
	Araoyinbo Idowu Dele	ナイジェリア	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
疾病生態	梶原カズオ	ブラジル	H15.4.7~ H16.3.26	外国人受託 研修員	国際協力 事業団
	Yu Chuanxin	中国	H15.5.2~ H16.3.31		平和中島財団
	Mawuli Dzodzomenyo	ガーナ	H15.8.1~ H15.9.12	外国人客員 研究員	
	Chen Honggen	中国	H15.10.20~ H16.3.31	外国人客員 研究員	COE
	Zeng Xiaojun	中国	H16.1.12~ H16.1.16		COE
	Sene Papa Diogoye	セネガル	H16.1.19~ H16.12.10		JICA
	Lin Dandan	中国	H16.2.23~ H16.3.1		COE
熱帯感染症研究 センター	Rhadz jhafatnie Sangogot Idris	フィリピン	H15.6.14		国際協力 事業団
	Jadzrie Harad Saabdulla	フィリピン	H15.6.14		国際協力 事業団
	Nayda Nour Ujulkarnain	フィリピン	H15.6.14		国際協力 事業団
	Parida Guiapal Mamalak	フィリピン	H15.6.14		国際協力 事業団
	Amina C. Sangkl	フィリピン	H15.6.14		国際協力 事業団

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
	George Rabulan Lee	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Fatima Abdulla Jahama	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Ali Gampong Dalidig	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Dianarah Macasundig Disomangcop	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Shalimar Sani Rakiin	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Amina Amiddin Ismail	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Alinader Domatul Minalang	フィリピン	H15 .6 .14		国際協力団 事業
	Pimpimon Thongthien	タイ	H15 .11 .15 ~ H15 .11 .23		国立総合地球 環境学研究所
	CGN Macie-Taylor	イギリス	H15 .11 .28 ~ H15 .12 .10		科学研究費補 助金(COE)
	Lopez Beatriz	グアテマラ	H15 .12 .2 ~ H15 .12 .12		外国人教師等 招聘帰国旅費
	Hababu Muhammad Chwaya	タンザニア	H15 .12 .3 ~ H15 .12 .6		委任経理金
	Charnchudhi Chanyasanha	タイ	H15 .12 .3 ~ H15 .12 .13		外国人教師等 招聘帰国旅費
	Afetse Yawo Dotse	トゴ	H16 .1 .19 ~ H16 .12 .10		JICA
	David Warunge Muriu	ケニア	H16 .2 .23 ~ H16 .11 .19	カウンター パート	国際協力団 事業

9 研究成果の発表状況

9 . 1 研究業績

- 分子構造解析分野 -

- 4397 Pandey B., Yamamoto A., Morita K., Kurosawa Y., Rai S., Adhikari S., Kandel P., and Kurane I.: Serodiagnosis of Japanese encephalitis among Nepalese patients by the particle agglutination assay. *Epidemiol.Infect.* 131: 881-885, 2003.
- 4398 Ohishi K., Inoue S., Cinco M., Diaano E., Alera M., Alfon J., Abanes F., Crus D., Matias R., Matsuura H., Hasebe F., Tanimura S., Kumatori A., Moirta K., Natividad F., Nagatake T: Correlation between increased platelet-associated IgG and thrombocytopenia in secondary dengue virus infections. *J. Med. Virol.* 71: 259-264, 2003.
- 4399 森田公一：注意すべき世界の感染症 - 西ナイルウイルス ,成人病と生活習慣病 ,p1121 1124 . Vol 33 : 2003 .
- 4400 森田公一 , Parida M. Mathenge EGM: RNA ウイルスの病原遺伝子探索 : フラビウイルスを中心に . 細胞工学22 : 1178 1181 : 2003 .
- 4401 Parida M., Posadas M., Inoue S., Hasebe F., and Morita K.: Real-time reverse transcription loop mediated isothermal amplification for rapid detection of West Nile virus. *J.Clin.Microbiol.* Vol.42: 257-263, 2004.
- 4402 Nga PT., Parquet MC, Cuong VD, Ma S-P., Hasebe F, Inoue S, Makino Y, Takagi M, Nam VS and Morita K.: Shift in JEV genotype circulating in northern Vietnam: Implication for frequent introductions of JEV from Southeast Asia to East Asia. *Journal of General Virology.* Vol.85: 1625-1631, 2004.
- 4403 Hong Thi Cam Thai, Mai Quynh Le, Cuong Duc Vuong, Manmohan Parida, Harumi Minekawa, Tsugunori Notomi, Futoshi Hasebe, and Kouichi Morita.: Development and Evaluation of a Novel Loop-Mediated Isothermal Amplification Method for Rapid Detection of Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus. . *J.Clin.Microbiol.* Vol. 42: 1956-1961, 2004.
- 4404 五十嵐 章：「それでも日本脳炎ワクチンが必要な理由」, 小児内科 Vol136 , 459 461 , 2004 .
- 4405 森田公一：「新型肺炎 (SARS)」, 健康な子ども Vol 374 : 42 43 , 2004 .
- 4406 森田公一：「蚊と野鳥が運ぶウエストナイル熱の脅威」, 公衆衛生情報 , Vol 34 : 21 23 , 2004 .

- 4407 森田公一：日本脳炎，その他の脳炎ウイルス，今日の治療指針2004，p143 144，2004．
- 4408 森田公一：Nipah ウイルス感染症，化学療法の領域 Vol 20：187 190，2004．
- 4409 森田公一：西ナイル熱のワクチン，Medical Technology Vol 32：347 348，2004．
- 4410 森田公一：狂犬病．今日の治療と看護（改定第2版）．966 967，2004．
- 4411 森田公一：デング熱・デング出血熱．今日の治療と看護（改定第2版）．967 968，2004．
- 4412 森田公一：ウイルス性出血熱．今日の治療と看護（改定第2版）．968 970，2004．
- 4413 森田公一：「ニパウイルス」 in からだの科学，新興再興感染症，p.114 117（増刊），日本論評社，2004．
- 4414 森田公一：「西ナイルウイルス感染症」 臨床とウイルス，Vol 32：7 12，2004．
- 4415 森田公一：新興・再興感染症に対するワクチン「西ナイル熱」 総合臨床 Vol 53：1963 1967，2004．

- 病原因子機能解析分野 -

- 4416 Kawahara T, Kuwano Y, Teshima-Kondo S, Takeya R, Sumimoto H, Kishi K, Tsunawaki S, Hirayama T, Rokutan K.: Role of nicotinamide adenine dinucleotide phosphate oxidase 1 in oxidative burst response to toll-like receptor 5 signaling in large intestinal epithelial cells. *J. Immunol.* 172: 3051-3058, 2004, Mar.
- 4417 Ogushi K., Wada A., Niidome T., Okuda, T., Llanes R., Nakayama M., Nishi Y., Kurazono H., Smith K.D., Adrem A., Moss J., and Hirayama T.,: Gangliosides act as co-receptors for *Salmonella enteritidis* FliC and promote FliC induction of human β -defensin-2 expression in Caco-2 cells. *J. Biol. Chem.* 279 (13): 12213-122, 2004, Jan.
- 4418 Nakayama M., Kimura M., Wada A., Yahiro K., Ogushi K., Nidome T., Fujikawa A., Shirasaka D., Aoyama N., Kurazono H., Noda M., Moss J. & Hirayama, T.: *Helicobacter pylori* VacA activates the p38/activating transcription factor-2-mediated signal pathway in AZ-521 cells. *J. Biol. Chem.* 279(8): 7024-7028, 2004, Nov.
- 4419 Mori N., Krensky A.M., Geleziunas R., Wada A., Hirayama T., Sasakawa C., and Yamamoto, N.: *Helicobacter pylori* induces RANTES through activation of NF- κ B. *Infect. Immun.* 71(7): 3748-3756, 2003, Jul.
- 4420 Suzuki J., Ohnishi H., Wada A., Hirayama T., Ohno H., Ueda N., Yasuda H., Iiri T., Wada Y., Futai M., and Mashima, H.: Involvement of syntaxin 7 in human gastric epithelial cell vacuolation induced by the *Helicobacter pylori*-produced cytotoxin VacA., *J. Biol. Chem.* 278(28): 25585-25590, 2003, Apr.
- 4421 Mori N., Sato H., Hayashibara T., Senba M., Geleziunas R., Wada A., Hirayama T.,

and Yamamoto N.: *Helicobacter pylori* induces matrix metalloproteinase-9 through activation of nuclear factor kappaB. *Gastroenterology*, 124(4): 983-992, 2003, Apr.

- 感染細胞修飾機構分野 -

- 4422 Shuaibu M.N., Kanbara H., Yanagi T., Ichinose A., Ameh D. A., Bonire J. J., & Nok A. J.: In vitro trypanocidal activity of dibutyltin dichloride and its fatty acid derivatives. *Parasitology Research* 91: 5-11, 2003.
- 4423 Shuaibu M.N., Kanbara, H., Yanagi, T., Ichinose, A., Ameh, D. A., Bonire J.J. and Nok A.J.: Effect of dibutyltin(IV) on the ultrastructure of African *Trypanosoma* spp.. *Parasitol Res.* 92: 65-73, 2003.
- 4424 Owhashi M., Taoka Y., Ishii K., Nakazawa S., Uemura H. & Kanbara H.: Identification of a ubiquitin family protein as a novel neutrophil chemotactic factor. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 309: 533-539, 2003.

- 寄生行動制御分野 -

- 4425 Watanabe K., Sasaki O., Hamano S., Kishihara K., Nomoto K., Tada I., Aoki Y.: *Strongyloides ratti*: the role of interleukin-5 in protection against tissue migrating larvae and intestinal adult worms. *Journal of Helminthology* 77(4): 355-361, 2003.
- 4426 Watanabe K., Itoh M., Matsuyama H., Hamano S., Kobayashi S., Shirakawa T., Suzuki A., Sharma S., Acharya G. P., Itoh K., Kawasaki T., Kimura E., Aoki Y.: Bancroftian Filariasis in Nepal: A Survey for Circulating Antigenemia of *Wuchereria bancrofti* and Urinary IgG4 Antibody in Two Rural Areas of Nepal. *Acta Tropica* 88: 11-15, 2003.
- 4427 Matsuyama H, Takahashi H, Watanabe K, Fujimaki Y, Aoki Y.: The involvement of cyclic adenosine monophosphate in the control of schistosome miracidium cilia. *J Parasitol.* 90: 8-14, 2004.
- 4428 Gunawardena NK, Fujimaki Y, Aoki Y.: Chemotactic response of *Brugia pahangi* infective larvae to jird serum in vitro. *Parasitol Res*, 90: 337-342, 2003.
- 4429 Weerasooriya MV, Itoh M, Mudalige MPS, Qiu X-G, Kimura E, Gunawardena NK, Fujimaki Y.: Human infection with *Wuchereria bancrofti* in Matara, Sri Lanka: the use, in parallel, of an ELISA to detect filaria-specific IgG4 in urine and of ICT card test to detect filarial antigen in whole blood. *Ann. Trop. Med. Parasit.* 97: 179-185, 2003.
- 4430 Aoki Y., Sato K., Muhoho N.D., Noda S., Kimura E.: Cercariometry for detection of transmission sites for schistosomiasis. *Parasitol. Intl.* 52: 403-408, 2003.

- 4431 Aoki Y.: Review: International Medical Cooperation in Africa. Progress of Medical Parasitology in Japan 8: 621-630, 2003.
- 4432 青木克己：吸虫症・糸虫症 新臨床内科学(コンパクト版) 第3版 医学書院 745, 2003.
- 4433 青木克己：住血吸虫症 今日の治療指針 医学書院 2004年版 187, 2004.
- 4434 青木克己：巻頭言「Hidden Morbidity」 化学療法の領域 20(9): 15, 2004.

- 炎症細胞機構分野 -

- 4435 Fujii Y., Kumatori A., Nakamura M.: SATB1 makes a complex with p300 and represses gp 91 (phox) promoter activity. Microbiol Immunol. 47: 803-811, 2003.
- 4436 Takata-Yahiro M., Fujii Y., Nodarse J.F., Islam M.R., Oda S., Zhang Q.M., Yonei S., Nakamura M.: A novel GT-mismatch binding protein that recognizes strict DNA sequences with high affinity. Tohoku J Exp Med. 200: 211-29, 2003.
- 4437 中村三千男：好中球機能不全．臨床検査，47：1693 1701，2003．

- 病変発現機序分野 -

- 4438 Ohata K., Hamasaki K., Toriyama K., Matsumoto K., Saeki A., Yanagi K., Abiru S., Nakagawa M., Shigeno M., Miyazoe S., Ichikawa T., Ishikawa H., Nakao K., Eguchi K.: Hepatic steatosis is a risk factor for hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C virus infection. Cancer, 97: 3036-3043, 2003.
- 4439 Yousukh A., Jutavijittum P., Pisetpongsa P., Chitapanarux T., Thongsawat S., Senba M., Toriyama K.: Clinicopathologic Study of Hepatic *Penicillium marneffei* in Northern Thailand. Arch Pathol Lab Med, 128: 191-194, 2004.
- 4421 Mori N, Sato H, Hayashibara T, Senba M, Geleziunas R, Wada A, Hirayama T., Yamamoto N.: *Helicobacter pylori* induces matrix metalloproteinase-9 through activation of nuclear factor kappaB. Gastroenterology, 124: 983-992, 2003.
- 4440 Tanaka H., Sato K., Saito Y., Yamashita T., Agoh M., Okunishi J., Tachikawa E., Suzuki K.: Insect diapause-specific peptide from the leaf beetle has consensus with a putative iridovirus peptide. Peptides 24: 1327-1333, 2003.
- 4441 Goto A., Hayasaka D., Yoshii K., Mizutani T., Kariwa H., Takashima I.: A BHK-21 cell culture-adapted tick-borne encephalitis virus mutant is attenuated for neuroinvasiveness. Vaccine, 21: 4043-4051, 2003.
- 4442 Miyamoto H., Kariwa H., Araki K., Lokugamage K., Hayasaka D., Cui B. Z.,

Lokugamage N., Ivanov L., Mizutani T., Iwasa M. A., Yoshimatsu K., Arikawa J., Takashima I.: Serological analysis of hemorrhagic fever with renal syndrome (HFRS) Patients in Far Eastern Russia and identification of the causative hantavirus genotype. Arch Virol, 148: 1543-1556, 2003.

4443 Yoshii K, Hayasaka D, Goto A, Obara M, Araki K, Yoshimatsu K, Arikawa J, Ivanov L, Mizutani T, Kariwa H, Takashima I.: Enzyme-linked immunosorbent assay using recombinant antigens expressed in mammalian cells for serodiagnosis of tick-borne encephalitis. J Virol Methods, 108: 171-179, 2003.

4444 佐伯 哲, 松本幸二郎, 柳 謙二, 西村大介, 浜田久之, 大畑一幸, 阿比留正剛, 重野賢也, 中川裕一, 石川博基, 濱崎圭輔, 坂本一郎, 中尾一彦, 鳥山 寛, 江口勝美: び慢性の肝内動脈短絡を合併し門脈圧亢進症状を呈した肝外門脈狭窄症の1例. 日本消化器病学会雑誌, 100(6): 697-701, 2003.

- 感染症予防治療分野 -

4445 Oishi K, Inoue S, Maria T D D C, Efren M D, Maria T P A, Jhoe A R A, Ferdinand A, Deu J M C, Ronald R M, Matsuura H, Hasebe F, Tanimura S, Kumatori A, Morita K, Filipinas F N, Nagatake T: Correlation Between Increased Platelet-associated IgG and Thrombocytopenia in Secondary Dengue Virus Infections. Journal of Medical Virology. 71: 259-264, 2003.

4446 Asoh N, Watanabe H, Marguerite F-G, Watanabe K, Oishi K, Weerayut K, Tippaya S, Khemrassamee K, Sumpun K, Banyong K, Prasit T, Thira S, Nagatake T: Emergence of Rifampin-Resistant *Rhodococcus equi* with Several Types of Mutations in the *rpoB* Gene among AIDS Patients in Northern Thailand. Journal of Clinical Microbiology. 41: 2337-2340, 2003.

4447 Watanabe H, Asoh N, Hoshino K, Watanabe K, Oishi K, Weerayut Kositsakulchai, Tippaya S, Khemrassamee K, Sumpun K, Banyong K, Prasit T, Thira S, Nagatake T: Antimicrobial Susceptibility and Serotype Distribution of *Streptococcus pneumoniae* and Molecular Characterization of Multidrug-Resistant Serotype 19F, 6B, and 23F Pneumococci in Northern Thailand. Journal of Clinical Microbiology. 41: 4178-4183, 2003.

4448 Amano H, Morimoto K, Senba M, Hui W, Ishida Y, Kumatri A, Yoshimine H, Oishi K, Mukaida N, Nagatake T: Essential Contribution of Monocyte Chemoattractant Protein-1/C-C Chemokine Ligand-2 to Resolution and Repair Processes in Acute Bacterial Pneumonia. The Journal of Immunology. 172: 398-409, 2004.

- 4449 Takahashi H, Oishi K, Yoshimine H, Kumatori A, Moji K, Watanabe K, Hawa N, Sitefano B T, Anthony K, Roy M, Peter M, Nagatake T: Decreased serum Opsonic Activity against *Streptococcus pneumoniae* in Human Immunodeficiency Virus-Infected Ugandan Adults. *Clinical Infection Diseases*. 37: 1534-1540, 2003.
- 4450 Samir K S, Abdullah H B, Gary I D, M Ruhulamin, Mohammed H, Shams E A, Mathuram S, Oishi K, Nagatake T, Robert E B: Comparison of Antibiotic Resistance and Serotype Composition of Carriage and Invasive Pneumococci among Bangladeshi Children: Implications for Treatment Policy and Vaccine Formulation. *Journal of Clinical Microbiology*. 41: 5582-5587, 2003.
- 4451 Watanabe H, Hoshino K, Sugita R, Asoh N, Watanabe K, Oishi K, Nagatake T: Possible High Rate of Transmission of Nontypeable *Haemophilus influenzae*, Including β -Lactamase-Negative Ampicillin-Resistant strains, between Children and Their Parents. *Journal of Clinical Microbiology*. 42: 362-365, 2004.
- 4452 Oishi K, Inoue S, Kuramoto T, Onizuka S, Saito M, Hasebe F, Morita K, Nagatake T: Association of dengue virus type-specific IgG on platelets is specific for the acute phase in an imported Japanese patient with secondary dengue 2 virus infection . *日熱医会誌* . 31 : 223 225 , 2003 .
- 4453 大石和徳 , 山領 豪 , 土橋佳子 , 吉嶺裕之 : 慢性気道感染症における活性化好中球とアポトーシス . *臨床と微生物* . 30 : 239 243 , 2003 .
- 4454 永武 毅 : 薬物治療の実際 ; ワクチン療法 . *COPD FRONTIER* . 2 : 135 138 , 2003 .
- 4455 永武 毅 : 髄膜炎菌性髄膜炎 . *総合臨牀* . 52 : 1091 1096 , 2003 .
- 4456 永武 毅 : 脳炎・脳症 ; 細菌性脳炎(脳膿瘍) . *化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy*. 19 : 762 766 , 2003 .
- 4457 古本朗嗣 , 真崎宏則 , 鬼塚智子 , 出川 聡 , 山領 豪 , 下釜誠司 , 渡邊貴和雄 , 大石和徳 , 永武 毅 : *Corynebacterium propinquum* による市中肺炎の1例 . *感染症学雑誌* . 77 : 456 460 , 2003 .
- 4458 永武 毅 : 何を基準に経験的抗生物質・抗菌薬療法を行うか . *分光堂* .P .10 14 , 2003 .
- 4459 齋藤麻理子 , 大石和徳 : 細菌感染症とアポトーシス . *臨床検査* . 47 : 1039 1041 , 2003 .
- 4460 大石和徳 : SARS の臨床と鑑別診断 . *治療* . 85 : 2887 2890 , 2003 .
- 4461 永武 毅 : インフルエンザ , インフルエンザウイルスのヒトへの感染増殖のメカニズム . *日本臨牀* . 61 : 1892 1896 , 2003 .
- 4462 大石和徳 : 臨床 ; 呼吸器感染症ワクチンの動向 肺炎球菌ワクチン . *分子呼吸器病* . 7 : 441 447 , 2003 .

- 4463 **大石和徳**：感染症とアポトーシスの役割．感染症学雑誌．77：939 943，2003．
- 4464 **永武 毅**：Ⅱ．多剤耐性菌時代の各種抗菌薬のポジショニングとその適切な使い方
7．テトラサイクリン薬．日本内科学会雑誌．92：2141 2148，2003．
- 4465 **大石和徳**：中国の SARS に対する取り組み．臨床医．29：1939 1941，2003．
- 4466 **永武 毅**：ウイルス性肺炎のキーポイント インフルエンザに伴う肺炎．臨床医．
29：1974 1976，2003．
- 4467 **永武 毅**：第4章 肺炎の管理・治療；管理・治療．最新医学．P98 106，2003．
- 4468 **永武 毅**：第4章 肺炎の管理・治療 補助療法・理学療法．最新医学．P140 147，
2003．
- 4469 **永武 毅**：第4章 肺炎の管理・治療 ワクチン．最新医学．P148 154，2003．
- 4470 **大石和徳**：新興・再興感染症 - 重症急性呼吸症候群（SARS） - ．日本耳鼻咽喉科
学会雑誌．107：170 173，2004．
- 4471 **土橋佳子，大石和徳，永武 毅，川上健司，高橋孝郎，中村（内山）ふくみ，名和行
文**：肺犬糸状虫症の1例．日本臨床寄生虫学会誌．14：101 103，2003．
- 4472 **大石和徳**：デングの臨床像とその臨床病態．日本臨床寄生虫学会誌．14：17 19，2003．
- 4473 **真崎宏則**：輸入感染症として問題視すべきもの；メリオイドーシス．医学のあゆみ．
208：64 68，2004．
- 4474 **大石和徳，渡邊 浩**：昨年の SARS 流行地域における問題点とその対策．呼吸器科．
5：52 57，2004．
- 4475 **永武 毅**：呼吸器感染症診療最前線；インフルエンザ肺炎の診断，治療，予防の実際．
呼吸器科．5：6 10，2004．
- 4476 **高木理博，天野秀明，麻生憲史，鶴飼桃代，森本浩之輔，大石和徳，永武 毅**：カポ
ジ水痘様発疹に横紋筋融解症を合併した1例．感染症学雑誌．78：59 63，2004．
- 4477 **本村和嗣，真崎宏則，寺田真由美，鬼塚智子，古本朗嗣，麻生憲史，大石和徳，永武
毅**：2000 - 2002年における市中肺炎の起炎菌と重症度別症例解析．日本呼吸器学会雑
誌．42：68 74，2004．
- 4478 **小山 純，大石和徳**：市中肺炎の原因と病態．薬局．55：3 9，2004．
- 4479 **大石和徳**：肺炎診療の現状；高齢者の予防接種 - インフルエンザワクチン，肺炎球
菌ワクチンの接種状況 - ．日本医師会雑誌．131：342 346，2004．
- 4480 **永武 毅**：呼吸器疾患に対する最新の話題；呼吸器感染症に関するガイドライン．医
学と薬学．51：213 225，2004．
- 4481 **永武 毅**：インフルエンザ研究の最前線；インフルエンザの予防，ワクチン（現行）．
最新医学．59：307 309，2004．

- 4482 栗田伸一，大石和徳：呼吸器感染症 - 最新の話題；インフルエンザ菌．呼吸と循環．52：125-129，2004．
- 4483 小山 純，永武 毅：化学療法薬の使い方；急性上気道炎やインフルエンザにおける抗菌薬の使い方．クリニカ．31：103-106，2004．
- 4484 本村和嗣，真崎宏則，寺田真由美，鬼塚智子，下釜誠司，古本朗嗣，麻生憲史，渡邊貴和雄，大石和徳，永武 毅： *Corynebacterium propinquum* 呼吸器感染症の3症例．感染症学雑誌．78：277-282，2004．
- 4485 石田正之，大石和徳，中澤秀介：疑うことから診断をはじめたマラリアの2症例．治療学．38：349-354，2004．
- 4486 大石和徳：海外旅行と感染症4；マラリアとその予防薬．治療学．38：280-285，2004．
- 4487 光嶋博昭，川添金雄，高橋 淳，大石和徳，永武 毅：シェーグレン症候群にBOOPパターンを合併しARDSをきたした1症例．日本呼吸器学会雑誌．42：261-265，2004．
- 4488 出川 聡，原田義高，井口和幸，野口聖子，松本慶蔵：長崎県の地方病院である愛野記念病院における感染症対策．化学療法の領域．20：445-448，2004．

- エイズ・感染防御分野 -

- 4489 Y. Kubo, and H. Amanuma: Mutational analysis of the R peptide cleavage site of Moloney murine leukaemia virus envelope protein. J.Gen.Virol. 84: 2253-2257, 2003.
- 4490 Y. Kubo, A. Ishimoto, and H. Amanuma: Genistein, a protein tyrosine kinase inhibitor, suppresses the fusogenicity of Moloney murine leukemia virus envelope protein in XC cells. Arch.Virol. 148: 1899-1914, 2003.
- 4491 Y. Kubo, A. Ishimoto, and H. Amanuma: N-linked glycosylation is required for XC cell-specific syncytium formation by the R peptide-containing envelope protein of ecotropic murine leukemia viruses. J.Virol. 77: 7510-7516, 2003.

- 生物環境分野 -

- 4492 Dieng,H.,Boots,M.,Tsuda,Y.& Takagi,M.: A laboratory oviposition study in *Aedes albopictus* (Diptera:Culicidae) with reference to habitat size, leaf litter and their interactions.Medical Entomology and Zoology 54(1): 43-50, 2003.
- 4493 Tsuda, Y., Yotopranoto, S., Bendryman, S. S., Rosmanida, Dachlan, Y.P. & Takagi, M.: Seasonal changes in variation of dorsal scale pattern of *Aedes aegypti* (L.) (Diptera: Culicidae) in Surabaya, Indonesia. Medical Entomology and Zoology 54(1): 73-80, 2003.

- 4494 Satho, T., Tsuda, Y., Somboon, P., Kawada, H. & Takagi, M.: Difference in the larval susceptibility to pyriproxyfen in nine colonies of six vector mosquito species. *Medical Entomology and Zoology* 54(2): 155-160, 2003.
- 4495 Dieng, H., Boots, M., Mwandawiro, C., Satho, T., Hasegawa, M., Nyambura, G.J., Saita, S., Kawada, H., Tsuda, Y., & Takagi, M.: Effects of a copepod predator on the survivorship and development of *Aedes albopictus* (Diptera: Culicidae). *Medical Entomology and Zoology* 54(2): 187-192, 2003.
- 4496 Tuno, N., Tsuda, Y., Takagi, M., & Swonkerd, W.: Pre-and postprandial mosquito resting behavior around cattle hosts. *Journal of the American Mosquito Control Association* 19(3): 211-219, 2003.
- 4497 Overgaard, H. J., Ekbom, B., Suwonkerd, W., & Takagi, M.: Effect of landscape structure on anopheline mosquito density and diversity in northern Thailand: Implications for malaria transmission and control. *Landscape Ecology* 18(6): 605-619, 2003.
- 4498 Tsuda, Y., Maekawa, Y., Saita, S., Hasegawa, M. & Takagi, M.: Dry ice-trap collection of mosquitoes flying near a tree canopy in Nagasaki, Japan, with special reference to *Aedes albopictus* (Skuse) and *Culex pipiens pallens* Coquillett (Diptera: Culicidae). *Medical Entomology and Zoology* 54(4): 325-330, 2003.
- 4499 Hu, X.-M., Tsuda, Y. & Takagi, M.: Survival and development of larvae of three tropical malaria vectors (Diptera: Culicidae) under a seasonally changing temperature condition in Nagasaki, Japan. *Medical Entomology and Zoology* 54(4): 371-379, 2003.
- 4500 Nagao, Y., Dachlan, Y. P., Soedarto, Hidajati, S., Yotopranoto, S., Kusmartisnawati, Subekti, S., Ideham, B., Tsuda, Y., Kawabata, M., Takagi, M. & Looareesuwan, S.: Distribution of two species of malaria *Plasmodium falciparum* and *Plasmodium vivax*, on Lombok island, Indonesia. *Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health* 34(3): 495-500, 2003.
- 4501 Sawabe, K., Takagi, M., Tsuda, Y. & Tsuno, N.: Molecular variation and phylogeny of the *Anopheles minimus* complex (Diptera: Culicidae) inhabiting Southeast Asian countries, based on ribosomal DNA internal transcribed spacers, ITS1 and 2, and the 28S D3 sequences. *Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health* 34(4): 771-780, 2003.

- 社会環境分野 -

- 4502 後藤惠之輔, 溝田 勉: 熱帯病の国内感染対策に土木工学はどう貢献するか. 長崎大学工学部研究報告 第33巻, 第61号, 85-89, 2003.

- 4503 依田健志, 楽得康之, 溝田 勉, 鄭 蕙苑: SARS の東南アジア・中国での現況と感染防止対策. 東京医科大学雑誌 第61巻, 第5号, 455-459, 2003.
- 4504 溝田 勉, 依田健志, 楽得康之: 新興感染症としての SARS の東南アジア・中国での感染防止対策への取り組み. 熱帯 第36巻, 64-69, 2003.
- 4505 谷村 晋, 溝田 勉. 保健情報の視覚化と WebGIS. コンピュータサイエンス 8(1), pp.73-74, 2003.
- 4506 谷村 晋. 空間疫学アプローチは疾病対策にどのように役に立つか. 日本熱帯医学会雑誌31(3), 2003, pp.237-241
- 4507 Susumu Tanimura, Tsutomu Mizota: Application of Geographic Information Systems in International Health. Ecological Destruction, Health, and Development. Kyoto: Kyoto University Press, 2004, pp.395-407
- 4508 Susumu Tanimura, Tsutomu Mizota: Demonstration of Spatial Analysis using GIS-Dr. John Snow's Cholera Study data-. Ecological Destruction, Health, and Development. Kyoto: Kyoto University Press, 2004, pp.400-403

- 疾病生態分野 -

- 4509 Francisca Sosa-Jurado, Miguel Mazariego-Aranda, Nidia Hernandez-Becerril Veronica Garza-Murillo, Manuel Cardenas, Pedoro A Reys, Kenji Hirayama, Victor M Monteon: Electrocardiographic Findings in Mexican Chagasic Subjects Living in High and Low Endemic Regions of *Trypanosoma cruzi* Infection. Mem Inst Oswaldo Cruz, Rio de Janeiro. 98(5): 605-610, July 2003.
- 4510 Hirayama Kenji: Immunogenetic analysis of post-schistosomal liver fibrosis. Parasitology International 53(2): 193-196. 2004.
- 4511 Ichikawa Yoko, Sumi Misa, Ohwatari Nobu, Komori Toshihisa, Sumi Tadateru, Shibata Hiroaki, Furuichi Tatsuya, Yamaguchi Akira & Nakamura Takashi: Evaluation of 9.4-T MR microimaging in assessing normal and defective fetal bone development: comparison of MR imaging and histological findings. Bone 34, 619-628. 2004.
- 4512 平山謙二: ヘムオキシゲナーゼ 1 と脳マラリア感受性 生化学 75(3): 219-223, 2003.
- 4513 平山謙二: 住血吸虫症を悪化させる宿主側の遺伝要因. 医学のあゆみ 208(2): 95-98, 2004.
- 4514 平山謙二, 寺園英之, 一川暢宏: 治療における最近の新薬の位置付け ~ 新薬の広場 ~ 抗ウイルス薬 医療ジャーナル 新薬展望2004 40(増刊号): 103-109, 2004.

- 熱帯感染症研究センター -

- 4515 Mitsui Y., Chanyasanha C., Boonshuyar C., Shimada M., Moji K.: Incidence of travelers' diarrhea among Japanese visiting Thailand. *Tropical Medicine and Health* 32 (1): 21-26, 2004.
- 4516 Hattori K., Tahara Y., Moji K., Aoyagi K. and Furusawa T.: Chart analysis of body composition change among pre-and postadolescent Japanese subjects assessed by underwater weighing method. *International Journal of Obesity* 28, 520-524, 2004.
- 4517 Ohashi J, Naka I, Ohtsuka R, Inaoka T, Ataka Y, Nakazawa M, Tokunaga K, and Matsumura Y.: Molecular polymorphism of ABO blood group gene in Austronesian and Non-Austronesian populations in Oceania. *Tissue Antigens*, 63: 355-361, 2004.
- 4518 中尾優子, 門司和彦, 大石和代, 松尾奈美子, Mahmudur Rahman, Meejady Sabrina Flora, 後藤利江: バングラデシュ・ダムライ郡の分娩・授乳状況 妊婦, 乳幼児をもつ母親, 伝統的産婆, 地域家族福祉補助員, 看護師への集団面接結果 民族衛生 . 70 (3) : 112 122 , 2004 .
- 4519 Zhang Y., Aoyagi K., Honda S., Yahata Y., Yoshimi I., Kusano Y., Takamura N., Kobayashi M., Moji K. and Takemoto T.: Effects of lifestyle factors on stiffness index of calcaneus measured by quantitative ultrasound system among Japanese women aged 40 years and over: The Hizen-Oshima Study. *Tohoku J. Exp. Med*, 201, 2003.
- 4520 Tahara Y., Moji K., Muraki S., Honda S. and Aoyagi K.: Comparison of body size and composition between young adult Japanese-Americans and Japanese nationals in the 1980s. *Annals of Human Biology*, 30(4): 392-401, 2003.
- 4449 Takahashi H., Oishi K., Yoshimine H., Kumatori A., Moji K., Watanabe K., Nalwoga H., Tugume SB., Kabba A., Mugerwa R., Mugenyi P. and Nagatake T.: Decreased Serum Opsonic Activity against *Streptococcus pneumoniae* in Human Immunodeficiency Virus-infected Ugandan adults. *CID*, 37(1), 2003.
- 4521 Suzuki H., Yamamoto S. and Noda S.: A new Trombiculid mite of the Genus *Doloiisia* from Kagoshima and Oita prefectures, Japan. (Prostigmata:Trombiculidae) *J.Acarol.Soc.Jpn*, 12(2): 103-106, 2003.
- 4522 Takahashi M., Misumi H. and Suzuki H.: *Eltonella yagii* (Acari: Trombiculidae): A new species of Chigger mite collected from soil samples in Kanmuriyima Island, Kyoto Japan. *Med. Entomol. Zool*, 54(3): 291-293, 2003.
- 4523 Kimura M., Tamam M., Soemantri A., Nakazawa M., Ataka Y., Ohtsuka R. and Ishida T.: Distribution of a 27-bp deletion in the band 3 gene in South Pacific islanders. *Jour-*

nal of Human Genetics, 48: 642-645, 2003.

- 4524 嶋田雅暁：インターネット時代の感染症情報．現代感染症事情（下），289-301，2003．
- 4525 鈴木 博：生活害虫の事典，佐藤仁彦編．朝倉書店，東京，227-232，2003．
- 4526A 門司和彦：地球温暖化は途上国の人々の健康と生活にどのような影響を与えるか？
地球研フォーラム講演記録集2003（第2号），15-16，2004．
- 4526B Moji K: How will global warming affect people's health and life in developing countries? Proceedings of the RIHN Forum 2003 (No.2), 53-54, 2004.
- 4527 門司和彦，金田英子，安高雄治，嶋田雅暁：熱帯地域における Prospective Community Study (PCS)．日熱医学会誌，31(3)：125-130，2003．
- 4528 嶋田雅暁，浜田芳樹，安高雄治，門司和彦：解題：熱帯感染症の疫学とモデル構築の意義．日熱医学会誌，31(4)：229-232，2003．
- 4529 Takahashi M., Misumi H., Urakami H., Saito T., Misumi M., Matsumoto I. & Suzuki H.: A new member of the Trombiculid mite family *Neotrombicula Nagayoi* (ACARI: Trombiculidae) induces human dermatitis. Southeast Asian J Trop Med Public Health, 35 (1), 2004.

- 共同研究室 -

- 4530 五十嵐 章，一ノ瀬昭豊：各論トガウイルス フラビウイルス．電子顕微鏡ウイルス学，朝倉書店，102-121，2003．
- 4422 Shuaibu M. N., Kanbara H., Yanagi T., Ichinose A., Ameh D. A., Bonire J. J. and Nok A.J.: In vitro trypanocidal activity of dibutyltin dichloride and its fatty acid derivatives. Parasitol Res. 91: 5-11, 2003.
- 4423 Shuaibu M. N., Kanbara H., Yanagi T., Ichinose A., Ameh D.A., Bonire J.J. and Nok A.J.: Effect of dibutyltin (IV) on the ultrastructure of African *Trypanosoma* spp.. Parasitol Res. 92: 65-73, 2003.
- 4531 Mahmud Y., Arakawa O., Ichinose A., Tanu M. B., Takatani T., Tsuruda K., Kawatsu K., Hamano Y. and Noguchi T.: Immunoenzymatic visualization of tetrodotoxin (TTX) in the skin cell of a pufferfish *Tetradon nigroviridis*. Toxicology Letters: poster session p 11, clinical toxicology 249, 2003.
- 4532 一ノ瀬昭豊：セロファン寒天培地 セロファン寒天培地の使用方法及び微生物観察法．特許庁に特許出願（日本，アメリカ，カナダ），2003．

9.2 学会発表演題

- 1) 藤川敬太, 大畑一幸, 市川辰樹, 石川博基, 濱崎圭輔, 江口勝美, 中尾一彦, 鳥山 寛:
食事・運動療法により肝機能および組織学的所見の改善がみられた NASH の 1 例. 第
260回日本内科学会九州地方会, 福岡, 2003年 2月 8日 (追加)
- 2) 川田 均: 「西ナイルウイルス媒介蚊の防除対策」媒介蚊・成虫対策⁽¹⁾~ 防疫用殺虫剤
について~. 第55回日本衛生動物学会大会・殺虫剤研究班集会, 大分, 2003年 3月31日
- 4月 2日.
- 3) 前川芳秀, 高木正洋, Subagyo, Y., Yoes, D., 津田良夫, 川田 均, 吉永一未, 神原廣
二: インドネシアロンボク島ムニンティング郡のマラリア媒介蚊について. 第55回日本
衛生動物学会大会, 大分, 2003年 3月31日 - 4月 2日.
- 4) 才田 進, 津田良夫, 杉山 章, Hu, X. -M., Nyambura, G. J., 高木正洋: 西浜川周辺
(石垣島)における *An.minimus* の分布調査 - 2002年 -. 第55回日本衛生動物学会大会,
大分, 2003年 3月31日 - 4月 2日.
- 5) 長谷川麻衣子, Yen, N. T., Phong, T. V., 高木正洋: Enzyme-Linked Immunosorbent Assay
(ELISA) とゲル内沈降反応を用いた *Culex tritaeniorhynchus* の吸血源の同定に関する
予備実験: 雌雄間の差異について. 第55回日本衛生動物学会大会, 大分, 2003年 3月31
日 - 4月 2日.
- 6) 川田 均, 才田 進, 高木正洋, 庄野美德, 対馬和礼: 光学式通過センサーを利用した
行動記録装置について. 第55回日本衛生動物学会大会, 大分, 2003年 3月31日 - 4月 2
日.
- 7) 小橋 修, 中村三千男: 内因性抗菌物質と innate immunity. 第76回日本細菌学会総会, 熊
本, 2003年 3月31日 - 4月 3日. (日本細菌学雑誌58(1): 96, 2003)
- 8) 大串賢一, 和田昭裕, 新留琢郎, 青柳東彦, 倉園久生, 平山壽哉: *Salmonella enteritidis*
FliC の human β -defensin-2発現誘導機序. 第76回日本細菌学会, 熊本, 2003年 4月 1日
- 3日.
- 9) 和田昭裕, 平山壽哉: ディフェンシンの産生と活性修飾. 第76回日本細菌学会, 熊本,
2003年 4月 1日 - 3日.
- 10) 木村美幸, 八尋錦之助, 倉園久生, 和田昭裕, 平山壽哉: *H. pylori* VacA, m 1 と m 2 と
の受容体結合の比較. 第75回日本細菌学会, 横浜, 2002年 4月 4日 - 6日.
- 11) 平山壽哉, 八尋錦之助, 中山真彰, 新留琢郎, 青柳東彦, 和田昭裕: G401細胞では受
容体型チロシンフォスファターゼ alpha が *H. pylori* VacA 毒素の受容体である. 第76回
日本細菌学会, 熊本, 2003年 4月 1日 - 3日.

- 12) 和田昭裕, 木村美幸, 木村貴弘, 八尋錦之助, 大串賢一, 平山壽哉: ヘリコバクター・ピロリの空胞化致死毒素 (VacA) の空胞化作用と MAP キナーゼ活性化について. 第76回日本細菌学会, 熊本, 2003年4月1日 - 3日.
- 13) 江原雅彦, 一瀬休生, 岩見 守, 岩永正明: コレラ菌の相変異と薬剤耐性. 第76回日本細菌学会, 熊本, 2003年4月1日 - 3日.
- 14) 大石和徳, 永武 毅: インフルエンザ菌外膜蛋白質による肺の樹状細胞の動態と獲得免疫誘導. 第76回日本細菌学会総会, 熊本市, 2003年4月1日 - 3日, P152.
- 15) 永武 毅: パネルディスカッション P - 1 「21世紀における感染症対策」 院内感染の問題点と対応. 第26回日本医学会総会, 2003年4月4日 - 6日.
- 16) 嶋田雅暁: 第26回日本医学会総会. 福岡, 2003年4月5日 - 4月6日.
- 17) 高原 耕, 中谷 晃, 鳥山 寛, 重松和人, 雨森龍彦, 伊藤京衛: Intravascular diffuse large B cell lymphoma の2剖検例. 第92回日本病理学総会, 福岡, 2003年4月23 - 25日.
- 18) 藤田修一, 千馬正敬, 山口 朗, 鳥山 寛: African Burkitt lymphoma での starry sky 像形成の意義. 第92回日本病理学総会, 福岡, 2003年4月23 - 25日.
- 19) 鳥山 寛, 千馬正敬: 熱帯アフリカと東南アジアにおける陰茎癌での HPV 感染. 第92回日本病理学総会, 福岡, 2003年4月23 - 25日.
- 20) 重松和人, 高原 耕, 中谷 晃, 鳥山 寛, 後藤貴史: 消化管の多発性ポリープ状形態を呈した胃癌の転移例. 第92回日本病理学総会, 福岡, 2003年4月23 - 25日.
- 21) 長谷部 太, Parida M., Sophie B., Guillermo P., 井上真吾, 森田公一: LAMP 法による西ナイルウイルス遺伝子診断の試み, 第38回日本脳炎生態学研究会, 小樽, 2003年5月15 - 16日.
- 22) Parquet C., 長谷部 太, 井上真吾, NgaTN, 森田公一: 日本脳炎ウイルス Genotype I 型のベトナムへの侵入, 第38回日本脳炎生態学研究会, 小樽, 2003年5月15 - 16日.
- 23) Pandey B., 山本 晃, 森田公一, Rai.S., 倉根一朗: ネパールにおける日本脳炎の血清疫学. 第38回日本脳炎生態学研究会, 小樽, 2003年5月15 - 16日.
- 24) 鳥山 寛, 千馬正敬, 熊取厚志, 藤田修一: バーキットリンパ腫の疫学および⁶ 星空 (Starry sky) 像” 出現の解明. 日本アフリカ学会第40回学術大会, 松江, 2003年5月31日 - 6月1日.
- 25) 星野和彦, 渡邊 浩, 杉田麟也, 麻生憲史, 渡邊貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: 肺炎球菌, インフルエンザ菌の家庭内伝播に関する分子疫学的解析. 第23回気道分泌研究会, 神奈川, 2003年5月31日.
- 26) 門司和彦: 地球温暖化は発展途上国の人々の健康と生活にどのような影響を与えるか? 第2回地球研フォーラム. 京都, 2003年6月13日.

- 27) 高木明子, 栗田伸一, 池田喜彦, 大石和徳, 永武 毅: A型インフルエンザに対する oseltamivir と PSL の併用効果に関する検討. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日. P 29.
- 28) 黒木麗喜, 小山和彦, 川上健司, 大石和徳, 永武 毅: A型インフルエンザ感染症に合併した横紋筋融解症の 1 例. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日. P 51.
- 29) 川上健司, 黒木麗喜, 小山和彦, 高橋孝朗, 大石和徳, 永武 毅: 難治性結核性膿気胸の一例. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日. P 66.
- 30) 麻生憲史, 渡辺 浩, 渡辺貴和雄, 吉嶺裕之, 大石和徳, 永武 毅: インフルエンザ菌における薬剤感受性及び耐性遺伝子の経年的推移と BLNAR の分子疫学的検討. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日, P 57.
- 31) 倉本剛史, 真崎宏則, 光嶋博昭, 鬼塚智子, 下釜誠司, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: Arcanobacterium haemolyticum による下気道感染症の 1 例. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日, P 63.
- 32) 渡辺 浩, 大石和徳, 永武 毅: コクサッキー A21ウイルス感染症による人气道皮細胞上のインフルエンザ菌産生バイオフィルムの増進. 第50回日本呼吸器学会九州地方会春季学会, 福岡市, 2003年 6月 7日, P 71.
- 33) 大石和徳, 井上真吾: シンポジウム「輸入感染症の臨床的アプローチ」 2. デングの臨床像とその感染病態. 第14回日本臨床寄生虫学会, 長崎, 2003年 6月21日, P 10 - 11.
- 34) 斎藤若菜, 馬場基男, 永井英明, 益田公彦, 赤川志のぶ, 長山直弘: AIDS に合併した肺アメーバー症の 1 例. 第14回日本臨床寄生虫学会, 長崎, 2003年 6月21日, P 15.
- 35) 土橋佳子, 川上健司, 高橋孝郎, 中山ふくみ, 名和行文, 永武 毅: 肺犬糸状虫症の一例. 第14回日本臨床寄生虫学会, 長崎, 2003年 6月21日, P 25.
- 36) 中山真彰, 八尋錦之助, 大串賢一, 西 義人, 和田昭裕, 平山壽哉: *H. pylori* VacA の受容体と lipid rafts の関与について. 第50回毒素シンポジウム, 和歌山, 2003年 7月 9日 - 11日.
- 37) 八尋錦之助, 和田昭裕, 中山真彰, 倉園久生, 野田公俊, 平山壽哉, *Helicobacter pylori* の産生する VacA 毒素受容体 RPTPb の結合領域の解析, 第50回毒素シンポジウム, 和歌山, 2003年 7月 9日 - 11日.
- 38) 大石和徳: 中国における SARS: アウトブレイクの要因とその後の対応. 第 7 回海外渡航者の健康を考える会大会, 第 1 回海外渡航者健康学会学術集会, 大阪, 2003年 7月11日 - 12日.
- 39) 藤井仁人, 熊取厚志, 中村三千男: MAR binding protein SATB 1 は p 300と特異的に結合

- する．第14回日本生体防御学会，京都 2003年 7月31日 - 8月 2日．
- 40) Morita K, Inoue S, Hasebe F, Ishikawa K, Fuke I, Mizuno T, Development and evaluation of newly developed WN vaccine. 第3回あわじしま感染症・免疫フォーラム，淡路島，2003年 8月25日 - 28日．
- 41) 平山謙二：Balanced polymorphism of TNF-alpha promoter region in the endemic areas of Malaria. 第3回あわじしま感染症・免疫フォーラム，淡路島，2003年 8月25 - 28日．
- 42) 一ノ瀬昭豊：セロファン寒天培地法と抗菌剤による形態変化．第16回九州電子顕微鏡技術研究会，福岡，2003年 8月30日．
- 43) 平山壽哉，中山真彰，西義人，大串賢一，八尋錦之助，和田昭裕： *Helicobacter pylori* VacA 毒素受容体の多様性と毒素結合における lipid raft の関与．第56回日本細菌学会・九州支部総会，宮崎，2003年 9月13日 - 14日．
- 44) 平山壽哉，中山真彰，西義人，大串賢一，八尋錦之助，和田昭裕： *Helicobacter pylori* VacA 毒素受容体の多様性と毒素結合における lipid raft の関与．第56回日本細菌学会・九州支部総会，宮崎，2003年 9月13日 - 14日．
- 45) 大串賢一，和田昭裕，平山壽哉： *Salmonella enteritidis* FliC による human b-defensin-2 発現誘導機序解析．第56回日本細菌学会・九州支部総会，宮崎，2003年 9月13日 - 14日．
- 46) 大石和徳：呼吸器感染症等の実態調査 経過報告．第4回肺炎球菌ワクチン研究会，東京，2003年 9月19日．
- 47) 神原廣二：JICA パートナースHIPプロジェクト「ロンボク・スンバワ島におけるマラリアコントロール」．第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日．
- 48) 神原廣二，吉永一未，高木正洋，前川芳秀，I. K. Gerudug，Yoes P. Dachlan：インドネシア，ロンボク・スンバワ島におけるマラリア流行．第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日．
- 49) 中澤秀介：ヴェトナムにおけるマラリアの分子疫学的研究．第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日．
- 50) 中澤秀介：マウスマラリアの薬剤治療後の再燃．第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日．
- 51) 藤巻康教，Nguyen Thi Viet Hoa，野田伸一，門司和彦，Le Dinh Cong，青木克己：ベトナムハノイ近郊の土壌における寄生虫卵汚染状況とその汚染様式．第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日．
- 52) 伊藤 誠，Mirani V. Weerasooriya，藤巻康教，Mohammad Z. Islam，青柳武則，木村英作：バンクロフト系状虫症流行地の新生児における母親由来の抗原特異的 IgG 4 抗体

の推移 第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会 北九州，2003年10月10 - 12日。

- 53) 鳥山 寛，千馬正敬，熊取厚志，藤田修一：ケニア内陸部におけるパーキットリンパ腫の疫学および“ 星空 (starry sky) 像 ” 出現の解明。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10 - 12日。
- 54) 麻生憲史，渡辺 浩，渡辺貴和雄，大石和徳，Kositsakulchai W，Sanchai T，Kahintapong S，Tharavichitkul P，Sirisanthana T，永武 毅：タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討 - RpoB 遺伝子のアミノ酸変異を伴った Rifampicin 耐性 *Rhodococcus equi* の出現 - 。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10日 - 12日。P 88
- 55) 齋藤真理子，大石和徳，井上真吾，本田章子，長谷部 太，熊取厚志，森田公一，永武 毅：デングウイルス感染症における Platelet-associated IgG, IgM の臨床的意義。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10日 - 12日。P 290
- 56) 本田章子，大石和徳，井上真吾，齋藤真理子，長谷部 太，森田公一，永武 毅：最近のフィリピン・メトロマニラにおける小児デングの臨床病態研究。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10日 - 12日。P 291
- 57) 神原廣二，吉永一未，高木正洋，前川芳秀，Gerudug，I. K.，Dachlan，Yoes P：インドネシア，ロンボク・スンパワ島におけるマラリア流行。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会，北九州，2003年10月10日 - 12日。
- 58) 谷村 晋，藤野善久，郭小娟，Liu Jun，白根聖弓，宮武宗利，田辺公子，溝田 勉，楠田哲也：砒素汚染井戸封鎖による水汲負担増加量のシミュレーション評価。第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会。北九州市，2003年10月10 - 12日。
- [抄録掲載誌 (3つ)]
- 1 . 第44回日本熱帯医学学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会プログラム抄録集 p 242
 - 2 . Susumu Tanimura, Yoshihisa Fujino, Xiaojuan Guo, Jun Liu, Kiyoyumi Shirane, Munetoshi Miyatake, Kimiko Tanabe, Tsutomu Mizota, Tetsuya Kusuda, Takesumi Yoshimura. Evaluation of a simulation of water-drawing burden after the selective sealing arsenic-contaminated wells. The Journal of Japan Association for International Health 2004 18 (1) p.113
 - 3 . Susumu Tanimura, Yoshihisa Fujino, Xiaojuan Guo, Jun Liu, Kiyoyumi Shirane, Munetoshi Miyatake, Kimiko Tanabe, Tsutomu Mizota, Tetsuya Kusuda, Takesumi Yoshimura. Evalu-

ation of a simulation of water-drawing burden after the selective sealing arsenic-contaminated wells. *Tropical Medicine and Health* 2004 32 (1) p.133

- 59) 大渡 伸, 藤巻康教, 熊取厚志, 鳥山 寛, 金田英子: UV遮断クリームによるマンソン住血吸虫の感染抑制. 第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会合同大会, 北九州, 2003年10月10日 - 12日. (日本熱帯医学会雑誌31 (増刊号): 295, 2003)
- 60) 安高雄治, 門司和彦, Ali F. Mgeni, Alipo N. Khamis, 嶋田雅暁: ザンジバルにおけるビルハルツ住血吸虫症疫学研究: 水接触行動・自己診断に関する質問紙法の有効性. 第44回日本熱帯医学会大会・第18回日本国際保健医療学会合同大会, 北九州, 2003年10月10日 - 12日.
- 61) 金田英子, 門司和彦, Mohamed Karama, 嶋田雅暁: ビルハルツ住血吸虫症流行地における自覚的血尿と川との接触: 河川及び行動の違い. 第44回日本熱帯医学会大会・第18回日本国際保健医療学会合同大会, 北九州, 2003年10月10日 - 12日.
- 62) 本村和嗣: 2001年に発生した長崎市内の高校生における発疹集団発生事例. 第1回長崎感染症予防研究会, 長崎市, 2003年10月17日.
- 63) 大渡 伸, 藤巻康教, 熊取厚志, 鳥山 寛, 金田英子: 住血吸虫症に対する水圧振動殺傷効果による感染予防法. 第42回日本生気象学会大会, 神戸, 2003年10月18日 - 19日. (Jpn. J. Biometeor., 40(3): S 64, 2003)
- 64) 永武 毅: 教育セミナー7 (ランチョン) ウイルス感染と呼吸器疾患. 第53回日本アレルギー学会総会, 岐阜, 2003年10月23日 - 25日.
- 65) 永武 毅: 呼吸器疾患におけるウイルスと細菌のかかわり - かぜは万病のもと -. 教育セミナー7 第53回日本アレルギー学会総会. 岐阜, 2003年10月24日.
- 66) Wang, S. -Q., Kawada, H., Tuno, N., Takagi, M.: Study on the survivorship of Copepods: *Mesocyclops pehpeiensis* and *Megacyclops viridis* under different storage conditions. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会・第53回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会, 鹿児島, 2003年10月25日 - 26日.
- 67) 才田 進, 津田良夫, 川田 均, 高木正洋: CDC型電動昆虫吸引機を用いた休息蚊採集の試み. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会・第53回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会, 鹿児島, 2003年10月25日 - 26日.
- 68) 川田 均, 才田 進, 高木正洋: 光学式通過センサーを利用した蚊成虫の吸血行動の記録. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会・第53回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会, 鹿児島, 2003年10月25日 - 26日.
- 69) 碓 公明, 川田 均, 高木正洋: 行動記録装置を用いた蚊の化学物質に対する反応の定量記録. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会・第53回日本衛生動物学会南日本支部大

- 会合同大会，鹿児島，2003年10月25日 - 26日．
- 70) Argueta, T. B. O., Kawada, H., Shimabukuro, K., Kubota, S., Shono, Y., Tsushima, K., Takagi, M.: Comparative efficacy of pyrethroids against several strains of Asian *Culex quinquefasciatus*. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会・第53回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会，鹿児島，2003年10月25日 - 26日．
- 71) Mathenge EG, Parquet C, 長谷部 太, 井上真吾, 森田公一: Elevated dengue antigen expression and host cell specificity in JE/Dengue chimeras. 第51回日本ウイルス学会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 72) 青木千恵, 左 一八, 森田公一, 長谷部 太, 宮本大誠, 鈴木 隆, 鈴木康夫: デング熱ウイルス結合性糖鎖分子の構造及びその性状解析．第51回日本ウイルス学会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 73) 加根村和美, 只野昌之, 森田公一, 倉根一郎, 高島郁夫, 森 直樹: 沖縄県住民の西ナイルウイルスに対する交差中和抗体測定．第51回日本ウイルス学会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 74) Parquet C, Cuong VD, 長谷部 太, Nga PT, 馬 紹平, 井上真吾, 牧野芳大, 森田公一: Emergence of Japanese encephalitis virus genotype 1 in Vietnam．第51回日本ウイルス学会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 75) Manmohan P, Guillermo P, 井上真吾, 長谷部 太, 森田公一: Real-time Reverse transcription Loop Mediated Isothermal Amplification for rapid detection of West Nile virus. 第51回日本ウイルス学会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 76) 大石和徳: SARS の臨床．第51回日本ウイルス学会学術集会・総会．京都，2003年10月27日 - 29日．
- 77) 久保嘉直, 田中勇悦, 佐藤裕徳, 山本直樹: CD4-independent HIV-1感染に対する cyclodextrin の阻害効果．第51回日本ウイルス学会学術集会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 78) 久保嘉直, 天沼 宏: マウス白血病ウイルス感染におけるエンベロープ蛋白質 R ペプチド切断の重要性．第51回日本ウイルス学会学術集会，京都，2003年10月27日 - 29日．
- 79) 吾郷昌信, 吾郷由美, 山村睦朗, 松浦善治, 市村 宏, 岩崎琢也: 新規抗ライノウイルス剤 MRL 2471の作用部位に関する解析．第51回日本ウイルス学会学術集会，京都，2003年10月28日．
- 80) 中村三千男: 慢性肉芽腫症における原因遺伝子とその異常，第43回 日本臨床化学会年会・第50回日本臨床検査医学会総会連合大会，広島 2003年10月29日 - 31日．
- 81) 永武 毅: 教育セミナー 急性気道感染症の今日的課題と対応．第50回日本化学療法学会東日本支部会，第52回日本感染症学会東日本地方総会，第86回日本細菌学会関東支部

の合同学術集会，横浜，2003年10月30日 - 31日．

- 82) 平山謙二，Ratawan Ubalee，塚原高広，菊池三穂子，金子 明，濱野慎二郎：マラリア淘汰圧により影響を受けたと考えられる免疫関連遺伝子．第2回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム，2003年10月31日 - 11月2日，金沢（p 40）
- 83) 永武 毅：呼吸器感染症の抗菌化学療法における今日の問題とその対応 - 小児から高齢者まで - ．第35回日本小児感染症学会，富山市，2003年11月7日 - 8日．P 30
- 84) 渡邊 浩：シンポジウム⁽¹⁾ - 急性気道感染症の診療と治療（SARS 発生時の対応を含む）．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P 64
- 85) 黒木麗喜，小山和彦，川添金雄，川上健司，高橋孝郎：血痰にて発見された肺動静脈瘻を伴った大動脈弁上部狭窄症と末梢性肺動脈狭窄症の1例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P 83
- 86) 石田正之，天野秀明，川原史生，梅根良彦，田代尚樹，大石和徳，永武 毅：高齢発症のクローン病を基礎に生じた細菌性腸炎から敗血症肺梗塞をきたした一例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P 83
- 87) 寺田真由美，栗田伸一，高木明子，大石和徳，永武 毅：特発性間質性肺炎との鑑別が困難であった鳩排泄物特異抗体陽性慢性過敏性肺炎の一症例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P 87
- 88) 川添金雄，小山和彦，黒木麗喜，川上健司：安静時に反復した喉頭痙攣と考えられた一例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P .120
- 89) 田代尚樹，天野秀明，石田正之，苑田文成，永武 毅：呼吸筋の筋力低下が先行して発症した筋萎縮性側索硬化症による呼吸不全の一例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P .121
- 90) 田代尚樹，天野秀明，石田正之，永武 毅：low tidal volume による肺保護的換気療法を行い救命したARDSの一例．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P .125
- 91) 池田秀樹，小山 純，大石和徳，永武 毅，鬼塚正三郎：マウス肺炎球菌性肺炎をモデルにおける PspA と CPS 特異抗体誘導の比較検討．第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会．久留米市，2003年11月13日 - 14日．P .144

- 92) **田代尚樹, 天野秀明, 石田正之, 永武 毅**: 白苔を伴う気道病変を来したマイコプラズマ肺炎の一例. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .156
- 93) **石田正之, 天野秀明, 田代尚樹, 森本浩之輔, 永武 毅**: Alveolar macrophage による Apoptotic neutrophil の貪食を亢進させる MCP-1が macrophage 表面 receptor に及ぼす影響に関する検討. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .160
- 94) **田代尚樹, 天野秀明, 石田正之, 森本浩之輔, 永武 毅**: 細菌性肺炎モデルの炎症終息過程における肺組織 single strand DNA 染色を用いた検討. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .161
- 95) **小山和彦, 川添金雄, 黒木麗喜, 川上健司**: 急速に進行した肺限局型ウェゲナー肉芽腫症の一例. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .181
- 96) **田代尚樹, 天野秀明, 石田正之, 永武 毅**: 原発性肺癌が強く疑われた inflammatory pseudotumor の一例. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .182
- 97) **水谷玲子, 本田章子, 本村和嗣, 池田秀樹, 渡辺 浩, 大石 和徳, 永武 毅, 光嶋博昭, 真崎宏則**: GM-CSF 吸入療法が有効であった一例. 第55回日本結核病学会九州地方総会・第51回日本呼吸器学会九州地方総会. 久留米市, 2003年11月13日 - 14日. P .187
- 98) **白石基三, 宮地 宏幸, 川田 均, 高木 正洋**: フェノトリン炭酸ガス製剤のヒトスジシマカに対する効力試験. 第15回日本環境動物昆虫学会年次大会, 堺, 2003年11月14日 - 15日.
- 99) **渡辺 浩, 大石和徳, 永武 毅**: 中国における SARS 流行時の対応と問題点. 第73回日本感染症学会西日本地方会総会. 鹿児島市, 2003年11月20 - 21日. P 40
- 100) **本村和嗣, 武部 豊, 大石和徳, 永武 毅**: ミャンマーでは, 地方によって, 流行している HIV-1のサブタイプが異なる. 第73回日本感染症学会西日本地方会総会. 鹿児島市, 2003年11月20 - 21日. P 49
- 101) **古本朗嗣, 山領 豪, 大石和徳, 永武 毅, 川上健司, 真崎宏則**: 第3世代 ELISA を用いての慢性呼吸器疾患患者の肺炎球菌ワクチン接種前後の血清中肺炎球菌莢膜ポリサッカライド (GPS) IgG の再検討. 第73回日本感染症学会西日本地方会総会. 鹿児島市, 2003年11月20 - 21日. P 57
- 102) **小山 純, 鬼塚正三郎, 栗田伸一, 池田秀樹, 大石和徳, 永武 毅**: インフルエンザ菌外膜蛋白質抗原気管内反復接種による獲得免疫誘導. 第73回日本感染症学会西日本地方

- 会総会．鹿児島市，2003年11月20 - 21日．P 58
- 103) 石田正之，天野秀明，田代尚樹，大石和徳，永武 毅：EBV 及び CMV の重複感染を認めた一例．第73回日本感染症学会西日本地方会総会．鹿児島市，2003年11月20 - 21日．P 65
- 104) 原田義高，出川 聡，松本慶蔵，永武 毅，山下広志：1998 - 2003年の当院における結核及び非定型抗酸菌分離症例の検討．第73回日本感染症学会西日本地方会総会．鹿児島市，2003年11月20 - 21日．P 68
- 105) 石田正之，天野秀明，田代尚樹，大石和徳，永武 毅：フルコナゾール投与にて Torsades de Pointes を認めた一例．第73回日本感染症学会西日本地方会総会．鹿児島市，2003年11月20 - 21日．P 69
- 106) 石田正之，天野秀明，田代尚樹，大石和徳，永武 毅：インフルエンザウイルス感染に伴う横紋筋融解症を合併した2症例．第73回日本感染症学会西日本地方会総会．鹿児島市，2003年11月20 - 21日．P 70
- 107) 渡辺 浩：コクサッキー A21ウイルス混合感染によるヒト気道上皮細胞上のインフルエンザ菌産生バイオフィルムの増生．第1回感染病態研究会．長崎市，2003年11月22日．
- 108) 金田英子，門司和彦，青木克己，嶋田雅暁：ケニア沿岸州の一集落における人々の生活と水接触行動．第68回日本民族衛生学会大会．熊本，2003年11月27 - 29日．
- 109) 門司和彦：熱帯感染症における行動研究 - 熱帯感染症への人類生態学的アプローチ - 第68回日本民族衛生学会大会．熊本，2003年11月27 - 29日．
- 110) 大石和徳：シンポジウム 3 経済効率を考えた抗菌薬治療(ガイドラインへの提言)1) 呼吸器科領域．第51回日本化学療法学会西日本支部総会，福岡市，2003年12月4日 - 5日，P32．
- 111) 熊取厚志，Gissel Garcia, Carmen Parquet M Carmen，一ノ瀬昭豊，長谷部 太，鈴木章一，中村三千男，森田公一：日本脳炎ウイルスは樹状細胞に感染しアポトーシスを誘導する，第26回日本分子生物学会年会，神戸，2003年12月10 - 13日．
- 112) Atsushi Kumatori, Gissel Garcia, Carmen Parquet, Akitoyo Ichinose, Futoshi Hasebe, Shoichi Suzuki, Michio Nakamura, Kouichi Morita. : Japanese encephalitis virus infects and induces apoptosis to dendritic cells. 第26回日本分子生物学会年会，神戸，2003年12月10 - 13日．
- 113) 森田公一：東アジアにおける日本脳炎ウイルスの分子疫学．第35回九州微生物研究会，福岡，2003年12月19日．
- 114) 大石和徳：シンポジウム(呼吸器感染症ワクチンの開発と展望) SARS の臨床．第3回分子予防環境医学研究会．東京都，2003年12月19日．

- 115) **平山謙二**：重症型熱帯感染症（ Dengue熱出血，慢性シャーガス病）の感受性遺伝子の解明．特定領域「感染の成立と宿主応答の分子基盤」平成15年度第2回全体班会議，東京，2004年1月8日．
- 116) **谷村 晋，溝田 勉**，Javier E. Zelaya, Lizandro Martinez, Rosibel Martinez, Eda S. Calix, Ofelia Martinez, Reina Flores，**仲 佐保**：ホンジュラス共和国における AIDS の空間疫学的考察第14回日本疫学会学術総会，山形市，2004年1月22日 - 23日 [抄録掲載誌] Supplement to Journal of Epidemiology 14 (1) 2004 p.121
- 117) **和田昭裕，大串賢一，平山壽哉**：*Salmonella enteritidis* のフラジエリン (FliC) による抗菌性ペプチド (hBD-2) の発現誘導機構．第29回長崎感染症研究会，長崎，2004年1月24日．
- 118) **平山謙二**，Chuanxin Yu, Feng-Xue Zhang，**井上雅広，菊池三穂子**，Ying-Chang Zhu：シグナル配列トラップ法による日本住血吸虫虫卵 mRNA からの分泌型あるいは膜貫通型タンパクの遺伝子クローニング．平成15年度日米医学協力研究会寄生虫疾患専門部国内会議，東京，2004年1月24日．
- 119) **青木克己**：特別講演 「COE を基盤とした熱帯病研究の新たな展開」．第28回日本熱帯医学会九州支部大会 大分，2004年1月31日．
- 120) **平山謙二**：ミニブタの住血吸虫ワクチン効果．平成15年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業第2回班会議，名古屋，2004年3月2日．
- 121) **溝田 勉，谷村 晋，鈴木千鶴子，坂野晶司，國井 修，山本秀樹**：熱帯医学の人材育成プログラムに関する考察．第22回日本国際保健医療学会西日本地方会，兵庫，2004年3月6日．
- 122) **秦 亮，溝田 勉，古川孝明，渡辺 浩，永武 毅**：The Emergency of SARS-A Review of China. 第22回日本国際保健医療学会西日本地方会，兵庫，2004年3月6日．
- 123) **安高雄治**：マダガスカル南西部・タナラナの食物摂取と生業．第9回生態人類学会研究大会．京都，2004年3月20 - 21日．
- 124) **谷村 晋**：中国・内モンゴル砒素汚染地区疫学調査への GIS/GPS 技術の応用 - 砒素汚染井戸封鎖による水汲負担増加量のシミュレーション評価 - 第74回日本衛生学会総会，東京，2004年3月24 - 27日．
- 125) **平山謙二**：マラリアワクチン及び薬剤開発に関する研究 平成15年度国際医療協力研究委託費班会議「薬剤耐性化が進む国際的に重要な感染症の予防・治療のためのワクチン及び化学療法薬剤開発とその応用」，東京，2004年3月29日．

9 . 3 国際会議における研究活動

- 1) Hirayama T, Yahiro K, Wada A, and Moss J: *H. pylori* VacA stimulates p 38 and Erk 1/2, but not JNK, phosphorylation in AZ-521 cells. Experimental Biology 2003, April 11-15, San Diego, USA.
- 2) Takahashi H, Oishi K, Peter N M, Roy M, Nagatake T: Decreased serum opsonic activity against *Streptococcus pneumoniae* in HIV-infected Ugandan adults. American Thoracic Society International Conference. May 16 - 21, 2003, Seattle, Washington D.C, U.S.A.
- 3) Kurita S, Oishi K, Koyama J, Onizuka S, Nagatake T: Decreased serum opsonic activity against *Streptococcus pneumoniae* in HIV-infected Ugandan adults. Department of Internal Medicine, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University and Makerere Universtiy and Joint Clinical Research Centre, Uganda. American Thoracic Society International Conference. May 16-21, 2003, Seattle, Washington D.C, U.S.A.
- 4) Hirayama T, Yahiro K, Wada A, and Moss J: Identification of P140 as protein tyrosine phosphatase alpha, RPTP alpha, a receptor for *Helicobacter pylori* VacA. 103rd General Meeting of American Society for Microbiology, May 18-22, 2003, Washington DC, USA.
- 5) Hirayama, T., Wada, A., Yahiro, K., and Moss, J. : Protein tyrosine phosphatase α , RPTP α , is a *Helicobacter pylori* VacA receptor in G401 cell, Workshop on Bacterial Protein Toxins (Etox 11), June 28-July 2, 2003, Praha, CZECH
- 6) Hirayama K: Forum for Ethical Review Committees in Asia & the Western Pacific, FERCAP Steering Committee Meeting Advancing Ethics & Quality in Research by Improving Ethical Review. July 17-19, 2003, Bangkok, Thailand
- 7) Morita K. Pandey B., Kinney RM., Kumatori A., Hasebe F., Parquet MC. Inoue S., and Igarashi A: Single Arg-to-Ile mutation in the PrM Protein of dengue 2 virus associated with inversed infectivity and enhanced cytokine production in human dendritic cells. 37th US-Japan Co-operative Medical Science Program. July 18-20, 2003, Houston, U. S. A.
- 8) Juarez, S. I., Ichinose, A., Jongwutiwes, S., Yanagi, T., Kanbara, H. : A Species of Microsporidium Isolated from an HIV-Infected Patient and Identified as *Trachipleistophora* sp. by Transmission Electron Microscopy (TEM). VIII International Workshops on Opportunistic Protists (IWOP-8) and International Conference on Anaerobic Protists, Hilo, July 25-29, 2003, Hawaii, U. S. A.
- 9) Hirayama K: Refresher Course on Good Clinical Practices (GCP) for TDR Clinical Monitors. July 28th July 30th, 2003, Fukuoka, JAPAN

- 10) Hirayama K: International Course on Research Ethics. July 31st August 2nd, 2003, Pompe Hall, Nagasaki, JAPAN
- 11) Motomura K, Kusagawa S, Oishi K, Nagatake T, Takebe Y: Emergence of new forms of human immunodeficiency virus type I inter subtype recombinants in Central Myanmar. National Cancer Institute, HIV drug resistance program division. August 4, 2003, Frederick, Maryland, U. S. A.
- 12) Watanabe K.: US-Japan Cooperative Medical Science Program, Parasitic Diseases Panel Annual Meeting, Sep, 7-9 2003, Charlottesville, Virginia, U. S. A.
'Miniature pigs as a highly susceptible experimental model for *Schistosoma japonicum* infection'
- 13) Hirayama K: Genetic Influence of Endemicity. U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program, Parasitic Diseases Panel Annual Meeting, September 7-9, 2003, Virginia, U. S. A.
- 14) Watanabe K, Kikuchi M, Ohno A, Raafat MT, Nara T, Ubalee R, Senba M, Iwasaki T, Chen H, Aoki Y, Hirayama K: Miniature pigs: As highly susceptible experimental model for *Shistosoma japonicum* infection. U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program. Parasitic Diseases Panel Annual Meeting, September 7-9, 2003, Virginia, U. S. A.
- 15) Ubalee Ratawan, Kikuchi Mihoko, Shirakawa Taku, Kobayashi Shigeru, Hamano Shinjiro, Ishii Kazunari, Watanabe Kanji, Acharya Gopal P., Hirayama Kenji: Distortion of allele frequencies of TNF-alpha promoter region between malaria endemic and areas in Nepal. 7th Asia-Oceania Histocompatibility Workshop and Conference and 2003 Annual Scientific Meeting of Australasian and South East Asian Tissue Typing Association, September 16-19, 2003, Karuizawa, JAPAN
- 16) Hirayama K: Workshop on 'Standard Operating Procedures (SOPs)' for Clinical Data Management. September 28-30, 2003, Bangkok, Thailand
- 17) 渡邊 浩 : Drug-resistant *Streptococcus pneumoniae* infection in Japan 中国医学学会呼吸病学分会, 中国 天津, 2003年10月10日 .
- 18) Hirayama T, Yahiro K, Nakayama M, Ogushi K, Nishi Y, Wada A, and Moss J: RPTP α and RPTP β are for vacuolating cytotoxin of *Helicobacter pylori*. 38th U.S.-Japan Joint Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections panel, Oct. 10-12, 2003, Bethesda, U. S. A.
- 19) Hirayama T, Ogushi K, Wada A, Kurazono H, and Moss J: Gangliosides act as co-receptors for *Salmonella enteritidis* FliC and promote FliC-induction of human β -defensin-2 expression in Caco-2 cells. 38th U.S.-Japan Joint Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections panel, Oct. 10-12, 2003, Bethesda, U. S. A.

- 20) Matsuyama H., Aoki Y.,: The involvement of cAMP in the control of Schistosome miracidium cilia. Forum Cheju-9, Oct 28-30. 2003 Seoul, Korea
- 21) Shimada, M., Hamada, Y., Ataka, Y., & Moji, K.,: Development of mathematical model of Schistosoma transmission dynamics. Forum Cheju-9, Oct 28-30. 2003 Seoul, Korea
- 22) Shuaibu, M. N., Kanbara, H., Yanagi, T., Ichinose, A.: The Use of Diorganotins as Chemotherapeutic Approach to African Trypanosomiasis. International Symposium of “Asian unique strategy against Asian parasitic diseases for Asian people by Asian parasitologists (AAA)”, Second Congress of Federation of Asian Parasitologists, November 12-14, 2003, Narita, JAPAN
- 23) Segubre, E. M., Pasay, C. J., Bustos, M. D., Huaman, M. C., Kanbara, H.: The current status of malaria drug resistance in the Philippines. International Symposium of “Asian unique strategy against Asian parasitic diseases for Asian people by Asian parasitologists (AAA)”, Second Congress of Federation of Asian Parasitologists, November 12-14, 2003, Narita, JAPAN
- 24) Huaman, M. C., Yoshinaga, K., Kanbara, H.: Molecular markers for chloroquine resistance of *Plasmodium falciparum* isolates in Lombok, Indonesia. International Symposium of “Asian unique strategy against Asian parasitic diseases for Asian people by Asian parasitologists (AAA)”, Second Congress of Federation of Asian Parasitologists, November 12-14, 2003, Narita, JAPAN
- 25) Juarez, S. I., Ichinose, A., Jongwutiwes, S., Yanagi, T., Kanbara, H.: Experimental infection into SCID mice with *T. anthropophthera* isolated from an AIDS patient. International Symposium of “Asian unique strategy against Asian parasitic diseases for Asian people by Asian parasitologists (AAA)”, Second Congress of Federation of Asian Parasitologists, November 12-14, 2003, Narita, JAPAN
- 26) Yu Chuanxin, Zhang Fengzue, Kikuchi Mihoko, Zhu Yingchang & Hirayama Kenji: Identification of the genes encoding secretory or transmembrane proteins of the eggs of *Schistosoma japonicum* by the signal sequence trap. International Symposium of “Asian unique strategy against Asian parasitic diseases for Asian people by Asian parasitologists (AAA)”, November 12-14, 2003, Narita, JAPAN, (p.102)
- 27) Jongwutiwes, S., Kanbara, H.: Population diversity in *Plasmodium vivax*. International Symposium of Research Center for Pathogenic Fungi and Microbial Toxicoses, Chiba Univ., Japan, 2003, “Frontier Studies and International Networking of Genetic Resources in Pathogenic Microorganisms”, November 21-22, 2003, Tokyo, JAPAN
- 28) Ubalee R, Kikuchi M, Shirakawa T, Kobayashi S, Hamano S, Ishii K, Watanabe K, Acharya GP, Hirayama K: Distortion of allele frequencies of TNF-alpha promoter region between malaria endemic and free areas in Nepal. The 52nd Annual Meeting of the American Society

- of Tropical Medicine and Hygiene, December 3-7, 2003, Philadelphia, U. S. A. (Am. J. Trop. Med. Hyg., 69 (3): 319, 2003)
- 29) Watanabe K, Kikuchi M, Ohno A, Raafat MT, Nara T, Ubalee R, Senba M, Iwasaki T, Chen H, Aoki Y, Hirayama K: Miniature pigs: As highly susceptible experimental model for *Schistosoma japonicum* infection. The 52nd Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene, December 3-7, 2003, Philadelphia, U. S. A. (Am. J. Trop. Med. Hyg., 69 (3): 523, 2003)
- 30) Yu C, Zhang F, Kikuchi M, Zhu Y, Inoue M, Hirayama K: Identification of the genes encoding secretory of transmembrane proteins of the eggs of *Schistosoma japonicum* by the signal sequence trap.. The 52nd Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene, December 3-7, 2003, Philadelphia, U. S. A. (Am. J. Trop. Med. Hyg., 69 (3): 522, 2003)
- 31) S. Inoue, MT Alonzo, DJM Cruz, F Tadena¹, RR Matias, K. Morita and FF Natividad.. Serological Surveillance of Japanese encephalitis virus infection in the Philippines. 15th Annual Convention of The Philippine Academic Society for Microbiology and Parasitology, December 6, 2003, Manila, Philippines
- 32) Toma, C., Iwanaga, M., Miyazato, T., Insisengmay, S., Nakasone, N., and Ehara, M. : Analysis of antibiotic resistance mechanisms in *Vibrio cholerae* strains isolated in Lao PDR, 10th Asian Conference on Diarrhoeal Diseases and Nutrition, December 7-9, 2003, Dhaka, Bangladesh
- 33) Parida M., Posadas G., Inoue S., Hasebe F. and Morita K. Real-time reverse transcription Loop Mediated isothermal amplification for rapid detection of West Nile. 6th Asia Pacific Congress of Medical Virology, December 7-10, 2003, Kuala Lumpur, Malaysia
- 34) MT Alonzo, S. Inoue, DJM Cruz, F Tadena, RR Matias, K. Morita and Natividad FF Serological Surveillance of Japanese encephalitis virus infection in the Philippines. 6th Asia Pacific Congress of Medical Virology, December 7-10, 2003, Kuala Lumpur, Malaysia
- 35) Kengo Sonoda, Shoji Kuzuhara, Yoichiro Kino, Kyosuke Mizuno, Koichi Morita. Production and evaluation of experimental vaccine against infectious diseases of West Nile Virus. 6th Asia Pacific Congress of Medical Virology, December 7-10, 2003, Kuala Lumpur, Malaysia
- 36) Inoue S., Alonzo MT, Cruz DJM, Tadena F, Matias RR, Morita K. and Natividad FF. Serological Surveillance of Japanese encephalitis virus infection in the Philippines. 8th International Conference on Tropical Pathology, December 12, 2003, Quezon City, Philippines
- 37) Morita K., Recent development of dengue research in WHO Collaborating Centre in Nagasaki University. WHO meeting for DengueNet Implementation in the Asia-Pacific Regions. December,

11-13, 2003, Kuala Lumpur, Malaysia

- 38) Hirayama, T., Yahiro, K., Wada, A., and Moss, J.: *Helicobacter pylori* VacA binds to mammalian cells through interaction with receptor type protein tyrosine phosphatase (RPTP) alpha and beta, 43rd Annual Meeting The American Society for Cell Biology, Dec. 13-17, 2003, Washington DC, U. S. A.
- 39) Hirayama K: An International Conference on Ethical Review in Asia & the Western Pacific Advancing the Region's Capacity for Health Research. December 15-17, 2003, Bangkok Thailand.
- 40) Jutavijittum, P., Jiviriyawat, Y., Yousukh, A., Kunachiwa, W., Hayashi, S. and Toriyama, K.: Evaluation of hepatitis B vaccination and current status of HBV infection in Chiang Mai children, Thailand. The 5th Colloquium of Asian Network for Clinical Laboratory Standardization and Harmonization, December 17-19, 2003, Bangkok, Thailand
- 41) Hirayama K: WHO/TDR Annual Meeting On Clinical Data Management, January 19-21, 2004, Bangkok, Thailand
- 42) Kawada, H., Maekawa, Y., Tsuda, Y., Shono, Y., Tsushima, K., Takagi, M.: Laboratory & field evaluation of spatial repellency with metofluthrin-impregnated paper strip against mosquitoes in Lombok Island, Indonesia. The 70th Annual Meeting of the AMCA and the 29th Annual Meeting of the Mid-Atlantic Mosquito Control Association, February, 22-26, 2004, Savannah, U. S. A.
- 43) Kawada, H., Tsuda, Y., Shono, Y., Tsushima, K., Takagi, M.: Field trial on spatial repellency of metofluthrin impregnated paper strip against *Culex quinquefasciatus*, *Anopheles balabacensis* & *An. sundaicus* at "Beruga" in Lombok island, Indonesia. The 70th Annual Meeting of the AMCA and the 29th Annual Meeting of the Mid-Atlantic Mosquito Control Association, February, 22-26, 2004, Savannah, U. S. A.
- 44) Oishi K, Watanabe H, Nagatake T and the Pneumococcal respiratory tract infection study group: Clinical and epidemiological study of respiratory pathogenic *Streptococcus pneumoniae* and the immunological effects of pneumococcal polysaccharide vaccine among elderly patients with chronic lung disease in Japan. US-Japan Cooperative Medical Science Program, March 21-22, 2004, San Francisco, U. S. A.
- 45) Watanabe H, Hoshino K, Asoh N, Watanabe K, Oishi K, Nagatake T: Molecular analysis of intrafamilial transmission in *Streptococcus pneumoniae*, *Haemophilus influenzae* and *Moraxella catarrhalis*. US-Japan Cooperative Medical Science Program, March 21-22, 2004, San Francisco, U. S. A.

9.4 報告書等印刷物

- 1) 森田公一：節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立，疫学及びワクチン開発に関する研究（分担）新興・再興感染症研究事業平成15年度報告書
- 2) 森田公一：節足動物媒介性ウイルス疾患の予防・治療に関する研究（分担）地球環境保全試験研究費 平成15年度研究成果報告書（環境省地球環境局研究調査室編集）
- 3) 千馬正敬：情報通信技術を活用したデジタル・キャンパス構想－IT革命が次世代デジタル・キャンパスを創造する 地域・暮らし・大学教育 財務省印刷局 pp 83 - 99 . 2003 .
- 4) 大石和徳，麻生憲史：インフルエンザ菌による肺適応免疫誘導に関する研究（課題番号 14570556）平成14年度～平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)研究成果報告書 2004年3月刊
- 5) 大石和徳，熊取厚志，長谷部 太，森田公一：デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明（課題番号 14406019）平成14年度～平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) 研究成果報告書 2004年3月刊
- 6) 久保嘉直：methyl-b-cyclodextrin による CD4-independent HIV-1感染の阻害．平成15年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 課題番号H 13 エイズ 002 HIV 及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究 総括・分担研究報告書
- 7) 溝田 勉：危機管理としての熱帯病対策Ⅱ．「全国共同利用研」共同研究事業 共同研究報告書 2004年3月刊
- 8) 溝田 勉：『我が国の国際協力を担う国内の人材育成及び供給強化並びにキャリアパスのために医学教育が果たすべき役割の研究』．厚生労働科学研究費補助金社会保障国際協力研究事業 平成15年度報告書 2004年3月刊
- 9) 平山謙二：ミニブタを用いた日本住血吸虫感染動物モデルの開発．厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）輸入蠕虫性疾患の監視と医療対応整備に関する研究（H15 - 新興 - 8）平成15年度総括・分担研究報告書，pp 31 - 34，2004．
- 10) 嶋田雅暁：アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究 平成13 - 15年度科学研究費補助金 基盤研究(B)海外学術調査(2) 研究成果報告書

9.5 熱帯医学研究所集談会

平成15年度熱帯医学研究所集談会プログラム

日時 平成16年3月19日(木) 9:00 - 17:00 於: 大会議室

9:00 青木所長 挨拶

9:10 - 9:40	感染症予防治療	渡辺 浩 斎藤麻里子	タイ国北部地域における HIV 患者に合併した呼吸器感染症に関する研究 デングの重症化における platelet-associated Ig の意義	座長 永 武
9:40 - 10:10	病原因子機能解析	中山 真彰 和田 昭裕	ヘリコバクター・ピロリの産生する空胞化毒素 (VacA) の活性に対する Lipid rafts の関与 抗菌性ペプチドディフェンシンの活性	平 山 (壽)
10:20 - 10:50	寄生行動制御	渡部 幹次 藤巻 康教	ビルハルツ住血吸虫感染による排尿障害 ベトナムハノイにおける土壌媒介寄生虫病の伝播疫学	青 木
10:50 - 11:20	感染細胞修飾機構	上村 春樹 神原 廣二	トリパノソーマのトランスシアリダーゼファミリー蛋白質; 構造から機能 ロンボクにおけるマラリアコントロール法の評価 (Evaluation of malaria control methods in Lombok)	神 原
11:20 - 11:35	分子疫学	Somchai Jongwutiwes	How old are you?	

LUNCH TIME

13:00 - 13:30	病変発現機序	岩崎 琢也 吾郷 昌信	Natural hosts of enteroviruses: Human and animals Antiviral for enteroviruses	岩 崎
13:30 - 14:00	炎症細胞機構	中村三千男	CYBB の 5' 上流部に結合するタンパク質	中 村

		熊取 厚志	単球におけるシトクロム b558大鎖遺伝子発現機構	
		鈴木 章一	Critical Roles of Interferon Regulatory Factor-4 in CD 11b (high) CD 8a (-) Dendritic Cell Development	
14:00 - 14:30	分子構造解析	カリメ パルケット	Shift in JEV genotype circulating in northern Vietnam: Implications for frequent introductions of JEV from Southeast Asia to East Asia.	森 田
		マンモハン パリダ	Development and evaluation of RT-LAMP method as a tool for rapid diagnosis of flavivirus and SARS virus infections	
14:30 - 14:45	エイズ・感染防御	久保 嘉直	感染受容体糖鎖付加によるレトロウイルス感染の阻害	
15:00 - 15:35	感染症研究センター	嶋田 雅暁	熱帯感染症研究センターにおける研究の概要	嶋 田
		安高 雄治	ザンジバルにおけるビルハルツ住血吸虫症研究：水接触行動とリモートセンシングの応用	
15:30 - 16:00	生物環境	都野 展子	Studies of african malaria vectors in wetern Kenya	高 木
		長谷川麻衣子	ベトナム北部農村における日本脳炎媒介蚊の吸血行動に関する調査	
16:00 - 16:30	社会環境	谷村 晋	飲料水砒素対策における水汲み負担量の推計及び AIDS の地域相関研究	溝 田
		古川 孝明	医療社会学、医療システム学（医療政策、医療経済・経営等）医事法など学際的な面からの研究について	
		金田 英子	ラオスにおける感染症と学校保健学研究	
16:30 - 17:00	疾病生態	菊池三穂子	デング出血熱の感受性遺伝子の解明	平 山 (謙)
		平山 謙二	日本住血吸虫の虫卵に特異的に発現する分泌抗原の探索	
		大渡 伸	住血吸虫セルカリアに対するサンクariumと水中音響の影響	

10 講演会

10.1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) Concepts of vaccine development and studies on resistance vs. susceptibility in schistosomiasis
D. G. Colley (Center for Tropical and Emerging Global Diseases, Georgia Univ., USA)
2003年4月1日 熱研大会議室
- 2) マウス白血病ウイルス感染宿主域の改変
天沼 宏 (理化学研究所 分子細胞生物学研究室)
2003年6月
- 3) International Course on Research Ethics
Reidar K. Lie (Department of Philosophy, University of Bergen, Norway)
July 31st August 2nd, 2003, Pompe Hall, Nagasaki University, Nagasaki, JAPAN
- 4) Dengue and Japanese encephalitis in Sri Lanka.
Dr Abey Professor Kelanya University, Colombo, Sri Lanka
2003年8月21日
- 5) 白血病関連 TEL 転写因子による Friend 白血病細胞の分化誘導
和賀一雄 (独協医科大学 内科)
2003年10月
- 6) SARS Outbreak in Hanoi, Vietnam in 2003.
Dr. Le Mai Thi Quynh, Head, SARS Laboratory, National Institute of Health and Epidemiology,
Vietnam.
2003年11月27日
- 7) 生体防御と IL - 18
中西憲司 (兵庫医科大学免疫学・医動物学教室)
2003年12月22日, 長崎大学医学部・ポンペ会館
- 8) アメリカ合衆国におけるウエスト・ナイル・ウイルス感染症対策について
楽得康之 (チューレン大学大学院)
2003年12月24日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 9) ソロモン諸島国のマラリア早期警戒システム
川端真人 (神戸大学医学部 医学研究国際交流センター)
2003年12月24日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 10) 国際保健の場で遭遇した感染症

- 石井 明** (自治医科大学 名誉教授)
2003年12月24日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 11) タイを中心としたエイズ対策の動向
佐久間充 (女子栄養大学)
2003年12月25日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 12) 途上国の未熟な民主主義と政党政治の混乱
ネパールにおける危機管理の事例
山本勇次 (大阪国際大学)
2003年12月25日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 13) 住血吸虫感染と発癌
金澤 保 (産業医科大学医学部寄生虫学・熱帯医学講座)
2003年12月25日, 熱研小会議室
- 14) 国際保健医療分野における人材派遣とキャリア・パス
喜多悦子 (日本赤十字九州国際看護大学)
2004年 1 月23日, 熱帯医学研究所 大会議室
- 15) Parasite Mitochondria as a Target of Chemotherapy
北 潔 (東京大学大学院医学系研究科・国際保健学専攻・生物医科学教室)
2004年 2 月10日, 長崎大学医学部・ポンペ会館
- 16) 蚊媒介のアルボウイルスの感染特性：西ナイルウイルスとデングウイルス
江下優樹 (大分大学医学部)
2004年 2 月20日
- 17) Genome-wide scan of disease genes by association analysis using microsatellites
猪子英俊 (東海大学医学部・医学科基礎医学系)
2004年 2 月20日, 長崎大学熱帯医学研究所・大会議室
- 18) Genome diversity in the HLA region and mapping of susceptibility genes to autoimmune diseases.
木村彰方 (東京医科歯科大学難治疾患研究所・成人疾患研究部門分子病態分野)
2004年 2 月20日, 長崎大学熱帯医学研究所・大会議室
- 19) Anaerobic pre-adaptation for parasitism in Kinetoplastids: Molecular Evolution of the de novo pyrimidine biosynthesis and its biological significance in trypanosomes.
奈良武司 (順天堂大学医学部・生体防御寄生虫学教室)
2004年 2 月23日, 長崎大学熱帯医学研究所・大会議室
- 20) Heteropentameric cholera toxin B subunit-fusion proteins for a new mucosal vaccine delivery vehicle.

新川 武（琉球大学遺伝子実験センター・分子生命科学）

2004年2月23日（月） 長崎大学熱帯医学研究所・大会議室

21) SARS 後の中国の医療事情は変わったか

おおり医院院長 **大利昌久**

2004年3月8日，熱研大会議室

10.2 熱帯医学研究所教官による講演

- 1) 西ナイルウイルスの新大陸での拡大とわが国への伝播の可能性と対策

森田 公一

シンポジウム 2 第76回日本細菌学会

2003年4月1 - 3日, 熊本

- 2) 国際保健医療入門

嶋田 雅暁

佐賀医科大学保健学科講義

2003年5月6日, 佐賀

- 3) 発展途上国の人口と健康

門司 和彦

久留米大学医学部講義

2003年5月8日, 久留米

- 4) SARS 流行地よりの報告

森田 公一

緊急市民講座「SARS」

2003年5月10日, 長崎大学医学部記念講堂

- 5) Community Participation: A key for the success of control program of parasitic diseases

青木 克己

帯広畜産大学原虫病研究センター特別講義

2003年5月12日, 帯広

- 6) 国際医療協力

嶋田 雅暁

久留米大学医学部講義

2003年5月15日, 久留米

- 7) 熱帯医学とケニアに於ける住血吸虫症対策

青木 克己

愛媛大学医学部特別講義

2003年5月27日, 松山

- 8) SARS の最新情報について

森田 公一

長崎県市町村衛生主管課長等研修会

2003年5月26日，長崎県医師会館

9) West Nile ウイルス感染症

森田 公一

ランチョンセミナーV，第51回日本輸血学会総会

2003年5月29日，小倉

10) さし迫る SARS の脅威

緊急公開シンポジウム

森田 公一

2003年6月4日，九州歯科大学

11) 紫外線障害

長崎大学環境科学部特別講義，

大渡 伸

2003年6月11日，長崎

12) SARS の脅威・流行地よりの報告

神戸市垂水区医師会学術講演会

森田 公一

2003年6月12日，神戸市

13) SARS の現状と疫学的特徴

佐世保市 SARS 講習会

森田 公一

2003年6月14日，佐世保市医師会館

14) 呼吸器感染症のメカニズムからみた予防戦略

永武 毅

第486回大垣内科会講演会

2003年6月18日，大垣市

15) 栄養疫学 I・II・III

門司 和彦

県立長崎シーボルト大学講義

2003年6月20日・27日，7月4日，長崎

16) 西 Nile ウイルス感染症

森田 公一

第44回日本臨床ウイルス学会教育講演

2003年6月27日，鹿児島市

- 17) 輸入感染症の今日的话题 - SARS から炭疽菌まで -
永武 毅
府中地区医師会学術講演会
2003年 6 月27日, 府中市
- 18) 国連機関における NGO の意義と役割
溝田 勉
放送大学長崎学習センター
2003年 6 月30日 長崎
- 19) 蚊学の世界から
高木 正洋
株式会社サンエイム社内講演会
2003年 7 月 1 日, 福岡
- 20) 熱帯医学と国際保健
青木 克己
大分医科大学特別講義
2003年 7 月 4 日, 大分
- 21) 呼吸器感染症の外来治療
永武 毅
下松医師会学術講演会
2003年 7 月 4 日, 山口県下松市
- 22) 西ナイルウイルス感染症
森田 公一
第12回昭和医学シンポジウム
2003年 7 月 5 日, 東京都
- 23) 中国における SARS アウトブレイクの実態とその後の対応
大石 和徳
熊本大学医学部附属病院院内感染講習会
2003年 7 月 8 日, 熊本市
- 24) ダニと病気, その対策
鈴木 博
長崎産業保健推進センター産業保健セミナー
2003年 7 月 8 日, 佐世保
- 25) ダニと病気, その対策

鈴木 博

長崎産業保健推進センター産業保健セミナー

2003年7月9日，長崎

26) 熱帯病と熱帯医学研究所

嶋田 雅暁

長崎県立西陵高等学校 生徒授業

2003年7月9日，長崎

27) デング熱

森田 公一

第7回海外渡航者の健康を考える会，シンポジウム1

2003年7月11日，大阪府

28) 食品と寄生虫

藤巻 康教

徳島大学医学部栄養衛生学 講義と実習

2003年7月12日，徳島

29) エビデンスにみる高齢者の呼吸器感染症の最新診療

永武 毅

老年医学研修会 第2回大阪研修会

2003年7月12日，大阪市

30) SARS 伝播地域における患者収容医療機関の状況

大石 和徳

長崎県 SARS 対策第2回関係医療機関会議

2003年7月14日，長崎市

31) 中国の SARS - アウトブレイクの要因とその後の対応

大石 和徳

広島市医師会学術講演会

2003年7月15日，広島市

32) 中国における SARS アウトブレイクの実態とその後の対応

大石 和徳

広島市医師会 SARS 研修会

2003年7月15日，広島市

33) 中国における SARS

大石 和徳

トロピ会講演会

2003年7月16日，長崎市

34) Gene controlling susceptibility to malaria

Hirayama Kenji

タマサート大学（タイ国）保健科学部特別講演

July 16th, 2003, Thammasart University, Bangkok, Thailand.

35) 重症急性呼吸器症候群（SARS）

永武 毅

佐賀県医師会内科医部会講演会

2003年7月17日，佐賀市

36) 民意の反映と行政の再生

溝田 勉

九州監査委員会事務局

2003年7月17日，長崎

37) 新型肺炎 SARS の実態～感染禍・北京からの報告

渡邊 浩

長崎市歯科医師会 医療管理講演会（SARS 対策講演会）

2003年7月28日，長崎市

38) 産業医のための呼吸器感染症の外来治療～耐性菌の今日の問題と対応～

永武 毅

館林市邑楽郡医師会学術講演会

2003年7月31日，館林市

39) 中国に学ぶ SARS への対応～中国に於ける調査レポート～

渡邊 浩

緊急学術講演会

2003年7月31日，熊本市

40) 比較健康教育学

溝田 勉

神戸大学発達科学部

2003年8月4日 - 6日，神戸

41) 熱帯性出血熱の恐怖

森田 公一

平成15年度高校生公開講座（長崎大学医学部）

2003年8月12日，長崎市

42) SARS について

森田 公一

ローターリークラブ講演会

2003年8月18日，長崎市

43) SARS の臨床と院内感染対策

渡邊 浩

県立日南病院講演会

2003年8月22日，日南市

44) 自他に “可能性を伸ばす” マネジメントのお手伝い

溝田 勉

長崎地区高等学校教頭会

2003年8月25日，長崎

45) 呼吸感染症の予防治療 風邪から SARS まで

教授 **永武 毅**

大隅地区学術講演会

2003年8月28日，鹿屋市

46) SARS の院内感染対策

助教授 **大石 和徳**

平成15年度院内感染対策研究会（薬剤師・臨床検査技師）

2003年9月3日，熊本市

47) 寄生虫学総論・熱帯医学概論

青木 克己

京都大学医学部特別講義

2003年9月8日，京都

48) 蜂刺症とマムシ咬症の対策

鈴木 博

長崎産業保健推進センター産業保健セミナー

2003年9月9日，佐世保市

49) 呼吸感染症を理解する為に

教授 **永武 毅**

杏林製薬社員勉強会

2003年9月10日，福岡市

- 50) 蜂刺症とマムシ咬症の対策
鈴木 博
長崎産業保健推進センター産業保健セミナー
2003年9月10日, 長崎市
- 51) 熱帯医学とケニアに於ける住血吸虫症対策
青木 克己
九州大学医学部特別講義
2003年9月12日, 福岡
- 52) 「呼吸器感染症の治療と予防」 院外感染と院内感染の今日的問題と対応
永武 毅
第1回神戸 MOF (Medical Oncology Forum)
2003年9月11日, 神戸市
- 53) 中国から学んだ SARS 対策
大石 和徳
第11回長崎救急医学会
2003年9月13日, 大村市
- 54) WTO (世界貿易機関) とその事業活動が我が国に果たしている役割 (I)
溝田 勉
放送大学長崎学習センター
2003年9月13日, 長崎
- 55) 中国の経験から学ぶ SARS 対策
大石 和徳
佐世保市薬剤師会学術講演会
2003年9月18日, 佐世保市
- 56) 中国の経験から学ぶ SARS 対策
大石 和徳
第9回長崎県呼吸ケア研究会
2003年9月20日, 長崎市
- 57) WTO (世界貿易機関) とその事業活動が我が国に果たしている役割 (II)
溝田 勉
放送大学長崎学習センター
2003年9月20日, 長崎
- 58) 呼吸器感染症における抗菌化学療法の今日的問題と対応

永武 毅

京都薬科大学京薬会

2003年9月21日，京都

59) 国際協力

溝田 勉

IATSS フォーラム

2003年9月26日，三重

60) WTO (世界貿易機関) とその事業活動が我が国に果たしている役割 (Ⅲ)

溝田 勉

放送大学長崎学習センター

2003年9月27日，長崎

61) 呼吸器感染症の治療・予防～上気道から下気道の関わり～

永武 毅

第22回和歌山感染症化学療法研究会

2003年9月27日，和歌山市

62) 西ナイルウイルス感染症と診断

森田 公一

栄研化学研修会

2003年9月30日，東京都

63) 呼吸器感染症の予防と治療～風邪から SARS まで～

永武 毅

新潟県医師会学術講演会

2003年10月3日，柏崎市

64) 栄養疫学Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

門司 和彦

県立長崎シーボルト大学講義

2003年10月3日・17日・24日，長崎

65) 重症急性呼吸器症候群 (SARS) の今日の問題と対応

インフルエンザと対比して

永武 毅

愛媛県医師会 平成15年度 (第2回) 日本医師会生涯教育講座

2003年10月4日，松山市

66) 西ナイル脳炎

森田 公一

日本熱帯医学会教育講演

2003年10月11日，北九州市

67) NPO と市民生活

溝田 勉

活水女子大学

2003年10月11日 長崎市

68) 呼吸器感染症における今日の問題と予防・治療

～ 小児から高齢者まで～

永武 毅

八幡小児科医師会

2003年10月15日，北九州市

69) SARS 再来に備えて

大石 和徳

長崎県社会保険支払基金ミニ講演会

2003年10月20日，長崎市

70) 重症急性呼吸器症候群（SARS）の出現と拡大

森田 公一

佐世保共催病院研修会

2003年10月20日，佐世保市

71) 中国における SARS について

渡邊 浩

琉球大学総合講義

2003年10月29日，沖縄

72) 地球の時代を生きる（Ⅰ）

溝田 勉

長崎純心大学

2003年10月29日，長崎市

73) 中国から学ぶ SARS 対策

渡邊 浩

第88回静岡胸部疾患学術講演会

2003年11月1日，静岡市

74) ヘルスケア論 米国と日本におけるヘルスケアマーケットの現状と課題

古川 孝明

長崎県立大学 経済学部講義

2003年10月4日, 11日, 25日, 佐世保市

75) 外来性のウイルス感染症 - SARS を含めて -

森田 公一

水俣市葦北郡医師会学術講演会

2003年11月5日, 水俣市

76) 中国に学ぶ SARS への対応

渡邊 浩

九州厚生年金病院救急医療懇話会

2003年11月7日, 北九州市

77) SARS 感染対策の実際

大石 和徳

第5回国立大学医学部附属病院感染対策協議会

2003年11月7日, 福岡市

78) 重症急性呼吸器症候群 (SARS)

大石 和徳

輸入感染症研修会

2003年11月8日, 東京都

79) 熱帯医学 - アフリカにおける住血吸虫症 -

嶋田 雅暁

京都府立医科大学

2003年11月10日, 京都

80) SARS とこの冬のインフルエンザ

大石 和徳

ニッポン放送 ラジオ健康講座「健康ワンポイント」

2003年11月10日～14日放送

81) 呼吸器感染症における今日の問題と治療・予防

永武 毅

高崎市医師会学術講演会

2003年11月14日, 高崎市

82) 地球規模寄生虫制圧戦略：橋本イニシアチブ

青木 克己

平成15年度第4回長崎県西彼杵郡医師会生涯教育講演会

2003年11月18日，長崎

83) 地球の時代を生きる (II)

溝田 勉

長崎純心大学

2003年11月19日，長崎

84) 国連・ユニセフの活動を通してみる女性の役割

溝田 勉

長崎純心大学

2003年11月20日，長崎

85) 呼吸器感染症の今日の問題と治療・予防

永武 毅

金沢市学術講演会

2003年11月21日，金沢市

86) 熱帯寄生虫病の生態疫学アプローチ

嶋田 雅暁

産業医科大学大学院講義

2003年11月21日，北九州

87) 寄生虫疾患のコントロール

嶋田 雅暁

産業医科大学産業医学研修コース講義

2003年11月21日，北九州

88) 中国での SARS 対策の現状

渡邊 浩

平成15年度第2回安全管理研修会

2003年11月25日，長崎市

89) SARS の出現と対応

森田 公一

岡山県 SARS 講習会，

2003年11月29日，岡山市

90) Pathology of NASH

Toriyama, K.,

Pathology of NASH. Dept. of Internal Medicine, Chiang Mai University

August 11, 2003, Chiang Mai, Thailand

91) 外来性ウイルス感染症，SARS を中心に

森田 公一

長崎市耳鼻科医会クリニカルイブニング

2003年12月3日，長崎市

92) 呼吸器感染症の予防・治療～今日の問題と対応～

永武 毅

観音寺市・三豊郡医師会学術講演会

2003年12月4日，観音寺市

93) 途上国におけるコミュニティ保険の可能性

古川 孝明

AMUDA 兵庫研修会

2003年12月6日，神戸市

94) 今年の冬場の感染症対策

大石 和徳

宮崎市医師会学術講演会

2003年12月11日，宮崎市

95) 初期対応医療機関における SARS の対応

大石 和徳

福岡県医師会勤務医部会委員会・病院委員会合同研修会

2003年12月12日，福岡市

96) SARS 感染対策 中国における対策の実際と臨床現場における留意点

渡辺 浩

宮城感染コントロール研究会第7回講習会

2003年12月13日，仙台市

97) 医療事故の現状と問題点

古川 孝明

IT における医療・介護支援システム研修会

2003年12月15日，長崎市

98) 呼吸器感染症治療における今日の問題と対応

永武 毅

横須賀医師会学術講演会

2003年12月18日，横須賀市

99) 呼吸器感染症の治療と予防 小児から高齢者まで

永武 毅

第2回広島呼吸器感染症研究会

2003年12月19日, 広島市

100) SARS 再来に備えて

大石 和徳

福岡県病院協会講演会

2003年12月20日, 福岡市

101) ヘルストランジションにかんする理解とその教育

門司 和彦

東京大学医学部 健康科学・看護学科講義

2004年1月6日, 東京

102) IT を使った医療事故防止対策

古川 孝明

ITにおける医療・介護支援システム研修会

2004年1月14日, 長崎市

103) 寄生虫感染症重症化遺伝子

平山 謙二

東京医科歯科大学特別講義

2004年1月16日, 東京,

104) SARS 再来に備えて

大石 和徳

第5回筑後感染症カンファランス

2004年1月23日, 久留米市

105) 中国に学ぶ SARS の臨床とその対応

渡辺 浩

南大阪呼吸器疾患・腫瘍勉強会

2004年1月24日, 堺市

106) SARS 感染症について 対策とアジアの現状

渡辺 浩

国立嬉野病院 感染症セミナー

2004年1月28日, 佐賀県

107) この冬の呼吸器感染症対策

大石 和徳

東彼杵郡医師会学術講演会

2004年1月28日，長崎県川棚町

108) 西ナイルウイルスについて

森田 公一

第17回公衆衛生情報研究協議会研究会

2004年1月29日，長崎市

109) 熱帯医学概論・住血吸虫症対策

青木 克己

東京医科歯科大学医学部特別講義

2004年1月30日，東京

110) 中国肺炎に学ぶ SARS 対策

渡辺 浩

第25回 十勝地区呼吸器疾患研究会

2004年1月30日，帯広市

111) SARS 感染対策の実際

大石 和徳

病院感染対策フォーラム

2004年1月31日，福岡市

112) 人・風土・疾患，ケニア内陸部を例に

鳥山 寛

第28回日本熱帯医学会九州支部大会：シンポジウム2：「エキスパートが語る熱帯地域におけるフィールド研究の魅力」

2004年1月31日 - 2月1日，大分

113) 呼吸器感染症の治療・予防の問題点

大石 和徳

宇都宮市医師会学術講演会

2004年2月6日，宇都宮市

114) 呼吸器感染症の今日の問題と治療・予防

永武 毅

秋田市医師会学術講演会

2004年2月13日，秋田市

115) SARS の疫学と診断

森田 公一

平成15年度長崎県結核及び感染症（SARS）研修会

2004年2月14日，時津町

116) 最近問題となっている新興ウイルス感染症について

大石 和徳

十善会病院講演会

2004年2月17日，長崎市

117) 衛生動物をめぐる最近の話題蚊学の世界から

高木 正洋

第39回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会

2004年2月17日，大野城

118) 呼吸器感染症の今日的問題と治療・予防

永武 毅

北九州市医師会学術講演会

2004年2月19日，北九州市

119) 環境と生物

鈴木 博

第39回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会，福岡県大野城市

2004年2月20日

120) 冬の感染症対策について～インフルエンザから新型肺炎まで～

永武 毅

平成15年度 自治体病院・診療所担当者研修会

2004年2月21日，長崎市

121) SARS の現状

森田 公一

阪大微研会観音寺研究所講演会

2004年2月25日，香川県観音寺市

122) 熱帯医学研究所・WHO 研究協力センターについて

森田 公一

WHO 研究協力センター長会議

2004年3月2日，東京

123) 呼吸器感染症の治療・予防策の問題点

大石 和徳

福岡市内科医会学術講演会

2004年3月5日, 福岡市

124) 国際保健における健康危機管理の現状と課題

125) **溝田 勉**

神戸大学発達科学部

2004年3月6日, 神戸

126) ウエストナイルウイルス感染症

森田 公一

福岡県平成15年度結核・感染症発生動向調査研修会

2004年3月13日, 福岡市

127) 呼吸器病原性肺炎球菌の現状

吉嶺 裕之

トロピ会講演会

2004年3月18日, 長崎市

128) ヒトの感染症に対する感受性遺伝子

Hirayama Kenji

ホーチミン市パスツール研究所 (ベトナム) 特別講演

March 24th, 2004, Pasteur Institute HochiMinh City, HochiMinh City, Vietnam.

129) How to Say から How to Do ! へ

溝田 勉

四国地区ロータリー・クラブ

2004年3月26日, 香川

130) 新興感染症の現状 - 西ナイル熱・脳炎を中心として

森田 公一

日本薬学会第124年会シンポジウム

2004年3月29日 (29~31日), 大阪

11 主要な研究設備

- | | | | |
|----|-------------------|----|-------------------------|
| 1 | バイオハザード セーフティーフード | 24 | レーザースキャン顕微鏡 |
| 2 | 環境制御実験装置 | 25 | 医用サーモグラフィ装置 |
| 3 | 超マイクロトーム | 26 | 蛋白細胞相互作用解析システム |
| 4 | 回転電動万能マイクロトーム | 27 | 白血球機能解析システム |
| 5 | 分析電子顕微鏡システム | 28 | 核酸蛋白質解析合成システム |
| 6 | クリスタットマイクロトーム | 29 | 宿主・寄生体相互作用解析システム |
| 7 | 反射型蛍光顕微鏡 | 30 | プラスミド自動分離調整システム |
| 8 | ウルトラマイクロトーム | 31 | 遺伝子検出システム |
| 9 | 落射蛍光位相差顕微鏡 | 32 | 高分解能核磁気共鳴装置 |
| 10 | 分離用超遠心機 | 33 | 感染症病原性解析システム |
| 11 | 真空高速冷却遠心機 | 34 | コロニーアナライザー画像解析装置 |
| 12 | クリオスタット | 35 | 熱帯性病原体成分機能解析システム |
| 13 | 万能倒立顕微鏡 | 36 | NMR 測定用生体管理装置 |
| 14 | 走査電子顕微鏡装置 | 37 | 多機能ぜん虫行動解析システム |
| 15 | プロテインシステム | 38 | 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム |
| 16 | 生態機能解析装置 | 39 | 蛋白質精製システム |
| 17 | 高圧蒸気滅菌装置 | 40 | 病原性ウイルス遺伝子及び蛋白質機能解析システム |
| 18 | 病理組織標本作製システム | 41 | 自動炭酸ガス細胞培養装置 |
| 19 | 超高速ビデオ | 42 | 超遠心機 |
| 20 | DNA シンセサイザーシステム | 43 | 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム |
| 21 | 微生物全自動増殖解析装置 | 44 | 生物顕微鏡 |
| 22 | 細胞自動解析分離システム | 45 | 細菌毒素活性測定解析システム |
| 23 | 原虫遺伝子 DNA 解析システム | | |

12 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときに Tropical Medicine (熱帯医学) と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成14年度年次要覧は平成15年10月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所 Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内および外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内 (A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University) が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成15年度版は7月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成14年度の報告集は、平成15年8月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成15年度（2003）

平成16年11月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所
附属熱帯感染症研究センター

発行者：長崎大学熱帯医学研究所
〒852 8523 長崎市坂本1丁目12-4
☎(095)849 7800（総合案内）

印刷所：株式会社 昭和堂
〒850 0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル
☎(095)821 1234